

N° 6997 / XXIV

14  
561

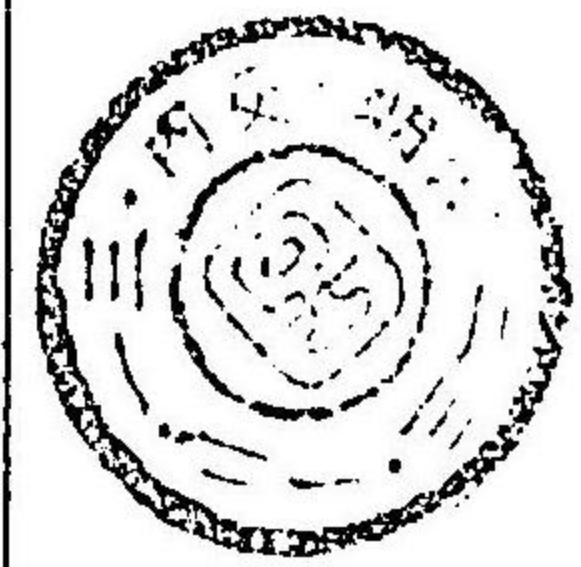
佛國

商

法講義

前部

日本  
佛國  
法律學士岸本辰雄君講述



版權所有

特別認可  
立私明治法律學校  
講法會出版

佛國商法講義前部目次

總論

第一編 一般ノ商事

第一卷 商人

○商人ト非商人トヲ區別スルノ利益 六十二丁

○商事ト民事トヲ區別スルノ利益 六十六丁

○帳簿ノ制裁 七十三丁

○帳簿ノ効力 七十三丁

○帳簿ノ檢視 七十七丁

單記簿法 八十丁

複記簿法 八十二丁

目次

第三卷 會社

二

一般會社ノ總論

八十五丁

○一般ノ會社契約ニ必要ナル條件

八十五丁

○會社ト財産共有トノ差違

八十六丁

○商事會社ト民事會社ノ區別

百一丁

○商事會社ト民事會社ヲ區別スルノ利益

百五丁

益

百六丁

○會社ヲ無形人ト認ムルノ理由及其可否

百十丁

○會社ヲ無形人ト爲スノ結果

百十六丁

商事會社

第一章 會社ノ種類及ヒ其定義

百二十一丁

八

九

第二章 合名會社

第一款 合名會社ノ性質

百二十三丁

第二款 合名會社ノ設立

百三十七丁

第三款 合名會社ノ管理

百二十九丁

第三章 差金會社

百三十四丁

第一款 通常差金會社

百三十四丁

第一節 通常差金會社ノ性質

百三十六丁

第二節 通常差金會社ノ創立

百四十一丁

第三節 通常差金會社ノ管理

百四十一丁

第二款 株式差金會社

百四十四丁

第一節 株式會社ノ大意

百四十五丁

○株主ノ募集スルヲ

百四十五丁

目次

三

○株式ノ均一 百四十八丁

○株式ト持分トノ差違 百五十丁

○株券ノ種類 百五十五丁

○株主ノ權利 百六十一丁

○株券ト債券トノ差違 百六十四丁

第二節 株式差金會社ノ沿革 百六十八丁

第三節 株式差金會社ノ性質 百七十一丁

第四節 株式差金會社ノ設立 百七十二丁

○株式ヲ賣買スルヲ 百七十七丁

○記名券ヲ無記名券ニ變換スル 百七十八丁

第五節 株式差金會社ノ管理 百八十五丁

第四章 無名會社一名株式會社 百九十四丁

第一款 無名會社ノ性質 二百二丁

第二款 無名會社ノ設立 二百四丁

第三款 無名會社ノ管理 二百十九丁

第五章 共分組合 二百二十四丁

第六章 資本増減會社 二百三十五丁

第七章 會社ノ証據及ヒ其公告 二百四十一丁

第八章 會社ノ解散 二百五十一丁

第九章 會社ノ精算 二百五十三丁

第十章 會社財産ノ分派 二百五十六丁

第十一章 裁判管轄 二百五十九丁

第十二章 免除時効 二百五十九丁

第四卷 財産ノ分離

二百六十二丁

○婚姻契約ヲ廣告スルノ時期及方法

二百六十五丁

第五卷 商人集會所、手形賣買世話人、商業世

話人

第一章 商人集會所

二百六十八丁

第二章 手形賣買世話人、商業世話人

手形賣買世話人、商業世話人ノ性質及ヒ任命

二百七十三丁

手形賣買世話人及ヒ商業世話人ノ權限

二百七十八丁

手形賣買世話人及ヒ商業世話人ノ義務

二百八十六丁

第六卷 質及ヒ仲買人

二百九十二丁

第一章 質

二百九十三丁

十二

十三

質入ノ方法即チ其證據ノ事

二百九十四丁

質物ヲ處分スルノ方法

二百九十九丁

○共同倉庫

二百三三丁

荷預證及ヒ質入證

三百七丁

荷預證處持人ノ權利

三百八丁

質入証所持人ノ權利

三百九丁

第二章 仲買人

三百十一丁

仲買人ト代理人トノ差違

三百十三丁

仲買契約ノ結果

三百十五丁

仲買人ノ特權

三百二十五丁

第三章 水陸運送仲買人

三百二十八丁

水陸運送仲買人ノ性質

三百二十八丁

目次

七

運送契約ノ証據 三百三十二丁

水陸運送仲買人ノ義務 三百三十三丁

差立タル商品ノ危険 三百三十六丁

第四章 運送人

運送人ノ性質 三百三十八丁

運送人ノ義務 三百四十丁

運送人ノ權利 三百四十三丁

不受理及期滿免除 三百四十五丁

第七卷 賣買

商事上ノ賣買 三百四十七丁

當座勘定 三百四十八丁

三百五十二丁

第八卷 爲替手形及ヒ約束手形 十四

總論 三百六十四丁

爲替手形ノ解 三百六十八丁

爲替手形ノ効用 三百七十五丁

爲替相場ノ高低ノ原因 三百八十七丁

第一章 爲替手形

第一款 爲替手形ノ法式 三百八十七丁

手形ニ記載スル隨意ノ條件 四百十一丁

爲替手形ノ變シテ約束手形トナル 四百十九丁

場合

第二款 爲替資金 四百二十六丁

○爲替資金ノ所有權 四百三十六丁

第三款 引受 四百四十六丁

目次 九

引受ノ法式	四百四十九丁
引受ノ結果	四百五十三丁
引受拒	四百五十六丁
第四款 名譽引受	四百六十二丁
名譽引受ノ法式及ヒ條件	四百六十三丁
名譽引受ノ結果	四百六十七丁
第五款 辨濟期限	四百六十八丁
第六款 裏書	四百七十四丁
○白地裏書	四百九十一丁
第七款 連帶義務	四百九十六丁
第八款 手形保証	四百九十九丁
第九款 辨濟	五百四丁

第十款 榮譽支拂	五百二十一丁
榮譽支拂人ノ權利	五百二十一丁
第十一款 手形所持人ノ權利及ヒ義務	五百二十六丁
○償還ヲ爲シタル義務者ノ權利	五百三十三丁
第十二款 拒證書	五百三十五丁
第十三款 逆爲替	五百三十九丁
逆爲替手形ノ法式	五百四十四丁
○引出切手	五百五十七丁
引出切手ノ方式	五百五十七丁
引出切手ト爲替手形トノ差違	五百六十一丁
第二章 約束手形	五百七十三丁
住所拂手形	五百七十六丁

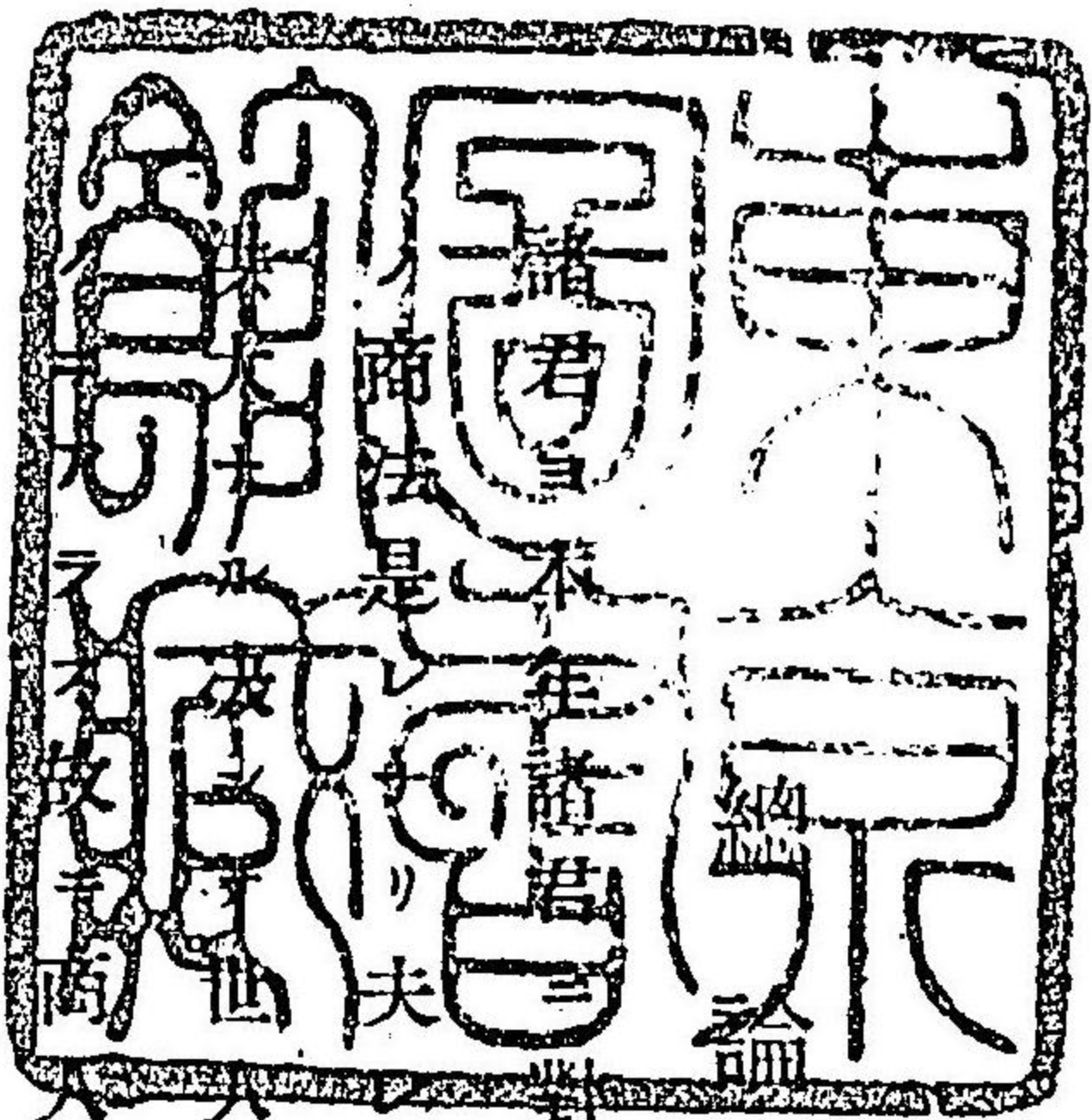
佛國商法講義前部目次畢

十六下

佛國商法講義



佛國大學法律學士 岸本辰雄君講述



諸君、本在諸君ニ對シテ余ノ將ニ講說セントスル法律ハ則チ佛蘭西  
 商法ニ關スル法律ニシテ其範圍ノ  
 推想スル如ク唯商人一部ヲ支配スルノミノモ  
 ハ勿論代言人裁判官立法官其他荷モ邦國ノ經濟  
 ニ着目スル者ハ必ス當ニ注意シテ之ヲ研究セサル可カラサルナリ夫  
 レ法律ノ一語ハ本邦ノ習慣唯刑事ノ一端ヲ稱スルニ止リテ殆ント他  
 ニ法律ノ在ルアルヲ知ラサルカ如キ觀ヲナセシカ漸ク歐米舶載ノ効

商法

一



ニ依リ刑法治罪法ヲ始メ其他諸法律ノ區別アリテ狹隘ナル語ニアラサルヲ了知シ特ニ民法ノ如キハ本邦未タ其法典ヲ確定スルニ至ラスト雖モ早已ニ世人ノ認ル所ト爲リ喋々之ヲ論辯シテ速ニ之レカ創定ヲ希望スルニ至レリ然レトモ商法ニ至テハ闕トシテ未タ言語ニ發露スルモノアラサルナリ蓋シ之アルモ寥寥トシテ稀レニ聞クアルノミ歐洲ニ在テハ既ニ已ニ他ノ諸法律ト并行シテ是非得失ノ論畧歸スル所アリ我政府ニ於テモ亦タ商法典創定ノ舉アル蓋シ遠カラスト云フ其利益亦タ僅少ナラサル可シ今ヤ商法ヲ講スルニ先チ余ハ總論中ニ於テ商法ノ必要ナル所以ト又法學者諸君ノ爲メ佛國商法ヲ學フノ利益僅少ナラサル所以ト陳述シテ然ル後本編ニ入ラントス抑モ商法ノ社會ニ必要ナル所以ヲ知ラント欲セハ商賣ノ人世ニ必要ナルヤ否ヤノ一點ヲ見テ以テ斷定スルヲ得可キナリ蓋シ社會全般ニ

着眼シテ私カニ其狀態ヲ想視スルニ吾人日常ノ所作ハ生産消費媒介ノ三業ニ區分セルカ如シ尤モ其三業ハ劃然分擔スルニ非ラス各自概テ其三業ノ性質ヲ負有スト雖モ然レモ其事ハ判然區別アリ即チ生産者ハ物品ヲ構造製作シテ社會ノ需用ニ供シ消費者ハ之ヲ費用消費シテ各自ノ欲望ヲ充セリ夫レ然リ需用ト供給ハ生産者ト消費者ノ間ニ於テ完備スルヲ以テ二者相對スルモ他ノ媒介ヲ要セサルカ如シト雖モ若シ甲地ノ製造品ヲ以テ乙地住人ノ需用ニ供シ或ハ東都ノ產物ヲ以テ西京ニ輸送スル如キニ至テハ其中間ニ立テ之ヲ媒介周旋スル者アルニ非サレハ充分ノ利用便達ヲ盡ス能ハスシテ遂ニ各人日常ノ使用品ニ不足ヲ訴ヘ物貨自ラ高騰シテ容易ニ生活ヲ營ム能ハサルニ至ル可シ其故如何トナレハ自ラ製造シテ自ラ運送スルモハ爲メニ多額ノ賃銀ヲ空費セサル可ラス是レ物價ヲ騰貴セシムルモノニシテ不

ニ依リ刑法治罪法ヲ始メ其他諸法律ノ區別アリテ狹隘ナル語ニアテ  
 カルコチ了知シ特ニ民法ノ如キハ本邦未タ其法典ヲ確定スルニ至ラ  
 スト雖モ早已ニ世人ノ認ル所ト爲リ喋々之ヲ論辯シテ速ニ之レカ創  
 定ヲ希望スルニ至レリ然レトモ商法ニ至テハ闕トシテ未タ言語ニ發  
 露スルモノアラサルナリ蓋シ之アルモ寥寥トシテ稀レニ聞クアルノ  
 ミ歐洲ニ在テハ既ニ已ニ他ノ諸法律ト并行シテ是非得失ノ論畧歸ス  
 ル所アリ我政府ニ於テモ亦タ商法典創定ノ舉アル蓋シ遠カラスト云  
 フ其利益亦タ僅少ナラサル可シ今ヤ商法ヲ講スルニ先チ余ハ總論中  
 ニ於テ商法ノ必要ナル所以ト又法學者諸君ノ爲メ佛國商法ヲ學フノ  
 利益僅少ナラサル所以トチ陳述シテ然ル後本編ニ入ラントス  
 抑モ商法ノ社會ニ必要ナル所以チ知ラント欲セハ商賣ノ人世ニ必要  
 ナルヤ否ヤノ一點チ見テ以テ斷定スルチ得可キナリ蓋シ社會全般ニ

着眼シテ私カニ其狀態ヲ想視スルニ吾人日常ノ所作ハ生産消費媒介  
 ノ三業ニ區分セルカ如シ尤モ其三業ハ劃然分擔スルニ非ラス各自概  
 チ其三業ノ性質ヲ負有スト雖モ然レモ其事ハ判然區別アリ即チ生産  
 者ハ物品ヲ構造製作シテ社會ノ需用ニ供シ消費者ハ之ヲ費用消耗シ  
 テ各自ノ欲望ヲ充セリ夫レ然リ需用ト供給ハ生産者ト消費者ノ間ニ  
 於テ完備スルヲ以テ二者相對スルキハ他ノ媒介ヲ要セサルカ如シト  
 雖モ若シ甲地ノ製造品ヲ以テ乙地住人ノ需用ニ供シ或ハ東都ノ產物  
 チ以テ西京ニ輸送スル如キニ至テハ其中間ニ立テ之ヲ媒介周旋スル  
 者アルニ非サレハ充分ノ利用便達ヲ盡ス能ハスシテ遂ニ各人日常ノ  
 使用品ニ不足ヲ訴ヘ物貨自ラ高騰シテ容易ニ生活ヲ營ム能ハサルニ  
 至ル可シ其故如何トナレハ自ラ製造シテ自ラ運送スルキハ爲メニ多  
 額ノ賃銀ヲ空費セサル可ラス是レ物價ヲ騰貴セシムルモノニシテ不

便ノ一原因ナリ又遠隔ノ地ト競争販賣ノ手段ナキカ故ニ專賣ノ弊窩  
 ニ陥リ易シ是レ其第二ナリ又競争販賣ノ手段ナキカ故ニ生産品自ラ  
 粗造ニ流ル、ニ至ル是レ其品位ヲ下シテ間接ニ其價額ヲ騰貴セシム  
 ル第三ノ不便ナリ夫レ此三箇ノ不便アリ容易ニ物品ヲ交換シ且賣買  
 スル能ハサルナリ加之ナラス有形物交換ノ不便利ナルキハ隨テ亦タ  
 無形物ノ交換モ自ラ疎遠ニ至ル是レ自然ノ理ナリ既ニ物品ヲ交換ス  
 ル能ハサルキハ又タ智識ヲ開達シテ文明ニ進歩スル能ハサル可シ故  
 ニ媒介ノ必要ナルハ生産ノ必要ナルト一般ニシテ物件交換ニ必ス媒  
 介ヲ要スルハ猶ホ彼ノ柯ヲ伐ルニ必ス斧ヲ要スルカ如シ媒介ハ即チ  
 商賣ナリ夫レ商賣ノ人生ニ必要ナル此ノ如シ苟モ必要ナル商賣アリ  
 テ而シテ之ヲ規律スル法則ナキキハ其弊害亦タ媒介ナキノ不便ト相  
 擇ハス寧ロ商賣ナキノ煩ヲ省クニ若カサルナリ夫レ商賣モ亦人間ノ

所作ナリ苟モ人間ノ所作ナルキハ之ヲ經營スルノ際普通ノ人情ヲ離  
 レテ獨リ正ヲ守ル能ハサル可シ首ヲ回ラシテ社會ノ形況ヲ見ルニ人  
 心自ラ利益ニ趨テ道德ヲ顧ルニ違アラス且人間ノ生活ヲ計ルニハ必  
 ス利益ヲ求メサル可ラス唯タ其正當ノ利益ヲ計ルハ即チ人類社會ノ  
 一大要義ナリ故ニ商賣上ニ關スル法則ヲ設ケテ之ヲ規律セサル可ラ  
 ス否ラサレハ遂ニ言フニ忍ヒサルノ弊害ヲ生スルモ亦タ知ル可ラス  
 則チ狡猾貪婪只欺騙ヲ事トシ詐僞ヲ業トシ商賣ノ衰頽ヲ顧ミサルニ  
 至ラン歎諺ニ曰ク邦國ノ盛衰ハ商工ノ盛衰ニ在リト予輩亦タ云ント  
 ス商賣ノ盛衰ハ其法律ノ良否ニ在リト嗚呼商法モ亦必要ナル哉或人  
 曰ク商法ノ必要ナル或ハ然ラン然レモ世ニ民法ナルモノアリ之ヲ兼  
 用セハ則チ可ナラン商賣人モ人ナリ予輩モ亦タ人ナリ宜シク彼我共  
 ニ同一法ヲ以テ支配ス可シ何ソ殊更ニ商法ヲ設クルヲ要センヤト然

レハ商業上ノ事ハ民事ノ一法ヲ以テ支配スル能ハサルモノアリ抑モ  
 商業ニハ必需欠ク可ラサル三箇ノ要件アリ則チ信用、迅速、安全、是ナリ  
 此三者ハ實ニ商法ノ精神トモ稱ス可キ要件ナリ然ルニ此要件ノ完全  
 ナラサル民法典ヲ以テ活潑ナル商事ヲ支配スルキハ取引上自ラ澁滯  
 ナ來タシ遂ニ商業上必ス衰頽ヲ招クニ至ラン蓋シ商業上互ニ信用ヲ  
 得安心シテ迅速ニ取引ヲ爲スヲ得セシムルハ則チ商法ノ主眼ニシ  
 テ亦タ商法ノ庇蔭ト云ハサル可ラス因テ其三要件ノ主旨ヲ左ニ概論  
 セン

第一信用 此一點ニ付テハ民法ト商法ノ間實ニ大ナル差違アリ看ヨ  
 民法上ニ在テ契約ヲ爲ス如キハ誠ニ僅少ナルヲチ之チ人間ノ状態ヨ  
 リ論スルキハ民法上ノ契約ハ殆ント非常ノ所爲ニシテ所謂例外ノ措  
 置ト云ハサル可ラスヨシヤ契約ヲ爲スノ要アルモ必ス對談以テ其手

續チナシ熟議ノ上之ヲ舉行ス可シ敢テ甲乙遠隔ノ地ニ於テ火急ノ契  
 約ヲ爲ス如キハ絶無ト稱スルモ亦タ不可ナカル可シ而シテ質入又ハ  
 書入等ニ由リ金錢貸借ノ契約ヲ爲ス如キハ信用其人ニアラスシテ寧  
 ニ其物品ニ在リト云フ可シ固ヨリ其人ニ就テノ信用ハ獨リ商業ノミ  
 ナラス民事ニ於テモ無用ナリト云フニハアテサレハ商業ノ如キ甚シ  
 キモノニ非サルナリ則チ商業上ニ在テハ或ハ賣リ或ハ買ヒ繼ニ一事  
 ノ取引ヲ完了スレハ忽チ又一事ノ生スルアリ新陳交互取引上日々數  
 十百回ノ契約ヲ爲サ、ル可ラス且取引ハ迅速ヲ以テ第一トス然ルニ  
 商人タルモノ只タ自己所有ノ財産ノミヲ以テ民事ノ契約ニ於ケル如  
 ク其人ノ信用ヲ要セスシテ無數ノ取引ヲ爲シ得可キヤ否ヤ假令其所  
 有ノ全資本ヲ以テ取引スルモ大凡人ノ資力ハ限リアルヲ以テ苟モ商  
 業ノ隆盛ヲ期スルキハ必ス其財産外ノ資本ヲ使用シテ數倍ノ取引ヲ

爲サ、ル可ラス是レ只信用ノ一點ヲ以テ融通スルヲ得ルノミ若シ信用ナキハ何ヲ以テ所有外ノ資本ヲ運用スルヲ得ンヤ是レ民法ノ以テ商事ヲ支配スル能ハサル所以ナリ蓋シ其信用ヲ博スルハ其人ノ才不才ニ由ル可シト雖モ亦タ法則ヲ以テ之ヲ裨補セサル可ラス現ニ商業上ニ在テハ信用ヲ得ルノ厚キハ一時財産ヲ失ヒ身代ヲ傾クルノ不幸ニ陥ルモ尙ホ富豪ト稱スルヲ得可シ其故如何トナレハ則チ信用アル以上ハ財産ヲ生スルノ方法乃チ所有外ノ資本ヲ活用シテ商業ヲ營ムヲ得可ケレハナリ之レニ反シテ信用ナキハ一時資本ノ餘裕アルモ萬一之ヲ失フキハ到底其回復ヲ圖ルノ策ヲ得ル能ハサルナリ故ニ曰ク信用ハ商賣ノ一大要件ニシテ無形ノ資本ナリト然ラハ則チ信用ハ如何ナル方法ヲ以テ之ヲ繋キ且之ヲ博スルヲ得可キヤ請フ諸君商法一部ヲ緝テ之ヲ熟視セヨ此點ニ付テハ或ハ商人

チシテ商業帳簿ヲ保存スルノ義務ヲ負ハシメ或ハ財産目録帳ヲ製スルノ義務ヲ負ハシメリ其商業帳簿ニハ日々取引上ノ形況ヲ記載セルカ故ニ之ヲ一目セハ其損益ノ實否ヲ知ルニ足ル可ク又タ財産目録帳ニハ年々其人ノ財産ヲ詳細ニ記入セルヲ以テ一目シテ亦タ其身代ヲ熟知スルヲ得ヘシ斯ノ如ク其身代及取引上ノ實況等判明ナルヲ以テ人之ヲ信用シテ其取引ヲ爲スモ敢テ錯誤ヲ來スノ憂アラサルナリ若シ其帳簿上詐僞騙慢ヲ用ヰタルキハ相當ノ罰ヲ加フ是レ商法ノ以テ信用ヲ佑クル一端ナリ其他商人ノ發行スル爲替手形、約束手形、荷預証書、質入證書及其他諸切手等世上ニ信認セシムル爲メ法則ヲ以テ之ヲ規律シ之ヲ保證スルアリ或ハ銀行或ハ共同倉庫或ハ保險會社及其他ノ諸會社ニ付テモ亦タ特別ノ規則ヲ立テ商業ニ裨益ヲ與フルモノ鮮少ナラサルナリ今マ一々其例ヲ舉クルハ頗ル繁雜ニ堪ヘサルヲ以

テ爰ニ之ヲ畧スト雖モ要スルニ信用ノ商賣ニ最大必要ナルノ旨意ハ  
 以上ノ數件ニ於テ諸君モ既ニ了解セラレタルヲ信スルナリ  
 第二迅速 抑商賣上ニ於テハ日々數十ノ取引ヲ爲シ數百ノ契約ヲ爲  
 サル可ラス然ルニ若シ此許多ノ事件ヲ取扱フニ一々民事ノ法則ニ  
 從ヒ手數ヲ煩ハシ時日ヲ費スルハ常ニ取引上ノ滯滞ヲ來タシ忽チ商  
 賣ノ衰頽ヲ招クニ至ラン其害寧ロ媒介ナキノ不便ニ安スルノ愈レル  
 ニ若カサルナリ故ニ商賣ヲ尊重スル以上ハ契約ヲ爲シ又ハ契約ヲ証  
 スル爲メニ尤モ便利ナル特別ノ規則ヲ設ケテ容易ニ之ヲ爲スヲ得  
 セシメサル可ラス其要ハ則チ契約ヲ爲スニ付テハ一々證書ヲ用ヰス  
 唯々帳簿上ニ就テ直チニ契約ヲ爲スノ便ヲ得セシメ又甲乙遠隔ノ地  
 ニ於テ遽ニ取引ヲ爲シ且其支拂ヲ爲サント欲スルハ纒カニ二三ノ  
 文字ヲ記載シタル爲替手形、約束手形等ヲ以テ其用件ヲ辨スルヲ得

セシム可シ更ニ一步ヲ進メテ唯々口頭ノ約諾ヲ以テ其取引ヲ爲スノ  
 便ヲ得セシメサル可ラス歐米各國ニ於テ取引所ノ設ケアル所以ハ則  
 チ商賣上ノ迅速ヲ助クルノ力アルカ故ナリ蓋シ此取引所ニ於テハ委  
 任狀ヲ受授スルノ煩勞ナシシテ只々商業世話人ノ媒介ニ由リ契約ヲ  
 爲シ又ハ取引ヲ爲スノ便利アルモノナリ而シテ又商事ニ關スル訴訟  
 ハ特別ノ裁判所ヲ設ケ實際ニ於テハ別段ノ裁判所ヲ建設スルニ及ハ  
 スレハ時日ヲ費サス手數ヲ煩ハサス許多ノ費用ヲ要セシテ容易  
 ニ審判ヲ得ルノ捷徑ヲ得セシメサル可ラス是レ皆チ商賣ハ迅速ヲ貴  
 フチ以テ然ルノミ乃チ迅速モ亦商賣上ノ一大要件ト云フ可キナリ  
 第三安全 凡ソ商賣ハ信用ヲ以テ軀ト爲シ迅速ヲ以テ用ト爲スト雖  
 モ安全ナキハ各人心ヲ安シテ取引ヲ爲ス能ハス故ニ安全ハ第一第  
 二ノ要件乃チ信用ト迅速トヲシテ確實ナラシムルモノナルヲ以テ亦

商事ノ一要件ト云フ可キナリ其故如何トナレハ安全ナルニ非サレ  
 ハ信用ヲ得ル尤モ難クシテ且迅速ノ取引ヲ爲ス能ハス故ニ信用ヲ博  
 シ迅速ヲ助クルノ法律モ徒法ニ屬ス可レハナリ則チ商業取引所ノ設  
 ケアルハ亦タ是レ安全ヲ保ツノ一手段ナリ其故ハ則チ商人タルモノ  
 日々集會所ニ會合セハ唯タ内地ノミナラス世界萬國ノ新珍凡ソ商業  
 ニ關スル都テノ形況乃チ需求ノ多少相場ノ高低等ヲ聞知スルヲ得  
 可レハナリ(其詳細ハ他日之ヲ開陳ス可シ)又商法ニ於テハ明文アルニ  
 非スト雖モ義務者中連帶ノ義務アルヲ以テ常則トス是レ權利者ノ安  
 全ヲ助クルカ爲メナリ又破産處分ノ如キモ亦タ商法ニ於テハ最モ嚴  
 密ニシテ權利者ヲ保護スル實ニ公平ナリ其他例証ヲ歴舉セハ商法一  
 部ヲ縷述スルニ非サレハ盡ス能ハス要スルニ安全ハ亦タ信用ヲ博シ  
 迅速ヲ完フスルノ材料ト云フ可キナリ

右ノ如ク信用、迅速、安全ノ三件ハ實ニ商業上ノ最要件ニシテ須臾モ離  
 ル可ラサルナリ若シ此三要件中寸毫ノ欠クルアルキハ取引上便益ヲ  
 失フノミナラス又商業ノ衰頽ヲ來タシテ文明ヲ退步セシムルニ至ラ  
 ン苟モ商業ヲ必要トスル社會ニ在テハ此三要件ニ付キ專ラ注意ヲ加  
 ヘサル可ラス彼ノ歐米各國ニ於テ特別ニ商法典ヲ設爲スル所以ノモ  
 ノハ則チ此精神ニ基ツクモノナリ我政府モ亦タ爰ニ見ル所アリテ向  
 キニ農商務省ヲ創立シ次テ又タ商法編纂局ヲ置キ商法草案ヲ編制セ  
 ラレタルモ亦タ其意ニ出ルヤ知ル可キナリ果シテ然ラハ獨リ商人ノ  
 幸福ヲ増進スルノミナラス隨テ富國ノ基礎ヲ立ツルヲ得可ク實ニ予  
 輩ノ希望ヲ満足セシムルモノナリ雖然得隴望蜀ノ情ハ益甚シク余ハ  
 尙ホ一層爰ニ希望ヲ屬ス可キモノアリ乃チ序ヲ以テ之ヲ一言セン蓋  
 シ商法ノ精神亦タ民事ニ要ナシト爲サス然レモ各國ノ法律ヲ見ルニ

皆民事ノ法典ヲ定メ其支配スル能ハサル一部分ヲ保護スル爲メニ商法ヲ補設セリ則チ佛、獨、伊、和、白、等諸國ノ商法ノ如キ皆ナ是レナリ故ニ現今ノ商法ハ民法ノ例外ト云フ可キ歟畢竟現今行ハル、法律ハ各國多少ノ異同アリト雖モ要スルニ民事ヲ本トシテ商事ヲ末トシ以テ法律ヲ制定セリ予輩ノ希望スル所ハ全ク其反對ニ在リ則チ民商兩法ヲ合一シテ而シテ此三要件ニ基キ人民一般ニ適用スルヲ得可キ一法ヲ制定シテ其同一ニ支配スル能ハサル所ノ小部分ノニ商法ナリ民法ナリ特別ノ法則ヲ設ケ以テ之ヲ規律スヘシ之ヲ再言スレハ可及的民事一般ニ此精神ヲ移シテ日常便益ノ法ヲ制シ唯タ二三例外ノ特別法ヲ設ケ以テ之ヲ保護スヘシト云フニ過キサルナリ今一二ノ類例ヲ舉クレハ身代限リノ法ノ如キ佛國ニ於テハ商事ノ一部ハ詳細ニ規律スト雖モ民法ニ於テハ僅々二三ヶ條ヲ掲載スルニ過キス之ニ反シテ英

國ニ於テハ民商ヲ區別セシメテ之ヲ規律スト云フ凡ソ身代限リノ法律ハ權利者ニ安心ヲ與ヘ極メテ之ヲ同等ニ保護センカ爲メニシテ即チ取締ニ關スル法則ナレハ決シテ民事ト商事トヲ區別ス可カラサルナリ故ニ身代限リノ規則ハ商人ト非商人トヲ問ハス一般ノ人民ニ適用ス可キ普通ノ規則タラサル可カラス又會社法ノ如キモ商事ト民事ト區別ヲ要セサルナリ民事ト雖モ其業務多端ニシテ其活動モ異同アルナシ故ニ民商ヲ合シテ一ノ會社法ヲ制定セハ亦以テ一般人民ニ適用スルヲ得ヘシ又不動産ヲ目的トスル會社ハ何故ニ商事會社ニ非サルカ佛法ノ成規ハ之レヲ商法區域ヨリ拔出シテ之ヲ規律セリ予輩ハ何ノ理由アリテ然ルヲ知ラサルナリ是等ハ其場所ニ就テ亦タ詳論スヘシト雖モ凡ソ一般ニ適用スルヲ得ヘキモノハ民商ノ區別ヲ爲サズ一法ノ中ニ之ヲ包括シテ一般ニ適用スヘキナリ然シテ其例外トハ



何ッヤ商業帳簿又ハ商業取引所ノ如キモノ是レナリ抑モ帳簿又ハ取引所ノ如キハ獨リ商人ノミ之ヲ要シテ他ノ人民ハ之ヲ要セサルナリ然ルニ同一法ヲ以テ一般ノ人民ニ服從ノ義務ヲ負ハシムルハ亦タ至當ノ法ニ非サルナリ故ニ是等ノ類ハ例外トシテ帳簿法又ハ取引條例ヲ制定シテ商人一部ニ適施スヘシ夫レ此ノ如ク兩法ヲ併合シテ一法典ヲ制定シ且ツ彼ノ最要件ヲ精神トシテ制定シタル法律ヲ以テ一般人民ヲ支配スルキハ當ニ理論上ノ利益ノミナラス實際舉國ノ人民ヲシテ勞動上自然ニ活潑ノ精神ヲ養成セシメ遂ニ國家ヲシテ活動シ且ツ富強ナラシムルニ至ラン

是ヨリ商法ヲ學フノ必用ナル所以ヲ述ヘントス抑モ佛法ノ主義ニ依レハ商法ハ人民特別ノ關係ヲ規定スルモノニシテ民法ハ人民普通ノ關係ヲ規定スルモノナルカ故ニ商法ハ民法ニ對シテ例外ノ法則ナリ

故ニ民法ヲ學フニ付テハ商法ヲ知ラサルモ敢テ其不可ヲ視サルカ如シ又タ兩法ハ同ク人民相互ノ關係ヲ規定シタルモノニシテ只其末流ヲ異ニスルアルモ其源ハ同一ニシテ商法ノ基ク所ノ原理ハ則チ普通法タル民法ニシテ即チ民法ノ原則ヲ再述シタルニ過キサレハ既ニ民法ヲ學フ時ハ商法ハ自ラ解得シ得可ク別ニ之ヲ學フノ必用ヲ見サルカ如キ感ナキ能ハス然レニ是レ所謂門ニ入テ未タ其堂ニ昇ラサルノ皮相論淺見説ト云ハサル可カラス如何トナレハ民法ニハ往々只タ法ノ綱領ノミヲ掲ケテ商法ニ至リ之ヲ分拆解剖シテ其活用ヲ示シタル所多キヲ以テ其關係甚タ親密ニシテ獨リ其民法ヲ學フモ商法ヲ知ラサルキハ民法ヲ適用スルニ當テ膠柱鼓瑟ノ歎ヲ免レサレハナリ今マ其一二例ヲ舉グルニ會社法ノ如キハ民法ニ於テハ只會社ノ原則ヲ掲ケシノミナレニ商法ハ能ク之ヲ分拆シテ其細目ヲ示シ以テ其適用ヲ

知ラシムルカ如シ故ニ二法相俟タサレハ到底其明解ヲ得ル能ハサル  
 モノナリ其他代理、保證、連帶義務、特權、書入質等ノ如キ諸法ニ至テハ商  
 法ヲ學フニアラサレハ充分其活用ヲ知り其濫與ヲ極ムル能ハス其關  
 係ノ密ナル實ニ枚舉ニ遑アラサルナリ故ニ商法ヲ學フノ必用ナル畜  
 ニ商法學上ノミナラス民法ノ適用ヲ知ルニ於テモ亦大ニ必要ナリト  
 ス

且ツ諸君ニ於テハ佛蘭西商法ヲ學フノ殊ニ必要ナル理由アリ夫レ世  
 界ハ廣ク萬國ハ多ク隨テ商法ノ數モ亦夥多アル可シト雖モ要スルニ  
 其根原ハ只タ英及ヒ佛ノ二派アルノミ蓋シ民法ハ各國概シ其源ヲ羅  
 馬ニ取リシト雖モ商業ハ羅馬ノ風俗甚々之ヲ賤ミテ下等人民ノ爲ス  
 所トシ法律モ亦隨テ殆ント顧ミサリシヲ以テ之ヲ保護スル所ノ法律  
 モ亦隨テ備ハラサリシ故商法ハ之ヲ羅馬ニ取ル能ハサルナリ故ニ各

二

三

國現行ノ商法ハ概シ英佛二國ヲ以テ其根原ト爲ス然リト雖モ英國ハ  
 元來成文法ノ行ハレサル國ナルヲ以テ其各國ニ傳播スルコト少ク米國  
 其他二三ノ國ヲ除クノ外歐洲ノ大陸諸國ニ於テハ英法ヲ採ラス概シ  
 佛法ヲ以テ其模範ト爲セリ而シテ佛國商法ノ根原ハ概シ路易十四世  
 ノ朝コルベール氏ノ盡力ニ係ハル陸地商法、海上商法及ヒ商業ニ關スル  
 從來ノ勅令等ヲ蒐輯シタルモノニシテ各國ノ模範トナリシモノ乃チ  
 是ナリ本邦ニ於テ商法ノ編纂ヲ爲スニ當テモ泰西諸國ノ法ニ付キ其  
 萃ヲ拔キ其華ヲ撰ミ長短相折衷シテ完備ノ法ヲ制定セラル、ハ余輩  
 ノ決シテ疑ハサル所ナリト雖モ已ニ陳述シタル如ク各國ノ商法概シ  
 佛法ヲ以テ鼻祖ト爲スカ故ニ苟モ法律家タラント欲スルモノハ必ス  
 之ヲ知ラサル可ラサルナリ蓋シ諸君ノ佛國商法ヲ研究スルハ恰モ歐  
 洲ノ法學者ニシテ羅馬法ヲ研究セサル可カラサルカ如ク又日本刑法

ノ濫與ヲ究ムルニハ佛國ノ刑法ヲ講究セサル可カラサルカ如キト同  
 一般ニシテ今ノ佛國ノ商法ヲ學ヘハ必ス他日本邦商法ノ原因ヲ搜ク  
 ルニ當リ其裨補スル所決シテ少々ナラサル可シ

然リト雖モ現行ノ佛國商法ハ千八百七年代ノ制定ニ係ルヲ以テ社會  
 ノ進歩シ且商業ノ繁盛ナル今日ニ當テハ其需用ニ適セサル所多ク又  
 足ラサル所少ナカラサルカ故ニ爾後屢々特別ノ布告ヲ以テ漸次改正増  
 補ヲ加ヘタリ是故ニ此改正増補ノ布告モ亦タ併合スルニアラサレハ  
 定全ナル商法ト稱スル能ハサルナリ且吾人ノ所爲タル千体万狀ニシ  
 テ到底如何ナル法律ト雖モ盡ク之ヲ規律ス可キニ非サレハ商法ニ於  
 テモ其不備缺漏アルハ亦タ免レサル所ナルヲ以テ復々習慣及ヒ民法  
 等ヲ取り以テ之ヲ補綴セサル可ラス蓋シ習慣ハ公衆ノ默諾ヨリ成レ  
 ルモノナレハ恰モ法律規則ト同一ナル効力ヲ有ス可シト雖モ其完全

四

五

ナル効力ヲ有スルニハ必ス左ノ三箇ノ要件ヲ具備セサル可ラス否ラ  
 サレハ公衆ノ默諾ヨリ成レル習慣法ト云フヲ得ス

#### 一 普ク行ハレタルコト

如何ニ古キ慣習ト雖モ普ク行ハレサルモノハ法律タルノ効力ヲ生  
 セシムルコトヲ得ス但一地方ニ行ハレタル慣習ハ只タ其一地方ニ於  
 テノミ効力アルモノトス

#### 二 數回適用シタルコト

假令一般普行ノ慣習ト雖モ已ニ數回適用シタルモノニ非サレハ其  
 効力ナキモノトス

#### 三 年數ヲ經過シタルコト

普通ニシテ且ツ數回適用シタル慣習ト雖モ未タ年數ヲ經サル新キ  
 モノナルキハ亦タ其効力ヲ與フルコトヲ得ス

此三條件ヲ具備スル慣習ハ即チ衆人ノ默許シタルモノニシテ自カラ人心ヲ規律スルノ効力アルヲ以テ慣習法ノ名稱ヲ附スルヲ得可キナリ然リ而シテ商法ノ不備缺漏ヲ補ヒ或ハ契約ヲ解釋スル(商法第四條)ニ付テハ殆ント成文法ト同一ノ力ヲ有スルト雖モ此慣習ニシテ若シ成文法ト抵觸シタル場合ニ於テハ何レニ從フ可キヤノ疑点ニ付テ二様ノ論アリ乃チ慣習法ハ特別法ナルヲ以テ所謂特別法ハ一般ノ法律ニ勝ツノ原則ニ依リ必ス先ツ慣習法ヲ取ラサル可ラストノ說アレ此說尤モ非ナリ其故ハ若シ此說ノ如クスルモハ全國到底一定ノ法律ヲ布ク能ハサルニ至リ從テ又成文法ヲ設定スルノ旨趣ニ戻レハナリ

而シテ契約ノ旨趣ヲ解釋(民法千百五十九條)及ヒ千百六十條)スルニ當リ慣習法ハ亦タ充分ナル力ヲ有スルモノナリ然リト雖モ若シ裁判官ニシテ慣習ニ依

ラス單ニ條理ニ依テ契約ヲ解釋シタル場合ニ於テハ其裁判ハ大審院ニ於テ其慣習法ヲ守ラサルヲ理由トシテ之ヲ破棄スルヲ得可キヤ否ヤ論者或ハ云ハン慣習ハ法律ト同一ノ効力アリ故ニ慣習ニ反對スル裁判ハ即チ法律ニ背戾シタル裁判ナルヲ以テ大審院ハ之ヲ破棄ス可キモノナリト是レ一理アルカ如シト雖モ其實決シテ然ラス抑大審院ノ設ケアル所以ハ普ク成文法ノ適用ヲ一途ニ歸シ且ツ種々ノ慣習ヲシテ永久ニ存續セシメサルニアリ故ニ此旨趣ヨリ論スレハ裁判官ハ慣習ヲ遵奉スヘキノ義務ナキコトハ明々瞭々ナリ但民法千百五十九條ノ如キ特ニ正條ヲ以テ慣習ニ依ル可シト明言シタル場合ハ此限リコアラサルナリ

又商法ノ不備缺漏ハ民法ヲ以テ之レヲ補フヲ得可シトノ一点ニ付テ亦タ學者中往々異議ヲ唱フル者アリ然レモ論ヨリ證據現ニ買賣規

則ノ如キハ商法中唯タ一ヶ條アルノミ此一ヶ條ノミコテハ決シテ之ヲ規律スル能ハス故ニ必ス民法中賣買篇ノ規則ヲ取テ之ヲ假用セサル可ラス

借テ民法ヲ以テ商法ヲ補フニ當リ民法ノ明文若シ商事ノ慣習ト相抵觸シテ黑白相容レサル場合ニ於テハ何レニ從フ可キヤ此点ニ至テモ亦タ學者中往々異論ヲ試ル者アリト雖モ先ツ慣習ヲ取リ之ヲ適用シテ其足ラサル点ニ至リ始テ民法ヲ用井以テ之ヲ補フ可キナリ如何トナレハ民法ハ普ク人民ノ遵奉ス可キ一般ノ法律ニシテ商事上ノ慣習ハ商人一局部ノ特別法ナルヲ以テ夫ノ普通法ハ特別法ニ勝ツ能ハサル法理ノ原則ニ從フ可ケレハナリ

以上ノ陳述ニ依リ商法ノ總体ニ付テ必要ナル点ハ了リタルヲ以テ次回ヨリ商法ノ本文ヲ取リテ講說セントス然レモ此講義ノ方法ニ付キ

諸君ニ告クヘキモノアリ此講義ニ於テ余ノ希望スルハ佛國商法ノ原則ヲ說キ又其効果ヲ示シテ無要ノ細項ニ涉ラス務メテ法理ヲ明カニスル是レナリ故ニ法律ノ正條ヲ逐フテ説明スルモノニアラス唯タ重要ナル箇條ノミヲ擧ケ其他ハ合併シテ法理ニ從ヒ講述ス可シ蓋シ逐條之ヲ説明スルモ唯タ長且煩ニシテ諸君ノ爲メ其利益少キノミナラス諸君ヲシテ倦厭ヲ生セシメ即チ往々了解スルニ苦マシムルノ恐アルカ故ナリ但シ原則ヲ說クニ付キ勢ヒ細事ニ入ラサルヲ得サル場合ニ於テハ又細事説明スルヲ辭セサルナリ

### ○第一編 一般ノ商事

本編ノ標目ニ付キ諸君ノ注意ヲ要スヘキコトアリ乃チ商法ハ全部ヲ四編ニ分チ其第一編ハ商事一般ニ關スル總則ニシテ單ニ商業ノ事ノミ

ニ非サルナリ故ニ之ヲ總テ商業ノ事ト譯スルハ聊カ允當ナラサルニ由リ今マ之ヲ一般ノ商事ト改ムルヲ以テ可ト爲スニ似タリ

### 第一卷 商人

第一條 常職トシテ商事ヲ營ム者ヲ商人ト爲ス

抑モ商人タル身分ヲ有スルト否トニ因テハ其權利ト義務ノ消長ニ大ナル影響ヲ及スヲ以テ商人ト非商人ノ身分ハ判然之ヲ區別セサル可カラス蓋シ第一條ニ依レハ必ス二箇ノ要件ヲ具備スルニ非サレハ商人タルノ身分ヲ有スル能ハス即チ商事ヲ行フ且之ヲ行フヲ以テ常職トナスコト是レナリ

### 第一 商事ヲ行フ事

商事ノ如何ナルモノナルヤハ第四編第二卷ノ規定スル所ナレハ該卷ヲ講スルノ日チ俟テ詳細之ヲ説明スヘシト雖モ今諸君ノ參照ニ供ス

ル爲メ此ニ其大畧ヲ陳ヘン

一言ニテ商事ト申セハ凡ソ營利ノ目的ヲ以テ權利ノ移轉ニ介入スルノ所爲ニシテ彼ノ賣買交換貿易等ニ依リテ其間ニ生スル所ノ利益ヲ獲ルヲ以テ目的ト爲ス總テノ所爲ヲ云フナリ然レモ之ヲ區別スレハ左ノ三種アリ

一 性質ニ因テノ商事 性質ニ因テノ商事トハ純然タル商事ノ性質ヲ有スルモノニシテ則チ諸君カ佛國民法第二編第一卷財産區別ノ部ニ於テ學ハレシ所ノ性質ニ關スル動産不動産ノ如キト同一ナリ然レモ佛國ノ商法ニ於テハ不動産ヲ以テ商事部内ニ屬セサルカ故假令營利ノ目的ヲ以テ不動産ノ權利ヲ移轉スルモ決シテ之ヲ商事ト爲サス是レ他ナシ動産ヨリモ寧ロ不動産ヲ貴ミシ往時ノ思想ニ基クテ以テナリ

二 附帶ノ商事 附帶ノ商事トハ其事タル素ト商事ノ性質ヲ有スルニアラサレモ純粹ノ商事ニ附帶スルヲ以テ商事トナルモノニシテ猶ホ彼ノ動産モ不動産ニ附從スル場合ニ於テ其用法ニ因テノ不動産トナルカ如シ例ヘハ商人商用ノ爲メニ認メタル諸證券又ハ其營業ノ爲メニ負フ義務ノ類是ナリ而シテ又タ商品ヲ運搬スルカ或ハ商業ノ爲メ乗用スルノ目的ヲ以テ車馬ヲ購買スル如キ是レ又附帶ノ商事ト看做ス可キナリ尤モ此類ニ付テハ往々異論ヲ唱フル者アルヲ以テ他日其機ニ臨テ之ヲ詳説セシ

三 法律上ノ商事 法律上ノ商事ハ唯爲替手形ノ一アルノミ抑々法律上此一事ヲ商事トセシ所以ヲ尋ルニ一ニハ爲替手形ハ彼ノ商事タル爲替契約ヲ記載シタル証書ナルヲ以テナリ二ニハ從前商法中拘留ノ刑ヲ設ケテ商事上ノ義務ハ嚴シク之ヲ履行セシムルノ成規ナルニ

依リ爲替手形モ亦其信用ヲ博スルカ爲メ強テ之ヲ商事ト爲セシナリ然レモ當今ニ至テハ商事上拘留ノ刑ノ如キ既ニ已ニ之ヲ全廢シタルノミナラス猶且爲替手形流通ノ實況ヲ視ルニ獨リ商業上ノミナラス民事上ニ於テモ亦タ多ク之ヲ使用スルヲ以テ見レハ現今尙ホ舊轍ヲ蹈テ之ヲ商事中ニ算入スルハ其當ヲ得サルモノト云フ可シ

## 第二 商事ヲ行フテ常職ト爲ス事

時々商事ヲ行フト雖モ之ヲ以テ直ニ商人タル身分ヲ得可キモノニ非ス即チ商人タルノ身分ヲ得ルニ商事ヲ行フヲ以テ其常職ト爲スヲ必要トス故ニ例ヘハ余ニシテ若シ横濱ヨリ葡萄酒ヲ購求シタルニ付キ其支拂ノ爲メ彼ノ商事ニ屬セル爲替手形ヲ振出スアルモ決シテ商人トナルコトナシ是レ其商事ヲ常職ト爲スニ於テハ假令未ダ實際ニ之ヲ施サ、ルモ其之ヲ行フノ意思已ニ分明ナレハ以テ足レリトス故ニ

今マ人或ル商業ヲ營ムノ目的ヲ以テ開店スルモハ即チ公衆ニ對シ其  
商事ヲ以テ我常業ト爲スコトヲ告示シタルモノナルニ依リ假令未タ實  
際業務ヲ取扱ハサルモ已ニ商人タルノ資格ヲ具備スルカ故ニ之ヲ商  
人ト爲シ且商法ヲ遵奉セシム可キナリ

且又其商事ヲ以テ經常ノ事業トナスニ於テハ其本業タルト兼業タル  
トヲ問ハス皆ナ以テ商人ト稱ス可シ既ニ商法草案ニハ本職ノ文字ヲ  
用ヒタレモ之ヲ修正シテ常職ノ文字ニ改メリ故ニ他ニ本業アリテ傍  
ヲ商業ヲ兼營スルモ經常之ヲ行フ者ハ之ヲ常職ト爲シ以テ商人ト稱  
スルコトヲ得ルナリ其一例ハ大審院ノ判決ニ於テ商業ヲ兼營セル公証  
人ノ破産處分商事身代限ヲ受ケタルコトアリ此場合ニ於テ法律上若シ  
商業ヲ以テ本職トシテトアレハ此人ハ公証人ヲ以テ本職トナスカ故  
假令傍ヲ商業ヲ行ヒ且之ヲ常職ト爲スト雖モ彼ノ商人ノ受ク可キ破

産處分ヲ受ケシムル能ハサルナリ此不都合アルヲ以テ草案中本職ノ  
文字ヲ改メテ常職ト爲セリ是故ニ其本業ト爲スト兼業ト爲ストノ區  
別ニ拘ラス之ヲ常職ト爲ス時ハ即チ商人タルノ資格ヲ有スルモノニ  
シテ商人ト稱ス可キナリ

夫レ斯ノ如ク商人タルノ身分ヲ有スルニハ商事ヲ行フト又之ヲ以テ  
常職ト爲ストノ二條件ヲ具備セサル可ラス故ニ商人ト非商人トヲ區  
別セシムニハ此二條件ヲ具備スルト否ヤヲ以テ判定ス可シ世人動モス  
レハ營業稅ヲ拂フト否ヲ以テ之ヲ區別スルアリト雖モ決シテ其當ヲ  
得サルモノトス如何トナレハ彼ノ醫師、產婆ノ如キ就中代言人、代書師  
裁判所ノ書記、使吏、公証人等ノ如キハ皆ナ營業稅ヲ拂フト雖モ管ニ商  
人タルノ身分ヲ有セサルノミナラス商事ヲ營ムコトスラ尙且之ヲ禁セ  
ラレタルモノナレハ決シテ營業稅ヲ拂フト否ヤヲ以テ此區別ヲ立ツ



ルヲ得サルナリ

以上數項ノ陳辨ニ依テ商人タル身分ヲ得ルノ條件ハ諸君モ已ニ了解セラレタルト信スルヲ以テ余ハ是ヨリ商業ヲ爲スニ付テノ制限ヲ説カン

夫レ營業ハ前回已ニ講述セシ如ク各人生計ヲ營ムノ基本ナルヲ以テ社會ノ爲メ尤モ欠ク可カラサル必要ノモノナレハ何人タリモ自由自在ニ之ヲ行フヲ得可キモノナリト雖モ公益衛生取締等種々ノ原因ヨリハ法律ハ物ト人トニ付キ之レカ制限ヲ立テサル可カラサルヲアリ即チ左ノ如シ

### 第一 物ニ付テノ制限

一 火藥 火藥ハ危峻ヲ生スルモノナレハ取締上ヨリシテ人民ノ擅ニ製造賣買スルヲ許サ、ルナリ

## 二 郵便

## 三 電信

郵便及ヒ電信ハ公益上ヨリシテ何レノ國ニ於テモ大抵之ヲ政府ノ擔當ニ歸セリ若シ皮相ノ見ヲ以テスルモ之ヲ人民ノ會社等ニ擔當セシムレハ競争ノ一點ヨリシテ其賃銀ノ自ラ減落シテ公益ヲ博ス可キ理屈ナレモ實際決シテ然ラス人情概テ目前ノ小利ニ眩惑スルヲ以テ之ヲ人ノ私ニ委スルモ或ハ自己ノ利益ヲ先ニシ公益ヲ顧ミサルノ弊ニ陥リ或ハ配達ヲ遅延シ或ハ監察ヲ怠リテ危險ヲ蹈ム等ノ恐レアリ終ニ其事務ノ澁滯ヲ來タシ爲メニ公益ヲ傷フ如キハ既ニ已ニ經驗上ニ於テ疑フ可ラサル所ナリ尤モ政府ニ於テ之ヲ擔當スルモ若シ收稅主義ニ出ツルモ亦公益上政テ其利益ヲ見サルヘシト雖モ各國同一之ヲ政府ノ擔當ニ歸スルハ概テ公益上ノ目的ニ基ツクモノニシテ

收稅主義ニ出ルニアラサルナリ

#### 四 鐵道

鐵道ハ必シモ政府ノ擔當スル所ニ非サレモ政府ハ其適當ト認ムル會社ニ借區ヲ許ルスノ特權ヲ有シ且ツ之ヲ獎勵スル爲メ補助金ヲ與フルノ權アリ是レ亦公益上ニ基クモノナリ若シ人民ヲシテ自由ニ之ヲ爲サシムルキハ唯利益ヲ得ルニ汲々トシ或ハ運賃ヲ高價ニシテ公益ヲ減シ或ハ建築ヲ粗漏ニシテ危險ヲ招クノ患アリ是故ニ政府ニ於テ之ヲ擔當スルニ至リシナリ

#### 五 手形賣買世話人及ヒ商業世話人ノ業

手形賣買世話人及ヒ商業世話人ハ人ノ依頼ヲ受ケテ物件ヲ賣買スル媒介者ナレハ或ハ許多ノ金圓ヲ預リ或ハ重大ナル契約ヲ取結ブニアルヲ以テ身分ノ確實ニシテ且資力ノ充分ナルニ非サレハ商業上大ニ

三

三

不都合ヲ來スノ恐レアル可シ是ヲ以テ此二業ハ各人自由ニ之ヲ營ム  
トテ許サベルナリ

#### 六 銀行、性命保險會社、共同倉庫

凡ソ會社ハ其種類ノ何タルヲ問ハス人民自由ニ之ヲ創設スルヲ得可シト雖モ此數者ノ如キハ其負擔スル所ノ義務尤モ重大ナルヲ以テ其基礎ノ鞏固ナルニ非サレハ其目的ヲ達スル能ハサルナリ故ニ政府  
ヲシテ是等會社ノ創設ニ付キ監査スルノ權ヲ有セシムルナリ

#### 七 鑛山

鑛山ヲ發掘スルニハ充分ナル資産及ヒ能力ヲ有スル者ニアラサレハ之ヲ經營スル能ハス故ニ鑛山發掘モ亦政府ノ許可ヲ要スルヲトセリ

#### 八 煙草

#### 九 摺附木

#### 商法

十 骨牌

此三者ハ國庫ノ收入高チ補ハン爲メ獨リ政府ニ於テ之ヲ製造シ且之ヲ販賣スルノ專權チ有スルニ至レリ尤モ摺附木ハ普佛戰爭後千八百七十二年ノ法ニ依テ之ヲ製造スルノ特權ヲ政府ニ歸セシメタルモノニシテ政府ハ其ノ製造ノ特權チ人民ニ貸與スルヲ得ルナリ

十一 藥種營業

藥種營業ハ別段ノ許可ヲ要スルニ非サレモ藥劑學卒業證書ヲ所持スル者ニシテ且取締ノ爲メ定メタル特別ノ規則ヲ守ラサレハ之ヲ行フヲ得ス是レ人命ニ關スル事業ナレハナリ  
其他書林、活版、演劇等ノ如キニ至テモ亦タ取締ヲ爲スノ必要アルヲ以テ創業ノ時ニハ必ス擔任ノ官署ニ届出サル可ラサルナリ  
第二 人ニ付テノ制限

此制限チ立ツルニ二種ノ區別アリ即チ商業ハ何業ニ拘ハラズ一切之ヲ行フヲ禁セラル、モノアリ又只タ或ル商業ノミチ禁セラル、モノアリ皆チ是レ其人ノ身分ニ因ルノミ

○總テノ商業ヲ禁セラレタル者

一 領事

領事ハ元來本國商人ヲ監査シ且商況ヲ視察スル爲特ニ外國ニ派出シタル官吏ナルヲ以テ若シ自カラ商業ヲ營ムキハ自然其職務ト利益ト相牴觸スルノ嫌アルヲ以テ總テノ商業ヲ爲スヲ禁セラル、ナリ

二 裁判官

裁判官ハ如何ナル商業ニテモ一切之レヲ營ムヲ禁セラレタリ然レモ商事裁判官ハ商人中商事熟練ノ名望アルモノヲ撰拔スルモノナレハ他ノ裁判官ノ例ニアラサルナリ

三 代言人、代書師、裁判所ノ書記、使吏、公証人

四 僧侶

以上ノ數項ハ皆チ人ノ身分ニ付テノ制限ナレハ其禁令ハ此商法中ニ明文アルニアラサルナリ概チ他ノ法律又ハ特別ノ規則ヲ以テ其身分々々ニ對シ之ヲ制禁スルノミ故ニ右ノ者等ニシテ此禁制ヲ犯シタル并ハ各自其懲戒令又ハ内規等ニ因テ制裁ヲ受クルアルノミ別ニ刑事ノ制裁ヲ受ルコトナシ而シテ僧侶ノ如キハ特ニ宗教上ノ制禁ヲ受ケタルノミナレハ又只宗教上ノ制裁ヲ受クルニ過キサルナリ夫レ然リ此四ツノ身分タル者ハ總テ商事ヲ行フチ得スト雖田獨リ領事ヲ除クノ外裁判官并ニ公吏代言人等ニ之ヲ禁スルノ要ハ唯威嚴ヲ正シ或ハ風儀ニ基キ品行ニ關スルノ主旨ニ過キサルノミ決シテ他ニ著シキ理由アルニ非サルナリ是レ畢竟商業ヲ目シテ賤業汚職ト爲セシ往時ノ僻

見陋習ヲ因襲シタルノミ故ニ現今開明ノ社會ニ在テハ理論上ヨリスルモ實際上ヨリスルモ此禁令ヲ設ク可キ著シキ理由ヲ發見スル能ハサルナリ

○或ル商事ヲ禁セラレタル者

一 手形賣買世話人

手形賣買世話人ハ素ト商業取引所ニ在リテ他人ノ媒介トナリテ手形賣買ノ世話ヲ爲ス者ナレハ取締上ヨリシテ自己計算ノ爲メ手形ヲ賣買スルコトヲ禁シタルナリ然レモ手形賣買ノ外ハ如何ナル商業モ之ヲ爲スノ自由アルハ他人ト決シテ異ナラサルナリ

二 官吏

佛刑法第七十五條ニ於テ官吏ハ自己ノ監督スル事業ニ付キ商業ヲ爲スコトヲ禁シタリ例ヘハ山林監督ノ官吏ハ其山林糶賣事件ニ付テ買

受人ト爲ル能ハサルノ類ナリ是レ其正實ニ勤メサル可カラサル所ノ職ト利益ヲ計畫セント欲スル意思ト相牴觸スルヲ以テ其禁則ヲ設クルノミ若シ此禁ヲ犯シタルキハ即チ該條ニ因テ之ヲ罰スト雖ヒ其監督外ノ事業ニ至テハ如何ナル商業ヲ營ムモ敢テ牴觸ノ患ヒナキヲ以テ之ヲ其人ノ自由ニ附セリ蓋シ本邦ニ於テハ官吏ノ商業ハ一切之ヲ禁シタリ其故ハ則チ一ハ此牴觸ノ弊ヲ防キ一ハ人民ト利ヲ市場ニ争ヒ官吏タルノ面目ヲ毀損スルノ弊ヲ防カント欲スルノ意思ヲ以テ官吏タル者ハ其事ノ何種ニ拘ハラズ一切商業ヲ營ムトチ禁シタレヒ佛國ニ於テハ只其牴觸ノ点即チ弊害ノ生セントスル一點ヲ豫防スルニ在ルノミ故ニ其監督外ノ商業ニ至テハ敢テ之ヲ問ハサルナリ

三 兵隊指揮官、府縣知事及ヒ郡長

佛刑法第七十六條ニ依レハ指揮官、府縣知事、郡長ハ其管轄地内ニ於

テハ自己ノ所有地内ニ産シタル品物ヲ除クノ外總テ日用必須ノ飲食物ヲ賣買スルトチ禁シタリ之ヲ犯ス者ハ即チ該條ヲ以テ之ヲ罰セリ是レ等ノ禁則ヲ設クルハ他ナシ指揮官知事郡長ノ如キハ其管轄地内ニ於テ頗ル勢力ヲ有スルヲ以テナリ若シ夫レ是勢力アル者ニシテ此商業ヲ爲ストチ得ハ遂ニ其勢力ヲ濫用シテ人民ノ生活ニ必要ナル飲食物ヲ買占メ射利ノ爲メ其價額ヲ變動シ人民ヲシテ生活ニ苦マシムルノ患害ヲ引起サシムルニ由リ公益ヲ保護スルノ目的ヲ以テ之ヲ禁シタルノミ故ニ自己ノ所有地内ニ産スル物品及ヒ其管轄外ノ地ニ於テハ此弊ヲ引起スノ憂ナキヲ以テ假令飲食物ノ如キ必要品ト雖モ之ヲ自由ニ賣買スルヲ得ルナリ

斯ノ如ク商業ヲ禁止サレタル者若シ禁令ニ背キ商業ヲ爲シタルキハ其取引契約ハ法律ニ違背シタルモノナレハ素ヨリ取消シ得可キモノ

ナリ然レモ其取消ノ性質ニ至テハ學者中往々之ヲ論シテ其說一定セザルカ如シ即チ甲ハ之ヲ不完全ナル取消ニシテ契約者ノ一方ノミニ取消請求ノ權アリト云ヒ乙ハ之ヲ完全ナル取消ニシテ契約者双方トモニ此權利アリト云フ余ハ此乙說ニ對シテ同意ヲ表スル能ハサルナリ即チ是レ不完全ナル取消ニシテ禁止ヲ受ケサル契約者ノミ取消ヲ請求シ得可ク其禁止ヲ受ケタル者ニ在テハ決シテ之ヲ請求スルヲ得サルナリ如何トナレハ法律ガ此禁令ヲ設ケタルハ即チ公益ヲ保護スルノ主旨ニ基キタルモノニシテ決シテ禁止ヲ受ケタル者ノ私益ヲ保護スル爲メニアラサルナリ若シ反對論者ノ云フ如ク爲ストキハ法律ノ犯則者ヲシテ却テ法律ノ保護ヲ受ケ其利益ヲ得セシムルカ如キ奇怪ノ結果ヲ生スルニ至ル可シ如何トナレハ取消ヲ請求スルハ即チ損失ヲ受ケタルニ因リ之ヲ回復スル爲メナリ言チ換テ云ハ取消ハ自己

爲メニ利益ヲ生ズ可キ目的アルニ非サレハ之ヲ請求セサルモノナリ然ルニ若シ禁止ヲ受ケタル者ヨリモ尙ホ之ヲ請求シ得ルモノト爲スキハ自然法律ヲ以テ此利益ヲ得セシムルニ至ル可シ故ニ余ハ此說ニ左袒スル能ハサルナリ

以上ハ公益保護ノ爲メ其人ノ身分ニヨリ又ハ其物質ニ就テ商業ヲ爲スヲ禁止シタルモノナリ偕是レヨリ私益ノ爲メ商業ヲ爲スヲ許サル無能力者ノミニ就テ講說セシ抑商業ヲ爲スノ能力ナキ者ト商業ヲ禁止セラレタル者トハ其間大ニ差違アルヲ以テ諸君之ヲ混同スル勿レ則チ前述シタル數種ノ者ハ公益ノ爲メ商業ヲ爲スヲ禁止セラレタル者ナルカ故ニ獨リ禁止ヲ受ケサル契約者ノミ其契約ノ取消ヲ請求スルヲ得可クシテ禁止ヲ受ケタル者ニ在テハ決シテ之ヲ請求スルヲ得サルナリ然ルニ無能力者ニ在リテハ私益ノ爲メ全ク其本人

ヲ保護スルノ旨趣ニ出テタルカ故ニ其契約ヲ取消ヲ請求シ得可キ者ハ唯無能力者ノミ其能力アル相手方ニ至テハ決メテ之ヲ請求スルヲ得サルモノトス

## ○ 無能力者

## 一 民事上治産ノ禁ヲ受ケタル者

民事上治産ノ禁ヲ受ケタル者トハ白痴瘋癲等ノ如キ精神ノ完全ナラサルニ因テ財産ヲ管理スルヲ禁セラレタル者ヲ云フ故ニ此者ハ商人ノ身分ヲ有スル能ハサルハ勿論一事一箇ノ商業タリト雖モ其本人私益ノ爲メ之ヲ爲ストチ許サス若シ此者ニシテ契約ヲ爲シタルキハ則チ其契約ハ本人隨意ニ之レカ取消ヲ請求スルヲ得ルナリ

## 二 裁判所ヨリ補佐人ヲ附セラレタル者

此補佐人ヲ附セラレタル者ハ治産ノ禁ヲ受ケタル者ノ如キ純粹ナル

無能力者ニ非ス唯ダ其財産ヲ浪費スルノ恐レアルヲ以テ之ヲ防ク爲メ豫メ補佐人ヲ附シテ監督セシムルモノナリ故ニ此者ハ唯ダ財産管理上ニ付テ充分ナル能力ヲ有セサルノミ故ニ商人タル身分ヲ得セシメサルモ補佐人ノ立會アレハ一事一箇ノ商業ヲ爲ストチ得ルヲ以テ其立會ノ上爲シタル商業ハ則チ有効ノモノタルヤ論ヲ待タサルナリ

## 三 未丁年者

抑商人ノ地位タルヤ實ニ重大ナル責任ヲ負擔スルモノニシテ破産法ノ如キモ普通法ニ比スレハ甚タ嚴酷ナリ動モスレハ倒産處分ヲ受クルノ慘狀ヲ見ルコトアリ然ルニ未丁年者ヲシテ商人タルヲ得セシメ以テ此重大ナル責任ヲ負擔セシムルハ甚タ酷ニ失スルニ似タリ大凡ソ未丁年者ハ如何ニ伶俐ナルモノト雖モ未ダ實際ノ經驗ニ富マス且ツ智識モ亦タ充分具備セサルヲ以テ或ハ商業上忽チ失敗ヲ招クニ至

ル是レ往々吾人ノ目撃スル所ニシテ實際免ル、能ハサルヲナレハ之ニ對シテ商業ノ自由ヲ與フルハ却テ其保護ヲ奪フト云フモ亦タ不可ナカル可シ是故ニ此商法編纂ノ時ニ際シテモ全ク之ヲ禁止ス可シトノ議論起リシカモ若シ之レヲ禁止スルニ至テハ或ハ商人タル父ノ死去シタルニ因リ之ヲ繼續セントシ或ハ財産ヲ得テ結婚ノ資ニ充テンカ爲メニ商業ヲ爲サント欲スル未丁年者ヲシテ空シク財産ヲ得ル能ハス遂ニ生計ヲ失ハシムルニ至ラン是レ甚ダ謂レナキ事ナリ故ニ未丁年者ト雖モ第二條ニ依リ左ノ條件ヲ踐行スルモ商人タルノ身分ヲ有スルヲ得テ以テ商業ヲ行フヲ許スニ決セリ其條件ハ則チ左ノ如シ

第一 後見ヲ免レタルコト

第二 滿十八歳以上タルコト

十四

第三 父ノ許諾ヲ受クルコト 若シ父ノ死去シタルカ或ハ治産ノ禁

ヲ受ケタルカ又或ハ失踪シタル等ノ場合ニ於テハ母ノ許諾ヲ受クルコト 若シ又父母共ニ右ノ如キ場合ニ際セハ親族會議ノ承諾ヲ受ケ且民事裁判所ノ允許ヲ受クルコト

第四 父母ノ許諾書又ハ親族會議ノ承諾書ヲ其幼者ノ住所ヲ定ム

可キ地ノ商事裁判所ニ貼附シ且其簿冊ニ登記スルコト(第二條)

此四條件ヲ具備シタルモ未丁年者ト雖モ商人タルヲ得可ク又其商事々件ニ付テハ丁年者ト同視スルヲ以テ最早法律ノ與フル特別ノ保護ヲ受クルヲ得サルモノトス蓋シ民事上ニ於テ未丁年者ノ爲シタル契約ノ若シ過度ナルモ之ヲ取消スカ或ハ適度マテ之ヲ減少スルヲ得可ク又少シニテモ損害ヲ受クルコトアル場合ニ於テハ之ヲ取消スヲ得ルノ權ヲ與ヘテ以テ特別ニ未丁年者ヲ保護スルモ其人已



純然タル商人ト爲リタルキハ此保護ヲ受クルノ理由アラサルナリ  
 又未丁年者ノ債主コシテ其財産ヲ差押ユルコ當テハ最初其動産ヲ調  
 査シ果シテ其動産ノミコテハ負債ヲ辨償セシムルニ足ラサル時コ非  
 サレハ決シテ不動産ヲ差押ユル能ハスト雖モ已コ商人トナリタルキ  
 ハ此保護ヲ失ヒ債主ノ意ニ隨ヒ不動産ヨリ差押ユルモ動産ヨリ差押  
 ユルモ決シテ之ヲ左右スル能ハサルナリ

又時効中大時効ニ付テ（十年以上ノモノヲ大時効ト云ヒ十年以下ヲ小時効ト云）ハ未丁年者コ對シ  
 テ其期限ノ經過ヲ停止スト雖モ商人タル未丁年者コ對シテハ之ヲ停  
 止スルコナシ其理由ハ後ニ至テ之ヲ述ヘン

其他破産ノ處分ヲ受ケ且ツ解怠倒産詐偽倒産ノ處分ヲモ受ケサルヲ  
 得ス又訴訟事件ハ商事裁判所ノ管轄ヲ受ケサル可ラス又貸借ノ利子  
 ノ如キハ民事上ヨリ高キ百分ノ六ノ制規ニ從ハサル可カラス夫レ斯

二

三

ノ如ク商人トナリタル未丁年者ハ其權利上ニ於テモ又其責任上ニ於  
 テモ全ク丁年者ト同様ナルカ如シ然レモ尙ホ其間ニ二ケノ異同アリ  
 第一商人タル未丁年者ヲ丁年者ト同一視スルハ唯モ商事上ノミノ  
 コシテ民事刑事ニ至テハ尙ホ未丁年者タルヲ免レサルナリ  
 故ニ未丁年者ノ爲シタル事件ニシテ若シ商事ナル時ハ之ヲ丁年者ノ  
 如ク取扱ヒ若シ其民事ナルキハ未丁年者トシテ扱フモノナリ然レモ  
 若シ其事件ノ原因タル商事ニ屬ス可キモノナルカ將タ民事ニ屬ス可  
 キモノナルカ其區別ノ曖昧トシテ判然ナラサルキハ未丁年者ヨリ其民  
 事ニ屬スルモノタル旨ヲ證明セシム可キカ將タ他ノ相手方ヨリ商事ヲ  
 ル旨ヲ證明セシム可キカノ疑問アリテ學者ノ說ク所ニ派ニ分裂セリ  
 甲說ニ曰ク未丁年者ノ無能力者タルハ一般ノ常態ニシテ之ヲ商人同  
 機商事上ニ於テ能力者ト爲スハ則チ是レ例外ナルヲ以テ其原因ノ商

事タルコト判然タル場合ヲ除クノ外總テ其所爲チ民事ト看做サ、ル可ラス故ニ其所爲ノ民商何レニ属スヘキヤノ判然タラサル時ノ如キハ皆ナ之チ民事ト看做ス可シ故ニ之チ商事ト爲サンコトハ必ス相手方ヨリ其商事タル旨ヲ證明セサル可ラスト

乙説ニ曰ク未丁年者コシテ商人トナリ商事上ニ在テ能力者タルコトヲ得タルハ素ヨリ商事ヲ行ハシカ爲ナルヲ以テ一般ノ常態ヨリ之ヲ云フキハ其日々ノ業務ハ寧ロ民事ニ在ラスシテ商事ニ在リ其偶々民事ノコトヲ爲スハ全ク例外ナルカ故ニ其所爲其義務ノ原因タル若シ民商何レニ属ス可キヤノ判然タラサル場合ニ在テハ總テ之チ商事ト看做サ、ル可ラス且第六百三十八條第二項ニ「商人ノ記載シタル証券ハ其商事ノ爲メニ爲シタルモノト看做ス可シ」トアリテ其商人ノ丁年者タルキト未丁年者タルキトヲ區別セサルヲ見レハ法律ノ精神ハ固ヨリ

四

五

未丁年者タル商人ノ記載シタルキモ商事ト看做スト云フニ在リ故ニ義務ノ原因曖昧ニシテ民商何レニ属スヘキヤノ判然タラサル時ニ當テ若シ之チ民事ト爲サンコトハ必ス未丁年者ヨリ其證明ヲ爲サ、ル可カラスト是レ一般行ハル、所ノ定説ニシテ余モ亦此説ニ左袒スルモノナリ

第二 商人タル未丁年者ハ商事ノ爲メニハ不動産ヲ質入ト爲シ又ハ書入ト爲ストヲ得ルト雖モ丁年者ノ如ク之チ賣渡シ又ハ讓渡ストヲ得サルナリ抑モ物件ヲ質入又ハ書入ト爲スキハ其結果遂ニ之チ讓渡サ、ル可カラサル場合ニ立至ルコトアルヲ以テ元來處置ノ權ヲ有セサル者ハ質入書入ヲ爲スノ權ヲ有ス可カラサルハ是レ一般ノ通則ナリ然ルニ商人タル未丁年者ハ獨リ此權利ヲ有スルコトヲ得ルト云フ是レ最モ非常ノ例外ト云フ可キナリ

夫レ商事上ニ在テ商人タル未丁者ト丁年者ノ相同シカラサルハ只タ  
 以上ノ二点ニ過キヌシテ其他ハ全ク丁年者ト同一ノ能力ヲ有シテ隨  
 意ニ營業スルコトヲ得可シ然レモ元來未丁年者ノ商人タル身分ヲ有ス  
 ルハ前述ノ四條件ヲ具備スルカ爲ナルヲ以テ若シ其資力外ニ涉リ過  
 度ノ義務ヲ負ヒ又ハ失敗ヲ招ク等ノコトヲ爲シテ後見ヲ免ル、ニ充分  
 ナル能力ヲ欠クカ如キ狀態ヲ呈出スル場合ニ於テハ人事法第四百八  
 十五條ニ從ヒ後見免脱ノ恩典ヲ剝キ再ヒ後見人ヲ附スルコトヲ得可シ  
 然ルモハ商人タル身分ヲ得ルニ必要ナル條件中其一ヲ欠クノ故ヲ以  
 テ間接ニ商人タル身分ヲ失フモノナリ又未丁年者ノ商人トナルニ付  
 キ父母或ハ親族會議ニ於テ與ヘタル所ノ許諾ヲ取消シタル場合ニ於  
 テモ四條件ノ其一ヲ欠クノ故ヲ以テ亦其身分ヲ失フモノナリ然シテ  
 此ニケノ場合ニ於テハ最初商人タル身分ヲ得ルモ如ク之ヲ失ヒタ

ル旨趣ヲ幼者住地ノ管轄商事裁判所ニ貼附シ且ツ其簿冊ニ登記スル  
 コトヲ必要トス  
 以上講述シ來ル所ハ未丁年者ノ商人タル身分ヲ得ルノ場合ナリト雖  
 モ元來未丁年者ハ獨リ商人タル身分ヲ得ルニ付彼ノ四條件ヲ要スル  
 ノミナラス唯々臨時ニ一箇ノ商事ヲ行フモ雖モ必ス此四條件ヲ具  
 備セサル可カラス是レ第三條ノ明示スル所ナリ曰ク「商人ニアラサル  
 幼者ト雖モ第六百三十二條及第六百三十三條ニ依リ商事ト認メタル  
 諸件ヲ行ハントスル時ハ前條ノ規則ヲ通シ用ユ可シト夫レ斯ノ如ク  
 其手續ノ煩雜ナルヨリシテ實際ニ於テハ未丁年者ノ自ラ一箇ノ商事  
 ヲ行フコトハ誠ニ僅少ナル可シト雖モ其實亦決シテ之レナシト爲サス  
 例ヘハ父ノ死去シタル時其遺物中ノ爲替手形又ハ約束手形ヲ裏書讓  
 渡セント欲スルモ必ス彼四條件ヲ具備シ以テ之ヲ爲スニ非サレハ

其讓渡ノ効ナキカ故ニ是ノ如キ場合ニハ本條ノ手續ヲ踐マサルヲ得  
サルナリ

#### 四 有夫ノ婦

有夫ノ婦ハ未丁年者ノ如ク自然ノ無能力者ニ非ス唯其家長タル夫ノ  
權ヲ尊敬セシムルノ目的ヲ以テ法律上之ヲ無能力者ト看做シタルモ  
ノナレハ商人タル身分ヲ得ント欲スルニ當テハ未丁年者ノ如ク種々  
ノ條件ヲ具備スルヲ要セス即チ第四條ニ云フ如ク只ク夫ノ許諾ヲ得  
ルノミニシテ足レリトス然リ而シテ婦人カ臨時ニ一箇ノ商事ヲ行ハ  
ントスルニハ民法第二百十九條ニ從ヒ夫若クハ裁判所ノ許諾ヲ得レ  
ハ則チ可ナリト雖モ其商人タル身分ヲ得ルニハ必ス夫ノ諾許ヲ要ス  
可キヤ將テ裁判所ノ允許ヲ以テ之ヲ補ヒ得可キヤト云フ問題ニ付テ  
ハ之ヲ可否スルノ二說アリ即チ

八

九

一般學者間ニ行ハル、說ハ夫ノ許諾ヲ必要トシ裁判所ノ允許ヲ以テ  
之ヲ補フ能スト云フニ在リ而シテ其說ノ主旨ハ唯第四條ニ婦ハ夫ノ  
許諾ヲ得ルニ非サレハ公ケノ商人トナルヲ得スト確言シアルノミ  
ナラス第五條ニ依レハ夫婦互ニ其財産ヲ共通スル時ハ婦人ノ商人ト  
ナリテ負フタル所ノ義務ハ夫モ亦之ヲ擔當セサル可カラサルモノナ  
リ然ルニ其未タ商業ニ熟練セサル婦人ナルヲ以テ夫ノ其許諾ヲ與ヘ  
サル場合ニ於テ裁判所ハ其情實ヲ知ラス直ニ之ヲ允許シテ商人ト爲  
シタルカ爲メ夫マテ意外ノ義務ヲ負フニ至ルアラハ實ニ謂レナキ損  
害ヲ受クルモノト云フ可シ是レ第四條ニ夫ノ許諾ナケレハ商人タル  
ヲ得スト確言シタル所以ニシテ夫婦ハ固ヨリ共通財産ノ方法ヲ以  
テ婚姻ノ契約ヲ爲スハ普通ノ情態ナルヲ以テ必ス夫ノ許諾ヲ要ス可  
キモノナリ加之夫婦ハ其榮譽幸福及汚辱禍患ヲ共ニスルモノナルニ

婦若シ其夫ノ許諾ヲ受ケスシテ商人トナリ他日或ハ破産ノ宣告ヲ被  
 リ遂ニ倒産ノ處分ヲ受クルニ至ルアラハ獨リ婦人ノ汚名ヲ被ムルノ  
 ミナラズ併セテ夫ノ榮譽ヲ害スルモノナレハ必ス夫ノ許諾ヲ要スル  
 ナリ以テ至當トシ決シテ裁判所ノ允許ヲ以テ之ヲ補フ能ハサル可シト  
 裁判上ニ行ハル、説ニ依レハ婦ニシテ商人タル身分ヲ得ルニ其夫ノ  
 許諾ヲ要スルハ素ヨリ普通ノ順序ナリト雖モ或ル場合即チ夫ノ失踪  
 シテ不在ナルキ又ハ夫ノ治産禁ヲ受ケタルキ又ハ夫ノ未丁年者タル  
 キノ如キハ實際其許ヲ得ル能ハサレハ裁判所ノ允許ヲ以テ之ヲ補ハ  
 サル可カラズ又夫婦ノ間其財産ヲ分派シテ全ク之ヲ共通セサルキ或  
 ハ夫婦分居ノトキノ如キハ夫婦ノ間其利害ヲ共ニセス合体親和ニア  
 ラサルヲ以テ夫カ故意ニテ其許諾ヲ與ヘサルアルモ亦未ダ知ル可カ  
 ラス然ルニ是等ノ場合ニ於テ若シ裁判所ノ允許ヲ以テ夫ノ許諾ヲ補

十

十一

フ能ハサルモノトスルキハ爲メニ婦ヲシテ故ナク其生計ヲ營ム能ハ  
 サルニ至ラシム可シ豈不幸ノ至リナラスヤト

此二説中前説ノ如キハ能ク法理ニ適合スト雖モ然レモ後説ノ如ク爲  
 サ、ルキハ實際ニ於テ不都合ヲ醸スノ弊ヲ免レサルナリ且ツ裁判所  
 ニ於テモ婦ニシテ商人タルノ身分ヲ得ルニ適當ナルヤ否ヤヲ詳ニ探  
 知シテ然後其允許ヲ與フルモノナレハ實際與フ可カラサル場合ニ與  
 フルカ如キ患ハ決シテ勿ル可シ故ニ後説ヲ以テ其當ヲ得タルモノト  
 ス

以上論スル如ク夫ノ許諾ヲ得ルカ又或ル場合ニ於テハ裁判所ノ允許  
 ナリ得テ以テ公然商人タル身分ヲ得タル婦ハ商事上ニ付テ全ク能力者  
 トナルモノナリ而シテ其夫ノ許諾ノ如キモ普通ノ場合即チ未ダ商人  
 トナラサル場合ニ於テハ一契約ヲ爲ス毎ニ夫ノ特別ノ許諾ヲ得サル

可カラサレハ商人ト爲ルニ付テノ許諾ハ然ラス唯ク最初ニ於テ一度一般ノ許諾ヲ受クレハ則以テ足レリトシ決シテ其取引契約ヲ爲ス毎ニ時々之ヲ受クルヲ要セサルナリ即チ第五條第一項ニ曰ク「婦若シ公ケノ商人タルキハ其商業ニ管シタル事ニ付テハ夫ノ許諾ヲ得スシテ自ラ義務ヲ負フヲ得」トアルモノ是ナリ又普通ノ場合ニ於テハ明許ニ非サレハ其効ナキヲ以テ書面等ニ依リ公然其許諾ノ意ヲ表スルカ或ハ婦ノ事業ニ夫モ立會シ與ニ共ニ之ヲ爲シタルキニ非サレハ許諾ノ効ヲ奏セサルナリ然レハ商業上ニ在テハ唯默諾ヲ以テ足レリトス即チ婦ノ商業ヲ爲スヲ知テ之ヲ棄テ置キ敢テ差留メサル如キハ許諾ヲ與ヘタルモノト看做スヲ得可シ然レハ婦ハ其夫ノ商品ノ零賣ヲ爲スノミヲ以テ公ケニ商人ト爲ル可キ許諾ヲ得タルモノト爲スヲ得得ス必ス其會計ヲ別ニシテ自ラ商業ヲ營ムヲ必要トス是レ第五條

## 第二項ニ詳ナル處ナリ

以上講述セシ處ハ丁年者ナル有夫ノ婦ノ商人タル身分ヲ得ントスル場合ナレハ若シ未丁年者ナル有夫ノ婦ノ商人タル身分ヲ得ントスルニハ夫ノ許諾ヲ受クルノ外尙ホ未丁年者ニ係ハル條項ニ於テ説明シタル四條件ヲ具備セサル可カラサルナリ

未丁年者及ヒ有夫ノ婦ハ一旦商人タル身分ヲ得レハ何レモ皆ナ商事ニ付テハ齊シク能力者タル可シト雖モ其間亦自カラ差違アリ

第一 未丁年者ハ假令其商業ノ爲メニモセヨ不動産ヲ賣渡シ又ハ讓渡スヲ得スト雖モ婦ハ之ヲ賣讓スルヲ得可シ「第六條及第七條」

第二 未丁年者ハ原被告トナリ自由ニ裁判ヲ仰クヲ得可ケレハ婦ハ毎事夫ノ許諾ヲ受ケサル可カラス

又商人ナル婦人ノ爲シタル事件ニシテ其原因曖昧トシテ民商何レニ

属ス可キヤ其區別ノ判然タラサルキハ未丁年者ニ係ハル條項ニ於テ説明シタルト同様ニ之ヲ決定セサル可カラサルナリ  
 儲テ商人ナル婦ノ取結ヒタル契約ハ夫ニ對シテ如何ナル結果ヲ生スルヤト云フニ其財産ニ關スル婚姻契約ノ仕方ニ由テ大ニ異ナルモノトス故ニ共通財産ノ方法ニ依テ婚姻シタル場合ト其他ノ方法ニ依テ結婚シタル場合トヲ區別セサル可カラス

共通財産ノ方法ニ依テ結婚シタル場合ニ於テハ婦人所得ノ利益ハ悉皆共通財産中ニ算入シテ其夫之レカ支配ヲ爲シ之レカ處置ヲ計畫スルヲ得ルカ故ニ婦ノ結約シタル義務モ亦夫之ヲ負擔シ其共通財産ヲ以テ之ヲ處分セサル可カラス即チ第五條ニ「但此場合ニ夫婦互ニ其財産ヲ共通スル時ハ夫モ亦其義務ヲ負フ可シ」トアルハ全ク此理ニ依ルモノナリ

共通財産外ノ方法即チ不共通財産、家資分括、分離財産等ノ方法ニ依テ結婚シタル場合ニ於テ婦人所得ノ利益ハ之ヲ其婦ノ資本ト看做シ悉皆婦ノ財産中ニ算入スルヲ以テ夫ハ只タ婦ノ財産ヨリ生スル入額ノ全部又ハ若干部ヲ収入シテ家資ニ供スルノミ故ニ此場合ニ於テハ婦ノ負ヒタル義務ヲ負擔スルノ責任ナシ是レ第五條但書ノ反對ノ旨趣ヨリ出ツル處ナリ

婦モ亦夫ノ許諾ヲ得テ商人タルノ身分ヲ得タルモノナレハ夫若シ其許諾ヲ取消スルキハ亦タ其商人タルノ身分ヲ失ヒ以テ其商業ヲ營ムノ能力ヲ失フモノナリ然レモ夫若シ至當ノ理由ナクシテ妄リニ其許諾ヲ取消シタルキハ勿論婦人ハ出訴シテ其公判ヲ仰クヲ得可シ然リ而シテ其許諾ヲ取消シタルキハ始メ其商人タルノ身分ヲ得タルキノ如ク亦タ商事裁判所ニ其旨ヲ貼附シ且ツ其簿冊ニ登記シテ以テ其商

人タルノ身分ヲ失フタルヲ廣ク第三者ニ知ラシメサル可カラサルナリ

○商人ト非商人トヲ區別スルノ利益

商人ト非商人ハ其權利ト義務トニ大ナル差違アルヲ以テ判然之ヲ區別セサル可カラス今其之ヲ區別スルノ利益ヲ舉クレハ即チ左ノ如シ

第一 商人ニ在テハ商業帳簿ヲ所持スルノ義務(第二卷第八條以下)及ヒ財産ニ關スル婚姻契約ヲ廣告スルノ義務(第四卷第六十五條以下)アリト雖モ非商人ニハ其義務ナキモノトス抑モ商人ハ帳簿ヲ所持シテ日々ノ取引ヲ記載セサル可カラス否ラサレハ後日訴訟又ハ破産ノ場合ニ際シ其實際ヲ詳知スルニ由ナク又婚姻契約ヲ廣告シテ財産ノ管理法ヲ他人ニ明示セサル時ハ他人ノ契約ヲ爲スニ當リ皮想ノ觀察ヲ

以テ或ハ其財産ヲ夫婦中甲一方ノ所有ト思惟シ之ヲ信用シテ契約ヲ爲シタルニ其財産ハ反テ乙一方ノ所有ナルカ如キ意外ノ事アリテ爲メニ不慮ノ損害ヲ招キ遂ニ商業上ノ安寧ヲ保全スル能ハサルニ至ラノ故ニ商人タル者ニハ特ニ此義務ヲ負ハシムルナリ

第二 商人ニ在テハ其支拂ノ停止ニ依リ直チニ破産ノ處分ヲ受クルモノナリ而シテ其身代限ハ商事上ノ身代限ナルヲ以テ時トシテハ懈怠倒産(輕罪)或ハ詐欺倒産(重罪)ノ處分ヲ受クルヲアリト雖モ非商人ニ在テハ支拂ヲ停止スルヲアルモ只タ分散ノ處分ヲ受クルノミニシテ決シテ懈怠倒産、詐僞倒産等嚴重ナル處分ヲ受クルヲナシ而シテ破産(商事身代限)ト分散(民事身代限)トハ大ニ其趣ヲ異ニスル此ノ如キヲ以テ一言ニシテ盡ス可キニ非サレハ他日破産法ヲ講スルノ時ヲ待テ仔細ニ之ヲ詳説セン



第三 商人ノ爲シタル事項ハ反對ノ証據アルニ非サレハ總テ商事ト看做シ商事裁判所ノ管轄ト爲スモ非商人ノ爲シタル事項ハ判然其性質ノ商事ニ屬スルモノヲ除クノ外悉皆民事ト看做シ以テ民事裁判所ノ管轄ト爲ス而シテ其管轄ノ異ナルニ隨テ訴訟法モ亦大ニ其手續ヲ異ニセリ(第六百三十八條第二項)

第四 商人ノ賣掛代金取立ノ訴權ハ一年ノ期滿免除ニ由リテ消滅ズルモ非商人ノ掛賣代金取立ノ訴權ハ三十年ノ期滿免除ニ由ルモノトス蓋シ商人ノ賣上ケ代金ハ其營業資本ニシテ且ツ商人ハ其歩合ニ依テ生活スルモノナレハ之ヲ一年以上棄テ置クノ理ナク且ツ商業上ノ取引ハ民事ノ如ク確乎タル證書ヲ授受スルコト太々稀レナルヲ以テ數年ヲ經ルノ後ニ至テハ訴訟上大ニ混雜ヲ來タスノ憂ヲ免レサルナリ故チ以テ一年以上ノ時間ヲ經過シタルキハ法律ニ於テ已ニ其辨濟ヲ

爲シタルモノト思料ス可レハナリ

第五 著名ナル商人ハ商事裁判所ノ裁判官ヲ選舉スルノ權アリ而シテ又商人タルノ身分若クハ商人タリシコトハ商事裁判官ニ撰舉セラルハノ一要件ナリトス

第六 商人ハ商人間ニ於ケル双互ノ商事ニ關スル事件ニ付テハ各自ノ帳簿ヲ以テ證據ト爲スコトヲ得可シ(第十二條)

第七 商人ノ手記シタル證券ノ日附ハ民法ニ定メタル特別ノ手續ヲ要セスシテ確實ナルモノト看做スト雖非商人ノ記シタル證券ノ日附ハ第一千三百二十八條ニ依ルニ之ヲ官署ノ簿冊ニ登記シタル日又ハ之ニ姓名ヲ手署セシ一人ノ死去シタル日又ハ財産封印ノ調書若クハ財産目錄ノ如キ公吏ノ記シタル公正證書中ニ其證書ノ趣意ヲ證明シタル日ヲ以テ確實ノ日附ト爲スカ如ク特別ノ手續ヲ爲サ、ル可ラス

第八 商人ハ商人間ニ於ケル商事々件ニ付テハ裁判官ノ許可ヲ得レハ則チ金額ノ多寡ニ拘ラス證人ヲ以テ證據ヲ立ツルヲ得可シト雖モ非商人ニ在リテハ訴訟ノ目的百五十フランク以上ノ價額ナルトキハ證人ヲ以テ證據ヲ立ツルヲ許サス(商法第百九條及民法第千三百四十一條)

○商事ト民事トヲ區別スルノ利益

第一 商事ハ商事裁判所ノ管轄ニシテ民事ハ民事裁判所ノ管轄トス  
第二 商事ハ總テ商法ニ認ムル所ノ證據ノ方法ニ由テ之ヲ證スルヲ得特ニ證人若クハ人爲ノ思料ヲ以テ證據ヲ立ツルヲ得ルモノトス

第三 商事ノ利子制限ハ百分ノ六ナレモ民事ノ利子制限ハ百分ノ五

第四 商事ニ關スル證券價造ノ罪ハ重クシテ懲役ナレモ民事ニ係リテハ只重禁錮ニ止レリ是レ即チ適用ノ爲メ記シタル證券ニ充分ノ信用ヲ與ヘ商事上ノ信用ヲ増進シ以テ商業取引ヲ圓滑ニ爲スノ主旨ニ由ルモノナリ

第五 商事上ノ賣買并ニ質入ハ普通法ノ規定ニ從フノミナラス尙特別ノ規則ニ從フ者トス其異ナル所ハ他日其所ニ付テ之ヲ説明セン  
第六 商事ヲ以テ平常ノ職業ト爲ス者ハ商人タルノ身分ヲ得隨テ商法ノ支配ヲ受クルニ至ル可シ

夫レ斯ノ如ク商人ト非商人及ヒ商事ト民事トノ間ニハ數多ノ差違アルヲ以テ之ヲ區別スルノ利益決シテ僅少ナラサレハ最モ詳密ニ區分シテ之ヲ判別セサル可カラサルナリ

第一卷 商業帳簿

凡ソ何人ヲ論セス其自製ニ係ル書類ヲ以テ自己ノ利益ト爲ル可キ證據ト爲ス能ハサルハ勿論只々其證據ノ端緒トモ爲ス能ハサルハ古今通シテ證據法一般ノ原則ナリト雖モ獨リ商法ニ在リテハ然ラス爲メニ非常ノ特例ヲ設ケ商人相互ノ間ニ於ケル商事々件ニ付テハ自己ノ記載シタル帳簿ヲ以テ直チニ證據ト爲スヲ得セシムルナリ然リト雖モ商業帳簿ヲ所持スルノ義務ヲ商人ニ負ハシムル所以ハ只其證據ノ便ニ供スル爲メノミニアラス尙ホ商人ノ信用ヲ鞏固ニシテ商業上ノ安寧ヲ維持セシメンカ爲メナリ蓋シ商人ニシテ其自己身代ノ貧富如何ヲ熟知セント欲スレハ則チ帳簿ノ記事ニ依ラサル可ラス又破産ノ場合ニ際シテモ亦チ此帳簿ニ依テ以テ容易ク詐欺ノ有無ヲ發見スルヲ得可ケレハナリ而シテ法律ノ命シテ必ス所持セシムル帳簿ハ三種アリ即チ

## 第一 日記帳

此帳簿ハ商業日々ノ取引契約貸借手形ノ引受及ヒ裏書等ヲ初メ其他如何ナル名義タルヲ問ハス總テ自己ノ管理スル受取高ト支拂高トヲ毎日記入シ且ツ家事費用モ毎月末ニ一纏ニシテ之ヲ記入ス可キモノナリ此家事ノ費用ヲモ記入セシムル所以ハ即チ破産ヲ爲スニ當リ或ハ詐欺ニ涉ルナキヤ否ヤヲ識別スル爲メナリ蓋シ人々活計ノ爲メ日々費消スル高ハ大凡定度アルモノナルヲ以テ將ニ破産處分ヲ受ケントスルニ際シテハ其身代必ス衰羸シテ其用度自ラ減少セサル可ラス然ルニ若シ依然トシテ過分ノ奢侈ヲ極ムルアレハ是レ其詐欺ノ所爲アルヲ判然明証スルニ足ル可レハナリ(第八條)

## 第二 書狀書留帳

此帳簿ハ商用ノ爲メ時々差出シタル書狀ニシテ他日ノ證據ト爲ル可

キモノヲ謄寫スルモノナリ而シテ他ヨリ受取タル書狀ハ之ヲ一束ニシテ保存セサル可ラス(第八條第二項)

### 第三 財産目錄帳

此帳簿ハ動産不動産并ニ貸借等ヲモ詳記シタル目錄ヲ謄記スルモノニシテ商人ノ毎年製ス可キ帳簿ナリ(第九條)

斯ノ如ク以上三種ノ帳簿ハ商業上尤モ必要ナルヲ以テ最モ嚴密ニ之ヲ造ラサル可ラス故ニ帳簿ノ紙數ヲ増減スルノ詐術ヲ防ク爲メ商事裁判所ノ裁判官又ハ戶長或ハ其補役ヲシテ該帳簿ノ一葉毎ニ枚數ノ番號ヲ手記セシメリ又タ唯タ其番號ノミニテハ尙ホ別紙ト交換スルヲ得ルノ恐レアルヲ以テ每葉ニ横線(即チ日本ノ花押ト同シ効用ヲ爲スモノナリ)ヲ畫セシメ且ツ以上ノ豫防法ヲ確實ナラシムル爲メ帳簿ノ首尾ニ「某官某検査ス」ト記シ且ツ押印スルヲ以テ法則トス

夫レ帳簿ノ製法斯ノ如ク嚴密ナリト雖モ盛大繁劇ナル商人日々ノ取引實ニ無數ナルヲ以テ概テ前述ノ手續檢印ノ濟ミタル數部ノ帳簿ヲ整ヘテ豫メ之ヲ所持スルカ故ニ破産ノ處分ヲ受ケントスル場合ニ至リテ若シ帳簿ノ記事ヲ瞞着セント欲スルトキハ帳簿全部ノ記載ヲ他ノ帳簿ニ寫シ適宜取捨シテ以テ詐欺ヲ行フノ弊害アルニ依リ日記及目錄ノ二帳簿ニ限リ毎年一度其時限ヲ豫定セス率然官吏ヲ派出シテ不意ニ其帳簿ヲ検査セシメ其現ニ記載シタル續キニ検査ノ旨ヲ記シ且檢印ヲ押サシム是レ其弊害ヲ防禦スルノ方法ナリ然レモ年々此手續ヲ執行スルハ頗ル煩雜ナルヲ以テ實際ニ於テハ手數ヲ省キテ此検査ヲ爲サスト云フ然ラハ則チ帳簿ノ規則ニ背戾スルヲ以テ證據ト爲シ以能ハサルカ如シト雖モ習慣上已ニ之ヲ認許スルニ至レリ然リ而シテ書狀書留帳ニ至テハ其差出シタル書狀ノ實物ハ必ス受取人ノ手裏

存在スルヲ以テ前二帳ノ如ク煩雜ナル検査ヲ爲スヲ要セサルナリ  
 以上ノ三帳簿ハ何レモ皆ナ白地空行ヲ餘サス又欄外ニ乱記セスニ  
 日附ノ順序ニ從ヒ賣買支拂等正シク之ヲ記載セサル可ラス其餘白空  
 行等ヲ禁スル所以ハ則チ詐欺ヲ豫防センカ爲メナリ  
 而シテ商人ハ此等ノ帳簿ヲ十年間必ス保存スルノ義務アルモノトス  
 故ニ十年間ニ在テハ訴訟ノ際相手方ノ請求アルカ又ハ裁判官ノ職權  
 ニ依テ帳簿差出シノ命令アルキハ必ス之ヲ差出サ、ル可カラサルナ  
 リ  
 然レモ爰ニ一題ノ疑問アリ即チ十年以後ニ至リ尙ホ之ヲ保持シタル  
 キハ訴訟ノ際之ヲ差出サシムルヲ得ルヤ否ヤト是レ學者中往々議  
 論ヲ挾ムモノナキニ非スト雖モ一般ノ定説ニ依レハ之ヲ所持スル者  
 ヨリ證據トシテ提出シタル場合ニ於テ裁判官之ヲ確實ト認ムレハ採

用スルモ妨ケナシト雖モ十年以後ハ已ニ保存義務ノ消滅シタルモノ  
 ナルヲ以テ素ヨリ相手方又ハ裁判官ヨリ強ヒテ之ヲ出サシムルヲ  
 得スト

○帳簿ノ制裁

凡ソ商人ニシテ右三種ノ帳簿ヲ所持セス又ハ之ヲ所持スルモ其記載  
 ノ方法甚タ不規律ナルキハ二箇ノ制裁アリ即チ破産ノ時懈怠倒産ノ  
 處分ヲ受クルコアリ(第五百六十八條第六項)及訴訟ノ際自己ノ證據ト  
 シテ之ヲ呈出スル能ハサルヲ以テ遂ニ敗訴スルニ至ル是レナリ

○帳簿ノ効力

凡ソ帳簿ノ効力如何ヲ推究セント欲セハ其訴訟事件ノ商人相互ノ間  
 ニ起リタル時ト商人ト非商人ノ間ニ生シタル時トヲ區別セサル可ラ  
 ス

## 第一 商人相互ノ間ニ起リタル訴訟

此場合ニ於テハ其記載方ノ不規律ナルト否トニ關セズ帳簿ハ總テ之ヲ所持スル商人ニ對シテ反對ノ證據ト爲ルモノナリ然レモ相手方ニ於テ其記載ヲ引用シ以テ自己ノ爲メ證據ト爲サント欲スルトキハ必ス其引用シタル記載ノ全部ヲ取り以テ證據ト爲サ、ル可ラズ決シテ之ヲ取捨シテ或ル一部分ヲ證據ト爲ス能ハサルナリ夫レ商業帳簿ハ此ノ如ク自己ニ反對ノ證據ト爲ルヲ以テ其本則トスルカ故ニ自己ノ證據ト爲スニハ法律ニ從ヒ正シク記載シタル帳簿ニ限ルモノトス但シ規則ニ適シタル帳簿ト雖モ裁判官ニ於テ若シ其模様ノ怪シキモノト認メタルキハ之ヲ證據ト爲スヲ許サ、ルコトアル可シ例ヘハ双方通謀シテ詐欺ノ記載ヲ爲シタルキノ如キ是レナリ然リ而シテ自己ノ爲メ帳簿ヲ證據ト爲サンニハ尙ホ商人間ニ起リタル商事ノ訴訟タル

ヲ要スルナリ然レモ此商人間云々ノ語ニ付テ亦モ一場ノ議論アリ即チ商人間ニ起リタル訴訟事件ノ必ス双方ノ爲メ商事タルヲ要スルカ將タ一方ノ爲メ商事ナレハ則チ可ナルヤ之ヲ例スルニ吳服商タル者自己ノ消費ニ充ツル爲メ酒商ヨリ酒若干ヲ買ヒ得タリト假定セシニ其身分ハ双方商人ナレトモ其事件ハ相互ノ商事ニアラス即チ酒商ノ爲メニハ商事ニシテ吳服商ノ爲メニハ民事ナリ此ノ如キ事件ニ付訴訟ノ起リタルキハ亦モ其帳簿ヲ以テ直チニ證據ト爲スヲ得可キヤ否ヤト其論左ノ如シ

一 說ニ曰ク第十二條ニ「商業帳簿ハ商事ニ付キ商人間ニ於テ證據ト爲スヲ得」云々ト單ニ商人トノミアリテ相互ノ商事ト明言セサルカ故ニ一方ノ爲メノミ商事ナルキト雖モ同シク其帳簿ヲ以テ證據ト爲スヲ得可シト

又一説曰第十二條ニ於テハ相互ノ商事ト明言セサルモ已ニ第八條ニ於テ家事費用ハ總括シテ之ヲ其月末ニ日記帳ニ記載ス可シト命シタルヲ以テ該訴訟ノ場合ニ際シ酒商ニ在テハ其義務ニ由リ明細ニ記載シアルヲ以テ其證據明瞭ナルカ如シト雖モ吳服商ニ在テハ只タ家事費用ナルヲ以テ其總括ヲ記載スルノミ故ニ一方ニ於テハ舉証ノ便チ有スレモ他ノ一方ニ於テハ其舉証ニ苦ムナラン是ノ如ク法律ハ一方ヲ害シテ一方ヲ利スル如キ偏頗ノ處置ヲ爲サハルナリ是故ニ家事費用ヲ總括シテ記載ス可キヲ命シタル此法律ノ精神ヨリ考究スルモ相互ノ商事ニ係ルニ非サレハ證據ト爲ス能ハサルハ已ニ分明ナリト是レ一般ノ定説ニシテ余ノ可トシテ信スル所ナリ

第二 商人ト非商人トノ間ニ生シタル訴訟

此場合ニ於テハ非商人ハ素ヨリ帳簿ヲ所持スルノ義務ナキヲ以テ商

人ノ所持スル帳簿ハ非商人ニ對シテ證據ト爲ラサルハ勿論其證據ノ端緒トモ爲ラスシテ反テ自己ニ對シ不利利益ナル反對ノ證據ト爲ルモノナリ然レモ之ヲ所持スルニ於テハ全ク其利益ナキニアラス即チ訴訟ノ際若シ双方證據ノ不分明ナルキノ場合ニ於テハ民法第千三百二十九條ニ從ヒ裁判官ハ其帳簿ヲ所持スル商人ヲシテ補足ノ誓ヲ爲サシムルヲ得ルニ依リ若シ其命ニ應シテ誓ヲ爲スルハ遂ニ之ヲ以テ勝訴ト爲ルヲ得可キナリ

○帳簿ノ檢視

帳簿ノ檢視ハ一部分ノ檢視ト全部檢視ノ區別アリ

第一 一部分ヲ檢視スル場合ハ即チ訴訟ノ場合ニ際シ原告又ハ被告ヨリ帳簿中該訴訟ニ關スル部分ノ檢視ヲ請求シ或ハ裁判官ノ職權ヲ以テ檢視ヲ命スルニ依ルモノナリ而シテ此場合ニ際シ若シ其訴訟ヲ

爲ス地ニ帳簿ノ在ラサルキハ其所在ノ地ノ商事裁判所又商事裁判所  
ノ在ラサルキハ其治安裁判所ニ依頼シテ其訴訟ニ關スル一部分ヲ臆  
寫シテ遞送セシムルヲ得ヘシ

此場合ニ際シ所持人ニ於テ若シ其帳簿ノ差出シヲ拒ミタルキハ裁判  
官ハ他ノ一方ニ對シテ誓ヲ命スルヲ得ルニ因リ彼レ若シ其命ニ應  
シテ誓ヲ爲スキハ爲メニ勝訴ト爲ル可キナリ

第三 全部ノ檢視ハ非常ノ事ナリ猥リニ一家ノ身代ヲ開示シテ他人  
ニ之ヲ知ラシムルハ商業上不都合ヲ來スノ恐レアルヲ以テ法律ハ之  
ヲ制限シテ只タ遺物相續、財産共通、會社ノ財産分派、及破産ノ四ケノ場  
合ヲ除クノ外ハ全部ノ檢視ヲ許サ、ルナリ而シテ此四ケノ場合ニ於  
テハ概テ其身代ヲ一洗スルノ秋ナルヲ以テ全部ヲ檢視スルモ平時ノ  
如ク敢テ不都合ヲ醸スノ憂アラサルナリ良シヤ不都合アルモ此場合

ニ於テハ必ス全部ヲ檢視スルニ非ラサレハ能ク其事實ヲ詳悉スル能  
ハサルヲ以テ亦タ已ヲ得サルノ時機ト云フ可キノミ

以上講述スル所ノ三帳簿ハ法律ノ命スル所ニシテ商人ハ義務トシテ  
必ス之ヲ所持セサル可ラス而シテ實際ニ於テハ其商業ノ都合ニ依リ  
尙ホ其他種々様々ナル數十冊ノ帳簿ヲ所持スルモノニシテ就中大帳  
ノ如キハ最モ必要ノモノナリ抑日記帳ハ日々ノ取引契約等一切ノ事  
件ヲ記録シタルモノナルヲ以テ此一帳簿アレハ總テノ事實ヲ詳悉ス  
ルニ充分ナルカ如シト雖モ一切ノ事件錯雜混入スルヲ以テ只タ某ノ  
一事件ヲ見出サントスルモ容易ニ辨別スル能ハサルナリ故ニ弘ク商  
業ヲ營ム者就中會社ノ如キニ於テハ必ス大帳ヲ所持セサル可ラス蓋  
シ大帳ハ其種類ヲ區別シテ各般其題目ニ從ヒ之ヲ記載スルヲ以テ一  
目瞭然タルノ便利アリ而シテ其大帳ニ記載スル簿記法ノ如キハ茲ニ



説ク可キヲニ非スト雖モ諸君若シ裁判官トナリ代言人トナリテ實際其職務ニ從事スルニ當リ之ヲ檢視スル場合ニ於テ必要ナルコトアラン故ニ其必要ナル部分ノ大畧ヲ説カンニ其方法ハ則チ單記簿法ト複記簿法ノ二箇アリ其單記簿法ハ單一ニ記載シ複記簿法ハ重複シテ記載スルモノナリ其方法ハ則チ左ノ如シ

### 單記簿法

單記簿法ハ人ト人トノ關係ヲ示スモノニシテ帳簿中部類ヲ分チテ各箇ノ區畫ヲ立テ我ニ關係アル各取引主ニ對シ爲メニ一區ヲ備ヘ置キ取引ヲ爲ス毎ニ其區部ニ之ヲ記載スルモノナリ例ヘハ某甲ニ關スル取引ヲ記スルニハ豫メ某甲ニ備ヘ置キタル區畫ノ中央ノ某甲ト記シ其左ニハ借右ニハ貸ト對書シ以テ事毎ニ之ヲ類記ス然ルモハ其中央ニ記シアル某甲ハ其一區ノ主者ナルヲ以テ其左ニ借トアルハ某甲ノ

二

三

借金額ニシテ右ニ貸トアルハ某甲ノ貸金額ト知ル可シ因テ又一例ヲ舉ケンニ余今ヤ甲ヨリ木綿百反ヲ百圓ニテ買取リ未タ其代價ヲ拂ハサルモハ甲ヨリ余ニ百圓ヲ貸シタルヲ以テ右方ナル貸部ニ木綿百反代價百圓ト記ス又余ヨリ甲ニ絹布十反ヲ代價百圓ニテ賣リ未タ其代價ヲ受取ラサル時ハ甲ハ余ヨリ百圓ヲ借リタルヲ以テ左方ナル借部ニ絹十反代價百圓ト記スルカ如シ其他皆之ニ準ス

夫レ此方法ニ由テ記載スル時ハ甲ト余トノ關係如何ヲ知ラント欲スルニハ只其貸借兩柱ヲ加フルノミニニシテ其取引ノ實況ヲ瞭知スルヲ得可シト雖モ自己ノ財産總計ノ幾許アルヤ又出額ノ幾許ナルヤ即チ自己ノ身代如何ヲ詳知スル能ハサルナリ何トナレハ只タ掛ノ賣買ヲ記スルノミニニシテ現金拂ノ取引ハ一切之ヲ記入セサルヲ以テ實際賣買ノ高チ知ル能ハサレハナリ是レ單記簿法ノ欠所ナリ而シテ又單

記簿ナルキハ其字面ノ如ク單一ニ記載スルヲ以テ若シ誤記脱漏等アルキハ彼ノ繁雜ナル日記帳ヲ持出シテ片端ヨリ一葉毎ニ之ヲ搜索セサレハ之ヲ確知スル能ハサルノ不便アリ故ニ盛ニ取引ヲ爲ス商人ハ必ス複記簿法ヲ用ユルナリ

## 複記簿法

複記簿法モ亦帳簿中部類ヲ分チ猶且人ト人トノ關係ト物ト物トノ關係ヲ區別シテ同一事件ヲ兩柱ニ重記スルモノナリ故ニ人ノ部、物件ノ部ノ二目アリ而シテ人ノ部ノ記載法ハ單記簿ト異ナラサルヲ以テ今ハ只タ物件部ノ記載法ヲ示サン

物件ノ部モ亦タ人ノ部ト同ク帳簿中部類ヲ區畫シテ商品ノ部、金庫ノ部、受取可キ手形ノ部、支拂フ可キ手形ノ部、損益ノ部、等ヲ區別シ以テ各部ニ一冊ノ帳簿ヲ供スルカ又ハ一冊ノ帳簿中ニテ其區畫ヲ立テ以テ

四

五

取引毎ニ之ヲ記載ス可シ今マ商品賣買ニ關スル取引ノ一例ヲ舉ケテ之ヲ示サンニ其豫メ供ヘ置キタル商品部ノ中央ニ商品ト記シ又金庫ニ供ヘ置キタル部ノ中央ニ金庫ト記シ(其他皆ナ之ニ準ス)各々其左ニ借ト記シ右ニ貸ト記ス而シテ其中央ニ記シアル商品又ハ金庫ヲ以テ其部ノ主者ト定メ恰モ之ヲ一箇人ノ如ク看做スモノトス故ニ其左ニ借トアルハ則チ其主者(商品又ハ金庫)ノ借ニシテ右ニ貸トアルハ亦タ其主者ノ貸ナルヲハ前法ニ異ナラサルナリ然而シテ木綿百反ヲ現金百圓ニテ買入タル時ハ商品ノ部ハ木綿百反増加シテ金庫ハ其代價百圓ヲ支拂フテ減少スルカ故ニ商品部ノ左方ナル借方ニ金庫ヨリ金百圓ト記シ金庫ノ右方ナル貸方ニ商品ヘ金百圓ト記ス又其反對ニ出テ、絹十反ヲ百圓ニテ賣リタル時ハ商品部ヨリ絹十反減シタルヲ以テ商品部ノ右方ナル貸方ニ金庫ヘ金百圓ト記シ金庫ハ百圓増加シタル

## 商法

ヲ以テ左方ナル借方ニ商品ヨリ金百圓ト記ス

右ハ現金賣買ノ例ナルヲ以テ人ト人トノ關係ナシ只金庫ト關係アル  
ノミ故ニ金庫ノ部ト商品ノ部ト兩柱ニ記載スト雖モ期限拂賣買ノ場  
合ニ於テハ直チニ金圓ノ出入ナク反テ取引先ト關係ヲ生スルアルヲ  
以テ乃チ人ノ部ト商品ノ部ノ兩方ニ記載セサル可ラス而シテ其期限  
ニ至リ支拂ヲ爲シタルキハ則チ人ノ部ノ貸方ニ其受取りタル金圓ヲ  
記シ金庫部ノ借方ニ之ヲ記載ス是レ正金賣買ノ取引ニ關スル記簿法  
ナリ

若シ又商品ヲ百圓ニ賣リ其價金ノ代リニ爲換手形又ハ約束手形ヲ受  
取りタル場合ニ於テハ受取ル可キ手形部ノ借方ニ商品ヨリ金百圓ト  
記シ商品部貸方ニ受取ル可キ手形部へ金百圓ト記ス若シ割引ヲ以テ  
其手形ヲ銀行へ九十五圓ニテ賣却シタル等ノ場合ニ於テハ金庫部ノ

六

七

借方ニ其金圓九十五圓ヲ記シ又受取ル可キ手形部ノ貸方ニ之ヲ記シ  
尙ホ損益部ノ借方ニ金五圓ト記載ス以下之ニ準シテ記載ス可シ今マ  
一々其例ヲ舉ケテ之ヲ明瞭ナラシムルハ頗ル繁雜ニ涉ルヲ以テ予ハ  
之ヲ爰ニ止ム可シ諸君宜シク以上ノ例ヲ追フテ自ラ其他ヲ類推セヨ

### 第三卷 會社

本卷會社ノ規定ハ商法中最モ不備ナルモノニシテ全ク民法ノ規定ヲ  
借ルニ非サレハ決シテ其完全ナルヲ得ス特ニ株式差金會社及ヒ株式  
會社ノ如キハ千八百六十七年ノ會社法ニ依ルモノナルヲ以テ民法典  
ニハ勿論商法典中ニモ尙ホ其詳細ナル規定ナキナリ

#### 一般會社ノ總論

總論中ニ講述ス可キモノハ乃チ一般ノ會社契約ニ必要ナル條件會社  
ト財產共通トノ差違、商事會社ヲ識別スルノ條件、商事會社ト民事會社

ヲ區別スルノ利益會社ヲ無形人ト認ムルノ理由及其可否會社ヲ無形人ト爲シタル結果等是ナリ

○一般ノ會社契約ニ必要ナル條件

夫レ會社トハ如何ナルモノナルヤ先ツ其性質ヲ確定セサル可ラス蓋シ理論上ヨリ其定義ヲ下ストキハ會社トハ多人數集合シテ同一ノ目的ヲ以テ同一ノ事業ヲ經營スル集合躰ヲ云フナリ佛語ニテ之ヲ「ソシエター」ト云フ此語ハ實ニ廣漠タル語ニシテ彼ノ國ト云ヒ縣ト云ヒ又婚姻ト云フモ皆此「ソシエター」ナラサルハ莫シ又此廣汎ナル意味ヲ以テ云フトキハ彼ノ學士會院、地學協會、佛學會等皆「ソシエター」即チ會社ト稱スルヲ得ヘシ然レモ是ヨリ研究セントスル所ノ會社ハ斯ノ如ク廣汎ナル意味ニアラスシテ民法第千八百三十二條ト第千八百三十三條ニ規定シタル所ノ會社ヲ云フナリ第千八百三十二條ニ曰ク會

八

九

社トハ二人以上ニテ互ニ物ヲ共通シ其利益ヲ分クントスルノ契約ヲ云フト然レトモ只ク此條ヲ以テ充分ニ會社ノ義解ヲ示セシモノト爲ス可ラス其後條即チ第千八百三十四條ニ曰ク會社ハ法ニ適シタル事ヲ目的ト爲ス可ク且ツ會社中各人ノ利益ノ爲メ之ヲ爲ス可シト其第二項ニハ會社中ノ各人ハ金圓又ハ物品又ハ勞力ヲ其會社ニ供ス可シトアリ此兩條相合シテ始テ會社ノ完全ナル定義ト云フ可シ故ニ法律上ニ於テ會社ノ定義ヲ下スルハ乃チ二人以上利益ヲ得ンカ爲メ資本ヲ讓出シテ之ヲ共通シ以テ其所得ノ利益ヲ共分シ其損害ヲ分擔スルノ契約ヲ云フナリ而シテ此定義ヲ分拆スレハ即チ會社モ亦ク契約ナルヲ以テ彼ノ契約ノ成立ニ必要ナル條件即チ各社員ノ承諾、確定ノ目的及ヒ適法ノ原因アルヲ要スヘキハ勿論其他尙三ヶノ要件アリ即チ

第一 差入物件

商法

八十七

## 第二 得利ノ目的

八十八

### 第三 損益共分

此三要件ト契約ノ成立ニ必要ナル條件ト都合此六要件ヲ具備シテ始テ完全ナル會社契約ト云フ可シ若シ其一ヲ欠クハ會社ノ契約決シテ成立セサルモノトス故ニ裁判官タル者將ニ會社ノ成否ニ關スル爭論ヲ審判セントスルハ必ス先ツ此要件ノ具備スルヤ否ヤヲ探究セサル可ラサルナリ而シテ若シ會社契約ノミニ必要ナル條件ヲ欠クニ於テハ未ダ會社ノ契約ハ成立セサルモノト爲シテ會社法ニ依ラス唯ダ一般ノ契約法ニ據テ其爭論ヲ判決ス可キナリ

第一差入物件 差入物件トハ各社員ヨリ會社ノ資本トシテ差出ス所ノ貨幣勞力其他總テノ有價物件ヲ云フ故ニ價額アル物件ニシテ其權利ヲ移轉シ得可キモノナルハ有形ト無形トヲ問ハス又動産ト不動

十

十一

産トヲ問ハス總テ會社ノ資本ト爲スヲ得ルナリ又或ル學者ノ説ニ依レハ商業上ノ信用モ亦タ差入物件ト爲スヲ得可シト是レ亦タ可ナリ

借テ會社ニ物件ヲ差入ル、ノ方法ニ種々アリ即チ物件ノ全所有權ヲ差入ル、アリ又収實權ノミニ差入ル、アリ或ハ單ニ供用權ヲ差入ル、アリ而シテ確定物ノ全所有權ヲ差入ル、ノ契約ヲ爲シタルハ契約者双方ノ合意ノミニテ其所有權ハ已ニ會社ニ移轉セルカ故ニ未ダ其物件ヲ會社ニ引渡サ、ル以前ト雖モ天災又ハ抗拒ス可カラサル力ニ依テ其物件ノ破損滅盡シタルハ會社ニ於テ其損失ヲ擔當セサル可ラサルナリ何トナレハ凡ソ物件ノ破損滅盡ハ其所有主之ヲ擔當セサル可カラサレハナリ夫レ然リ然レモ又金圓ニアラサル物件ヲ差入レタル社員ハ恰モ會社ニ之ヲ賣渡シタルト同一一般ナルヲ以テ會社ニ

商法

八十九

對シ賣主ノ義務ヲ負フモノナリ故ニ其差入物件ニ付キ差入前ノ原因  
 ニ由テ故障ノ生シタルキハ自カラ其責ニ任シテ民法第千六百二十條  
 及ヒ其以下ニ定メタル擔保ノ義務賣却シタル物件ヲ請合フノ義務ヲ  
 盡サヘル可カラサルナリ

又収實權ヲ以テ差入物件ト爲シタル場合例ヘハ土地ノ如キ只タ其生  
 スル所ノ果實ヲ収獲スルヲ會社ニ許シテ其所有權此場合ニ於テハ  
 虛所有權ノミハ依然己レ之ヲ保有スル場合ニ於テ若シ天災又ハ意外  
 ノ事變ニ因テ其土地ノ滅盡シタルキハ差入人(乃チ社員)ニ於テ其虛所  
 有權ノ損失ヲ擔當シ其収實權ノ滅盡ハ會社ニ於テ之ヲ負擔セサル可  
 ラス何トナレハ収實權其物ハ已ニ會社ノ所有ニ歸シタルモノナレハ  
 ナリ然リト雖モ若シ収實權ノ目的物ニシテ他ノ物品ヲ以テ代用シ得  
 可キ動産ナルキ例ヘハ會社ニ米又ハ大豆若干ニ付テノ収實權ヲ差入

レタル場合ノ如キニ於テハ只タ其収實權ノミナラス其所有權モ共ニ  
 會社ニ移轉スルヲ以テ其米又ハ大豆ノ滅盡シタルキハ其損失ハ會社  
 ノ負擔ニ歸スルモノトス何トナレハ此場合ニ於テハ所有權モ共ニ會  
 社ニ移轉スルニ非レハ到底收實者(會社)ニ於テ其差入物件ニ付キ利益  
 ヲ受クル能ハサレハナリ

又供用權ノミチ差入レタルキハ會社ノ目的ハ只其物品ヲ自己ノ用ニ  
 供スルノ權ヲ有スルノミ即チ其權利ハ彼ノ對人權ニシテ借地人、借家  
 人等ノ權利ト異ナラサルナリ何トナレハ其社員ニ於テハ會社ヲシテ  
 恙カナク其物件ヲ使用セシムルノ義務アレハナリ而シテ此差入物件  
 ナ名ツケテ連續ス可キ差入ト云フ如何トナレハ差入人乃チ社員ハ會  
 社ヲシテ日々引續テ其物件ヲ恙カナク使用セシムルノ義務アルカ故  
 其狀恰モ日々ニ差入ヲ爲スト相異ナラサレハナリ例ヘハ或ル社員ヨ

リ會社ノ本店用トシテ家屋ヲ差入レ其大修繕ハ勿論小修繕ニ至ルマテ自ラ負担シ此社ヲシテ安全ニ住居セシムル場合ノ如キ是レナリ蓋シ該社員ニ於テ其大修繕ヲ自己ニ負担スルヲ以テ見レハ該家屋ノ全所有權ヲ會社ニ差入レタルニアラス故ニ其處分權ハ會社ニ轉移セス又其小修繕ニ至ルマテ自カラ引受クルヲ以テ見レハ該家屋ノ收實權ヲモ差入レタルニアラス故ニ會社ハ該家屋ヲ他人ニ賃借スルヲ得ス唯タ會社ハ其所有主タル社員ニ對シ恙ナク家屋ヲ會社ノ用ニ供セシムルノ權ヲ有スルニ過キサレハナリ是故ニ供用權ヲ差入レタル場合ニ於テ未タ其物件ヲ實際會社ニ引渡サ、ルノ前ニ滅盡シタルキハ其約束ノ權利即チ差入物件ヲ最早差入ル、能ハサルカ故會社ハ成立スル能ハサルモノトス若シ又其滅盡タル引渡後ニ係ハルキハ一旦成立シタル社會モ亦タ解散セサル可ラス何トナレハ差入人ニ於テ最早引

續テ其約束ノ差入ヲ爲ス能ハサレハナリ又貨幣ヲ以テ差入物件ト爲シタル場合ニ於テハ民法ノ規定第千百五十三條ニ異ナル二點アリ第一ニハ社員ハ其差入物件ナル金圓ヲ引渡ス可キ期日ニ之ヲ引渡サ、ルキハ其期日ヨリ會社ニ對シ相當ノ息銀ヲ支拂ハサル可ラス之ニ反シ普通法ニテハ出訴ノ日ヨリ又ハ之カ爲メ特約アルキハ其契約ノ日ヨリ金高ニ息銀ヲ付スルヲ以テ足レリトス第二ニハ膏ニ息銀ヲ拂フノミナラス差入人カ其約束ノ期日ニ之ヲ差入レサルニ依リ會社ニ損害ヲ被ラシメタルキハ尙ホ之ヲ償ハサル可カラス是ニ反シ普通法ニテハ金圓支拂ヒノ怠リニ因リ生シタル損害ハ別段之ヲ償フニ及ハス蓋シ出訴ノ日又ハ契約ノ日ヨリ息銀ヲ付スルハ則チ損害ヲ償ハシムルノ代リト云フ可キナリ夫レ是ノ如ク普通法ハ寬ニシテ商社法ハ尤モ嚴ナリ是レ他ナシ商人タル者ハ概チ片

時モ通貨ヲ貯ヘ置クコトナク屢々運轉利用シテ以テ其利益ヲ得ルモノナレハ其差入ル可キ期日ヨリ會社ヲシテ之ヲ運轉利用セシメサル可カラズ又差入物件ハ會社ノ目的ヲ達スルノ資本ナルヲ以テ之ヲ差入レサルキハ會社ハ啻ニ其息銀ヲ得サルノミナラス之ヲ活用シテ其得可キ所ノ利益ヲ得ル能ハサレハナリ

又勞力ヲ以テ會社ノ差入資本ト爲スコトヲ得ルナリ勞力トハ其事ノ智力ヨリ出ツルト腕力ヨリ出ツルトヲ問ハズ技術力役勞働等總テ富ヲ生ス可キ吾人ノ働ヲ云フ例ヘハ靴會社ヲ創設スルニ當リ靴工其社員トナリ自己ノ勞力ヲ以テ差入物件ト爲ス如キ是レナリ故ニ勞力ハ亦タ連續ス可キ差入物件ナリ蓋シ工人若シ疾病或ハ死去ノ爲メ職業ヲ勵ム能ハサルニ至リタルキハ會社ハ解散セサル可ラス何トナレハ繼續シテ日々提供セサル可ラサル所ノ會社ノ資本タル勞力ヲ供スル能

ハサレハ會社ハ存續スルヲ得サルハ理ノ當ニ然ル可キ所ナリ  
 第二得利ノ目的 夫レ佛蘭西法ノ精神ニ依テ會社ノ主意ヲ解スレハ共同ノ力ニ依テ利益ヲ博スルノ目的ニ出ツルモノニシテ決シテ危害ヲ避クルノ主義ヲ以テ設立スルモノニ非サルナリ故ニ近頃本邦ニ流行スル彼ノ共濟一錢社ノ如キハ名ハ會社ト稱スルモ佛法ノ支配スル眞ノ會社ニ非サルナリ抑々該社ノ如キハ數人集合シ互ニ出金シテ之ヲ蓄積シ以テ其社員中ノ不幸者ヲ救濟スルモノニシテ取モ直サス相互ノ保險契約ノ如キナレハ唯々各自其將ニ遭遇セントスル所ノ危難ヲ避クルノ目的ニ出テ其進テ利益ヲ得ント欲スルモノニ非サルナリ故ニ是等ハ決シテ會社法ヲ以テ支配ス可キモノニ非ス即チ是等數人相互間ノ契約ニ係ハルモノハ則チ民法ニ從ヒ契約法ノ規定ヲ以テ支配ス可キモノトス故ニ今マ一人ノ一團結ニ係ハル爭論ニ付キ法司ノ法



夫擬スルニ當テハ必ス先ツ其團結ノ性質如何ヲ判定セサル可ラス而シテ之ヲ判定スルニハ會社契約ノ成立ニ必要ナル條件ヲ具備スルヤ否ヤヲ審明シ其之ヲ具備スルニ於テハ之ヲ會社ト認メ以テ會社法ニ問ヒ否ヲサレハ一般ノ契約法ニ依テ以テ審判セサル可ラス是レ佛法ノ規定スル所ナリ然レハ條理上ヨリ之ヲ論スルキハ此要件ヲ具有スルト否ヤニ拘ラス同一ノ目的ヲ以テ同一ノ事業ヲ營ム一團結ハ總テ之ヲ社中ト稱シ會社ト唱ヘテ然ル可キナリ恐ラク人ノ團結ハ皆ナレ會社ナラサルナシト斷言スルモ敢テ不可ト稱スル能ハサル可シ然レハ佛法ヲ始メ歐米各國ノ會社法ニ於テ之レカ區別ヲ爲シ且其要件ヲ定メテ之ヲ具備スルモノハ會社ト爲シ否ヲサルモノハ會社ニアラスト爲ス所以ハ其性質稍異ナルアルヲ以テ若シ嚴整ナル同一ノ規定ヲ以テ總テ之ヲ支配スルキハ實際其便否ノ感動ヲ受クル淺鮮ナラサ

ルニ依リ其區域ヲ判別シ以テ會社ト稱ス可キモノ、爲メニハ嚴整ナル特別規則ヲ制定シテ之ヲ保護シ且其惡弊ヲ豫防シ以テ其永續ヲ企圖スト雖ハ其他ノ團結ニ至テハ之ヲ普通ノ規則ニ讓リ敢テ之ヲ嚴制セサルナリ

諸テ其社員中ノ利益配分及ヒ損失擔當ノ割合ハ各自隨意ニ定メタル所ノ會社契約ノ規定ニ依ルカ又ハ其契約中ニ指定シタル判斷人ノ判定ニ依テ定ムルモノナリト雖ハ若シ斯ル契約ノアラサル場合ニ於テハ乃チ各自ノ差入物件高ニ準シテ之ヲ定ムルノ例規ナリ而シテ其勞力ヲ差入レタル者ノ割合高ハ會社ニ爲シタル差入物件中最モ小量高ノ割合ニ均シキモノト規定セリ民法千八百五十三條是レ甚タ不當ナル規定ト云ハサル可ラス夫レ勞力ノ價額ハ實際之ヲ定ムルノ困難ナルヲ以テ爲メニ數回訟廷ヲ煩ハスアルモ知ル可カラスト雖ハ上等ノ技術ニ至

テハ其勞力モ亦タ貴重ニシテ其價額タル容易ニ得テ評定スル能ハサルモノアラソ然ルニ唯タ其訴訟ノ濫起ヲ豫防スルノ口實ヲ以テ拾把一束ニ之ヲ斷定シテ差入物件中最少差入ノ額ト均シト爲シタルハ豈立法者ノ不深切ニアラスシテ何ソヤ

第三損益共分 會社ナルモノハ各社員ノ爲メ共同ノ利益ヲ目的トシテ設立ス可キモノトス故ニ其事業ヨリ生スル損益ハ各社員之ヲ共分セサル可カラサルナリ若シ此主旨ニ背キ損益ヲ共ニセサルノ約ヲ以テ唯タ數人一團結ヲ爲スト雖モ其外形ハ稍々會社ニ彷彿タルモ其實決シテ然ラサルナリ蓋シ社員中或ハ一人一方ノミ專ラ會社ノ利益ヲ占得シテ他ハ其分配ヲ受ケサルカ如ク其利益ヲ共ニセサルアルニ於テハ之ヲ佛法ノ認ムル眞ノ會社ト稱スルヲ得サルナリ是レ所謂獅子會社(ソシエター、レテニース)ト名ツクルモノニシテ嚴ニ佛法ノ禁スル

所ナリ而シテ法律ハ唯タ利益ヲ一人ニ歸スルヲ禁スルノミナラス又損失ヲ一人一方ニ歸スルモ亦タ法ノ禁スル所ナリ故ニ各社員ニ於テ多少損益ヲ共分スルハ即チ會社タルノ性質ヲ表識スルノ一要件ナリトス(民法千八百三十三條及千八百五十五條)

是ニ由テ之ヲ見レハ左ノ一例ノ如キハ會社ト稱スル能ハサルナリ即チ甲乙ノ二人共同シテ一輛ノ馬車ヲ備ヘ以テ營利ヲ企圖セント欲シ爲メニ其資本トシテ甲ハ馬一頭乙ハ車一輛ヲ持出シ隔日隔番ニ之ヲ使用スルカ如キ是レナリ是等ハ唯タ一ノ組合ニ過キサルノミ其故如何トナレハ人ノ往來ハ時日ニ依テ繁閑ノ異同アリ或ハ甲ノ之ヲ使用スルモ乙ニ當テハ乘客陸續トシテ間斷ナク爲メニ充分ノ利益ヲ得ルアルモ乙ノ使用スルニ際シテハ之ニ反シ乘客稀レニシテ當ニ利益ヲ得サルノミナラス反テ損失ヲ被ルアルモ知ル可ラス此ノ如ク損益異同

アルチモ相顧ミス只タ其時日ノ長短ヲ均シクシタリトテ其損益ヲ相  
平分セサルキハ即チ社員ハ損益ヲ共ニス可シトノ要件ニ背戻スルチ  
以テ決シテ會社ト稱スル能ハサルナリ

又數人積金シテ互ニ相約スルニ殘生者ハ先死著ノ持分高チ并有スト  
云フカ如キハ亦タ是レ一箇ノ組合(トナリス)ニシテ會社ト稱スルモ  
ノニアラサルナリ何トナレハ獨リ殘生者ノミ其大利ヲ占得シテ各員  
其利益ヲ共ニスルニ非サレハナリ

然リ而シテ會社ト稱スルニハ各員唯タ利益ヲ平分スルノミナラス尙  
ホ損失モ亦タ分担セサル可カラズ故ニ商人カ其手代番頭等ト相約ス  
ルニ營業ヨリ生スル利益ノ幾干ハ互ニ配分ス可シ損失ハ己レ獨リ之  
ヲ負擔スト云フカ如キ契約ヲ爲スハ商業社會ノ習慣ナリト雖此契  
約ヲ以テ會社契約ト稱スル能ハサルナリ何トナレハ手代番頭ハ利益

ノミチ得テ損失ヲ分擔セサルノミナラス亦タ其營業資本ノ共有者ニ  
アラサルナリ

是等ハ只其外面ヨリ觀察スレハ殆ント會社ニ似タルアルモ其實決シ  
テ會社タルノ性質ヲ有スルモノニ非サレハ諸君必ス之ヲ混同スル勿  
レ唯タ前陳三ヶノ要件ト并ニ契約ノ成立ニ必要ナル三ヶノ條件ヲ具  
有セル一團結ヲ指シテ始テ會社ト稱スルコトヲ得ルナリ

### ○會社ト財產共有トノ差違

又會社ト其形体相類似スルモノアリ即チ數人結合シテ財產ヲ共有ス  
ルカ如キ是レナリ今其會社ノ性質ヲシテ更ニ判明ナラシメンカ爲メ  
財產共有ト會社トノ差違ヲ爰ニ詳悉セン

第一 會社ハ契約ニ依ルニ非サレハ成立シ得可カラサルカ故總社員  
其契約ニ付キ承諾ヲ與へ且之ヲ與フルノ能力アルチ要ス之ニ反シテ

財産共有ニ付テハ必スシモ此條件ヲ具備スルヲ必要トセス例ヘハ數人協議シテ山林ヲ購求シ以テ之ヲ共有スルカ如キハ即チ契約ニ出ルモノナリト雖トモ今數名ノ相續人ニシテ一箇ノ遺物ヲ相續シ又ハ數名ニシテ一箇ノ贈遺ヲ受ケ而シテ各之ヲ共有保存スルカ如キハ固ヨリ相互ノ契約ナクシテ成立スルモノナリ是ノ如ク承諾ナクシテ成立スルモノハ從テ承諾ヲ與フルノ能力ヲ要セサルヲ以テ未丁年者ノ如キ無能力者ノ間ニモ亦タ成立ツコアル可キ理ナリ

第二 會社ハ資本ヲ利用シテ利益ヲ得ルノ目的ヨリ成立ツモノナリ然レモ財産共有ニ至テハ或ハ利益ヲ得ルノ目的ニ出ツルモノ間々アル可シト雖モ通例ハ其財産ヲ分ツノ不便ナルヨリ已チ得ス之ヲ共有スルモノトス然リ而シテ會社ハ自然ニ公益ヲ助クルカ故ニ法律ハ其繁殖ヲ企圖スルノ精神ヨリ其設立ノ期限ニ制限ヲ立テスト雖モ財産

共有ニ至テハ自然ニ財産ノ運轉流通ヲ妨ケ且其改良ニ障害ヲ來スヲ以テ其數ノ愈々増加スルキハ一般ノ經濟上ニ影響ヲ及スコ益々甚シ是ニ由テ法律ハ其數ノ増加スルヲ好マス即チ共有ニ付テハ年數ヲ定メ五年ヲ以テ限リトナセリ故ニ其以外ニ涉テ契約ヲ爲シタルキハ其契約全ク無効ニ屬スルコアラサルモ有効年限ハ只タ五年ニ止マルモノトス尤モ其期限ニ至リ共有者一同ノ協議ヲ以テ端ヲ改メ更ニ契約ヲ爲シテ之ヲ繼續スルハ此禁制ノ限ニ在ラサルヲ以テ共有者一同ノ希望ニ依ルキハ幾數十年モ其契約ヲ保續スルコチ得ルナリ

第三 會社ハ其種類ニ依リ社員其人ヲ目的トシテ設立スルモノアリ(合名會社、差金會社ノ如キ)故ニ斯ノ如キ種類ノ會社ニ在リテハ社員中死亡スル者アルキハ相續人其死亡者ニ代ルコチ得ルノ特約アルニアラサレハ必ス會社ハ一旦解散セサル可ラス之ニ反シテ財産共有ハ其

人ヲ目的トセルニ非スシテ唯此財産ヲ目的トシ以テ共有スルモノナ  
 レハ共有者ノ一人死亡スルモ其相續人直チニ代リテ共有者ノ列ニ加  
 リ依然先代ノ權利ヲ存續スルコトヲ得可キナリ加之會社ニ在テハ總  
 社員ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ他人ヲシテ己レノ地位ニ代ラシムル  
 コトヲ得スト雖トモ財産共有ニ在テハ隨意ニ自己ノ部分ヲ他人ニ讓  
 渡スヲ得可ク他ノ共有者ニ於テモ亦之ヲ拒ムノ權ナシ唯タ遺物ヲ  
 相續シテ之ヲ共有スル場合ニ限り民法第八百四十一條ニ依リ他ノ共  
 有者ハ讓受人ニ其代價ヲ償ヒ以テ之ヲ退去セシムルノ特權ヲ有スル  
 ノミ其理由タル元來所有者ニシテ其所有物ヲ讓渡スハ固有ノ權利ナ  
 レハ立法者モ敢テ之ヲ禁スル能ハスト雖モ更ニ他人ヲ加フルルハ一  
 親族中ノ私事ヲ露ハスノ不都合ヲ醸スノ恐レアルヲ以テ法律ハ唯タ  
 殘リノ共有者ニ其讓受人ヲ退去セシムルノ特權ヲ附與シタルモノナ

リ

第四 民事會社ニ係リテハ法律家ノ議論未タ一定セスト雖モ商事會  
 社ハ皆ナ之レヲ一箇獨立ノ無形人ト認メリ而シテ財産共有ハ之レニ  
 反シテ無形人ト爲サス唯タ一種ノ結合ト爲セリ夫レ斯ノ如ク無形人  
 タルト否ヤトニ付テハ其結果自ラ莫大ノ差違アリ又法律上會社ヲ認  
 メテ無形人ト爲スト否ヤニ付テハ實際ノ利害僅少ナラサレハ其條項  
 ニ就テ之ヲ詳説セン

### ○商事會社ト民事會社ノ區別

會社ノ民事タルト商事タルヲ知ルニ付キ數説アリト雖モ要スルニ會  
 社ノ民商如何ハ其ノ目的トスル所ノ營業ノ性質如何ニアリ乃チ商事  
 會社ハ商業ヲ爲スニ在リテ商法第六百三十二條第六百三十三條ニ揭  
 クル所ノ事業ヲ爲スモノナラサルヲ得ス又民事會社ト稱スレハ其從

事スル所ノ事業ハ民事ナラサルヲ得ス故ニ會社民商ノ區別ハ其名稱又ハ軀裁ノ如何ニ據ルモノニアラサルナリ譬へハ商事會社ニ用ウル株式等ノ方法ニ依テ民事會社ヲ設立スルモ是ニ因テ直チニ商事會社ノ觀察ヲ下スヲ得可カラサルナリ

○商事會社ト民事會社ヲ區別スルノ利益

商事會社ト民事會社トノ間ニハ莫大ナル差違アルヲ以テ會社ノ民商ヲ區別スルニ付テハ其利益決シテ僅少ナラサルナリ

第一 會社ノ證據及ヒ公告ニ付キ差違アリ 商事會社ヲ設立スルニハ(共分組合ト稱スルモノヲ除クノ外)假令其資本ノ高百五十「フランク」以下ノ場合ト雖モ書面ヲ以テスルヲ必要トシ且其設立ヲ公告セサル可カラズ然ルニ民事會社ニ係リテハ百五十「フランク」以上ノ場合ニアラサレハ書面ヲ以テスルヲ必要トセス且其設立ヲ公告スルニ及ハサ

ルナリ(民法千八百三十四條)但工業組合及ヒ資本増減會社ハ此限ニアラス

第二 管理○人○ノ○權○限○ニ○差○違○アリ 商事會社ノ管理人ハ其權限民事會社ニ於ケルヨリモ尙一層廣キモノトス蓋シ商事會社ニ在テハ其管理人其職權ヲ以テ各社員ヲシテ社外人ニ對シ會社ノ義務ヲ負擔セシムルヲ得ルト雖モ民事會社ニ在テハ然ラス其契約ヲ爲スニ當リ特別ノ權限ヲ受クルニ非サレハ各社員ヲシテ社外人ニ對シ其契約ノ義務ヲ負ハシムルヲ得サルナリ(民法第千八百六十二條)

第三 連○帶○責○任○ニ○付○キ○差○違○アリ 商事會社ノ契約ニ係リテハ假令契約書ニ其旨趣ヲ明記セサルモ社員タル者ハ總テ會社ノ義務ニ付キ連帶シテ其責ニ任セサル可ラス之ニ反シテ民事會社ニ在テハ必ス其明文アルニ非サレハ連帶ノ責任ヲ負ハサルモノトス蓋シ商事上ニ在テ

ハ連帶責任ヲ以テ通則トシ民事上ニ於テハ之ヲ例外トス是レ畢竟商  
事上ニ於テハ特ニ義務者ノ責任ヲ重クシテ一層商業上ノ信用ヲ博セ  
シカ爲メナリ

第四 支拂停止ノ場合ニ付キ差違アリ。商事會社ニ於テ支拂ヲ停止

（支拂停止トハ義務者ニ對シテ支拂ヲ爲サハル商人ノ有）シタルキハ  
様ヲ云フ其詳細ハ破産法ヲ講スルニ當テ之ヲ述ヘン

會社ハ破産ノ宣告ヲ受ケ破産法ニ依テ嚴格ナル處分ヲ受ク可シト雖

凡民事會社ニ在テハ斯ノ如キ場合ニ立至ルモ只「デコンフヒチュール」  
（デコンフヒチュール）トハ支拂無資力ノ有様ヲ云フモ「ノコシテ即チ民事身代限ト稱スルモ可ナリ」ノ處分ヲ受クルノミ。

第五 裁判管轄ニ付キ差違アリ。商事會社ノ社員間ノ爭論ハ商事裁  
判所ニ於テ之ヲ審判シ民事會社ノ社員間ニ係ルモノハ民事裁判所ニ

於テ之ヲ審理スルノ規則ナリ蓋シ往時ニ在テハ商事會社ノ社員間ノ  
爭論ハ仲裁人ヲシテ之ヲ調停セシムルノ成規ナリキ其然ル所以ヲ尋

ルニ社員間ニ在テハ就中親密ノ交際ヲ要スルモノナルニ其爭論ヲ裁  
判所ニ提出シテ公然其黑白ヲ決スルニ至テハ自然情誼ヲ破リ相互ノ  
間終始其親交ヲ保全スル能ハサルヲ以テナリ然レモ實際ノ經驗ニ依  
テ其得失ヲ見ルニ只タ仲裁人ニ在テハ到底之ヲ和解セシムル能ハス  
シテ結局裁判ヲ仰カサル可ラサルモノ往々之レ有リ仲裁人ニ任スル  
ハ遂ニ無益ノ手數タルニ過キサルノミ是ヲ以テ千八百五十六年ニ至  
リ斷然其舊規ヲ廢シテ普通ノ商事裁判所ノ所轄ニ歸セシメタリ

第六 期滿免除ニ付キ差違アリ。商事會社ニ於テハ決算人ニアラサ  
ル社員ニ對スル訴權ハ會社解散後五ヶ年ニシテ消滅スト雖凡民事會  
社ノ社員ニ對シテハ決算人タルト否ヤニ拘ラス通常ノ期滿免除（三十  
年）ニ依ルモノナリ但シ商事會社ニ在テモ其決算人ニ對シテハ民事ノ  
如ク三十年ノ期滿免除ヲ適用セサル可カラズ是レ他ナシ通常ノ社員

ハ會社ノ帳簿等ヲ所持セサルヲ以テ舉證ノ術ニ苦シムト雖モ決算人  
 ニ在テハ會社ノ諸帳簿其他ノ書類ヲ所持スルカ故ニ積年ノ後モ尙ホ  
 證據ヲ舉グルノ便チ欠クモノニ非サレハナリ  
 第七 會社本然ノ性質ニ付キ差違アリ 衆說ニ依レハ商事會社ハ一  
 箇獨立ノ無形人ト認ムルヲ以テ會社ト社員ノ身体ハ全ク別物ナリ然  
 レモ民事會社ニ係リテハ此點ニ付キ學者中議論紛々今日ニ至ルモ猶  
 ホ未ダ一定セサルナリ

### ○會社ヲ無形人ト認ムルノ理由及ヒ其可否

抑々商事會社ヲ無形人ト認メテ民事會社ヲ否ラストスル此論說ノ起  
 因ヲ尋ヌルニ商法中會社ヲ無形人ト認ム可キ判然タル明文ナキヲ以  
 テ學者輩種々ノ條項ヲ引証シ自己ノ意見ヲ附會シテ論斷シタルモノ  
 ナリ今マ其概畧ヲ左ニ陳述セン

先ツ商事會社ヲ無形人ト認ムルニ付キ第一ノ理由トスル所ハ財産篇  
 ノ第五百二十九條ニ依ルモノナリ其條ニ曰ク錢糧貿易工作ノ會社ニ  
 加ハリタル株式及ヒ其利益ハ其會社タル只不動産ノミチ有スルモ社  
 員ノ權利ハ動産ナリト之ヲ畧言スレハ商事會社ハ其資本悉皆不動産  
 ニ依テ成立ツモ社員ノ權利ハ皆動産タル可シト云フノ意ナリ而シテ  
 此錢糧貿易工作等ヲ營ム會社ハ民事ニ非ラスシテ純然タル商事會社  
 ナリ抑々會社ノ資本タル若シ不動産ナルキハ其社員ノ權力モ亦タ不  
 動産ニシテ然ル可キノ理ナリ然ルニ其資本ノ不動産タルニ拘ラス社  
 員ノ權利ハ之ヲ動産タル可シト云フニ至テハ亦タ他ノ理由勿カル可  
 シ即チ其資本ハ社員外ニ何人カ之ヲ所有スル者アル可キノ理ナリ  
 若シ其不動産タル資本ヲ以テ社員ノ所有ニ歸スルモノト爲スキハ社  
 員ノ權利ニ隨テ不動産ヲ得サルヲ得ス故ニ商事會社ノ資本ハ社員外



ノ所有者乃チ會社ニ於テ之ヲ專有シ社員ハ只其會社ノ資本ヨリ生スル利益ノ分配ヲ受ケ且會社解散ノ時其資本ノ分配ヲ受クルノ權利ヲ有スルニ過キサルナリ而シテ社員ノ權利ハ只會社ニ對スルモノニシテ直接ニ其資本ニ付テ存スルモノニアラス故ニ會社ノ資本ハ悉皆不動産タリト雖モ社員ノ權利ハ皆チ動産タルノ權利タルモノトス是ニ由テ之ヲ見レハ資本ハ社員外ノ者乃チ會社ノ所有ニ屬スルヲ以テ商事會社ハ獨立シテ權利ヲ有シ且義務ヲ負フ可キ確乎タル一箇ノ無形人ト云ハサル可カラサルナリ

第二ノ理由ハ訴訟法第六十九條第六項ニ商事會社ニ對スル召喚狀ハ會社ノ本店ニ送達ス可シトアル是ナリ是レ亦タ商事會社ノ無形人タルコトヲ証スルニ足レリ如何トナレハ其會社タル若シ無形人ニアラスニシテ資本ハ皆チ各社員ノ共有ナリトセハ召喚狀ヲ發スルニ當リ一

二

三

々之ヲ其各社員ニ送達セサル可ラサルノ理ナレハナリ

第三ノ理由ハ其創立證書ヲ登記公告スル義務ニアリ即チ商事會社ハ其創立證書等ヲ登記公告セサル可ラス若シ之ヲ爲サ、ルキハ會社ノ創立ハ社外人ニ對シテ其効ナキモノトス蓋シ其登記公告ヲ爲サ、ルキハ會社ノ創立判然セサルヲ以テ恰モ無籍ノ人民ト同一一般ナリ故チ以テ登記公告シテ其成立ヲ公衆ニ明知セシムルノ義務ヲ負ハシメタルニ外ナラス以上ノ理由アルヲ以テ獨リ商事會社ハ早已ニ認テ一箇獨立ノ無形人ト決定シタルナリ

民事會社ニ在テハ其無形人タルト否ヤノ論未タ一定セサルナリ或ハ之ヲ認テ無形人ト爲スモノアリ其論者ノ旨趣トスル所民法ニ會社ノ得可キ權利トアル第千八百四十八條ニ基ケリ即チ其旨趣ハ會社カ或人ニ對シテ債主權ヲ有スルキ社員モ亦其同人ニ對シテ債主權ヲ有ス

ル場合ニ於テ其社員若シ其負債主ヨリ返償ヲ得ル有レハ己レ獨リ之ヲ掌有スル能ハス必スシモ會社ノ權利ト社員ノ權利ノ多寡ニ準シテ之ヲ配布セサル可ラサルナリト該論者ハ此條ヲ執リ以テ民事會社モ亦タ無形人ナリト主張セルナリ是レ確乎タル論理ニシテ未タ會テ駁撃ヲ受ケサルナリ然リト雖モ只本條ノミニ依テ民事會社ヲ無形人ト斷定スルキハ理ニ於テ不可ナキモ奈何コセン法律上他ニ之ト矛盾スル條項夥多アリ少數ニ由テ多數ヲ塗抹スル能ハサルハ理ノ然ラシムル所ナルヲ以テ未タ俄ニ本條ノミニ以テ斷定ス可カラサルナリ加之上段陳述シタル所ノ商事會社ヲ認テ無形人ト爲スノ理由ハ一モ民事會社ノ爲メニ然ルニ非サルヲ以テ民事會社ハ一般ニ之ヲ無形人ト爲サ、ルナリ」右ハ佛法ノ成文ニ基テ獨リ商事會社ハ無形人ナリト解釋ヲ下シタルナリ今ヤ全ク成法ノ區域ヲ脫離シテ會社一般ノ經濟上ヨリ之ヲ論ス

四

五

ルキハ凡ソ會社ハ其商事ト民事トヲ問ハス總テ法律ヲ以テ之ヲ無形人ト爲スノ可ナルニ若カサルナリ其所以ハ會社ニシテ無形人ナルキハ社員ノ差入物件ハ總テ會社ノ有ニ歸シテ社員ノ所有ニアラサルカ故ニ一社員ノ思想ヲ以テ妄リニ其物件ヲ處置スルヲ得ス然レモ若シ之ヲ無形人ト爲サスシテ其資本ヲ各社員ノ共有ニ屬スルモノト爲スキハ社員一己ノ債主ヨリ會社ノ財産ヲ差押ユルヲ得ルニ至ルヘシ之ニ反シテ會社ヲ無形人ト爲スキハ社員一己ニ對スル債主ハ只其社員一己ノ私有物ヲ差押ユルヲ得ルノミニシテ既ニ差入レタル會社ノ財産ハ之ヲ差押ユル能ハサルナリ之ヲ要スルニ無形人ト爲スキハ一二社員ノ私債ノ爲メニ會社財産ノ減少スル憂ナキカ故會社成立ノ基礎自然ニ堅牢ナルヲ理ナリ故ニ會社ハ其民事タルト商事タルトヲ問ハス一切之ヲ無形人ト爲スノ多利ナルニ若カサルナリ

## ○會社ヲ無形人ト爲スノ結果

會社ヲ無形人ト爲スト否ヤニヨリ其結果ニ大ナル差異アリ左ニ之ヲ叙述セシ

第一 會社ノ存在中ハ假令其資本全ク不動産ヨリ成立ツモ社員ノ權利ハ皆不動産タルノ權利ナリトス夫レ會社ノ資本ニシテ若シ社員ノ共有ニ歸スルモノトスルキハ其所有權タル各社員ノ掌中ニアルヲ以テ會社ノ財産不動産ナレハ隨テ社員ノ共有權モ亦タ不動産タル可シト雖モ一旦其權利ヲ移轉シテ既ニ無形人(會社)ノ所有ニ歸スル以上ハ社員ハ唯々其利益ノ配當ヲ受ケ且會社解散ノ時其資本ノ分派ヲ受クルノ二權利ヲ有スルニ過キサルナリ然ラハ則チ社員ノ權利ハ會社ニ對スル權利ナルヲ以テ所謂對人權ナルモノナリ苟モ會社ニ對シテ金圓ノ拂渡シヲ請求スル對人權ナルキハ其權利ノ不動産タル可キハ既ニ

六

七

際々タリ而シテ此權利ヲ斯ノ如ク不動産ト爲スト否ヤニ付テハ其利害得失ノ關スル所尤モ僅少ナラサルナリ既ニ諸君モ熟知セラル、如ク婦ハ夫ノ全不動産又幼者及被禁治産者ハ後見人ノ全不動産ニ付キ法律上ノ書入質權ヲ有セリ此ノ如ク不動産ニ付テハ他ノ特例アルヲ以テ社員ノ權利ヲ不動産ト爲スト不動産ト爲スニ付テハ其關係ノ及フ所同シカラス即チ其結果ノ異ナルアルヲ得テ知ルヘキナリ今マ之ヲ例スルニ妻子アル者一會社ニ加入シテ社員ト爲リ其資本トシテ不動産ヲ差入タル場合ノ如キ若シ會社ヲ無形人視セサルキハ社員ノ權利モ亦タ不動産ナルヲ以テ其妻子ハ所謂法律上ノ書入質權延テ其差入資本ニ迄及ホストヲ得可シト雖モ若シ此會社ヲ無形人ト爲スルキハ社員ノ權利皆不動産ナルヲ以テ其妻其子(但シ幼年ハ法律上ノ書入質權ヲ施行シテ會社ノ資本ヲ動ス能ハサルナリ

又タ財産ニ關スル婚姻契約ノ場合ニ於テモ亦タ其結果ノ異ナルアリ  
夫レ財産共通ノ婚姻契約ナルキハ夫婦ノ所有財産ハ不動産ヲ除クノ  
外總テ財産共通ノ中ニ算入ス可キ成規ナルヲ以テ財産共通ノ契約ニ  
依テ婚姻シタル夫カ不動産ヲ資本トシテ成立スル會社ノ社員タルア  
ラソニ會社ノ無形人ナルキハ其夫(社員)ノ會社ニ對スル權利ハ動産ナ  
ルヲ以テ固ヨリ共通財産中ニ算入ス可シト雖モ若シ會社ノ無形人ナ  
ラサルキハ夫(社員)ノ權利ハ依然不動産タル權利ナルヲ以テ共通財産  
中ニ入ラサルナリ

第二 會社ヲ無形人ト爲スルハ會社ノ財産ト社員一己ノ財産ノ間判  
然區別アルヲ以テ會社ノ財産ハ總テ會社ノ債主ノミノ抵當タルヲ尙  
ホ彼ノ民法(二千九百三十三條)ニ於テ義務者ノ財産ハ其債主ノ抵當ト見做  
スト一般ナリ故ニ社員ノ私債主ハ會社ノ財産ニ對シテ其債主權ヲ執

八

九

行スル能ハサルナリ但シ會社ノ債主ニ在テハ若シ會社ノ財産ニシテ  
不足ナルキハ社員ノ私財産ニ取掛ルヲ得可シト雖モ然レモ此場合  
ニ於テハ私債主ト同等ノ地位ニアルモノニシテ決シテ先取ノ特權ナ  
キモノトス夫レ斯ノ如ク會社ヲ無形人ト爲スルハ會社ト社員ノ權利  
自ラ區別アリト雖モ會社ヲ無形人ト爲サ、ルキハ社員ノ私財産ト會  
社財産トノ區別ナク從テ私債主ト會社債主ノ權利ニ於テモ亦タ區別  
ナシ是レ其前者ト大ニ異ナル所以ナリ

第三 會社ヲ無形人ト爲スルハ社外人ヨリ會社ニ對スル義務ト一己  
社員ニ對スル權利トヲ相殺差引スルヲ得ス例ヘハ余ニ於テ會社ニ  
對シ千圓ノ義務アルキ又其會社ノ某社員ヨリ余ニ對シ千圓ノ義務ア  
ルキハ余ハ一方ニ對シ千圓ノ負債アルモ又一方ニ對シテハ千圓ノ貸  
金アルヲ以テ之ヲ通算スレハ余ノ囊中恰モ貸借ノ關係ナキヲ以テ之

チ相殺差引スルヲ得可キカ如シト雖モ決シテ然ラサルナリ是レ會社ト社員ハ各自獨立ノモノニシテ其財產相關係セサルカ故ナリ彼ノ所謂義務ノ相殺ハ甲乙互ニ權利者タリ義務者タル場合ニ限り差引スルヲ得ルノミ故ニ會社チ無形人ト爲サ、ルモハ前者ト相反シテ會社ト社員ノ權利義務ニ區別ナキカ故會社ニ對スル余ノ借ト某社員ニ對スル千圓ノ貸ト差引シテ相殺スルヲ得ルナリ是等ノ事ハ言論上ニ於テハ格段利益ナキカ如シト雖モ義務者其義務ヲ辨償スル能ハサル場合ニ際シテハ大ニ利益アルモノナリ其詳細ニ至テハ請フ其條項ニ付テ之ヲ講述セン

第四 會社チ無形人ト爲スモハ訴訟ノ起リシ場合ニ於テ召喚狀等ヲ送達スルニ獨リ會社ノ本店又ハ支店ニ送達スレハ則チ各社員ニ箇々公達シタルト同一一般ナルヲ以テ各社員ニ對シ期滿免除ヲ中斷スルノ

十

効アリト雖モ若シ會社チ無形人ト爲サ、ルモハ社員各箇ニ對シテ送達スルニ非サレハ法ニ適セサルヲ以テ一々其手續ヲ煩サ、ル可ラサルナリ

第五 商事會社(無形人)ニシテ其支拂ヲ停止シタルモハ會社即チ無形人カ破産宣告ヲ受クルヲアリ其詳細ニ至リテハ他日ヲ待テ講述セン  
是レニテ本法ノ總論ハ全ク説了セリ請フ是ヨリ單ニ商事會社ノミニ付テ講述セン

### 商事會社

#### 第一章 會社ノ種類及ヒ其定義

商法ニテ認メタル商事會社ニ三種ノ區別アリ

第一 合名會社

第二 差金會社

商法

第三 株式會社 又無名會社

合名會社トハ二人以上協力シテ資金勞力其他有價物件ヲ集合シテ會社ノ資本トナシ社名ヲ以テ商業ヲ營ミ各自連帶シテ無限ノ責任ヲ負フモノヲ云フ

差金會社トハ責任無限ノ社員一名又ハ數名ト責任有限ノ社員一名又ハ數名ト資金勞力其他有價物件ヲ集合シ社名ヲ以テ商業ヲ營ムモノヲ云フ

株式會社トハ七人以上ノ人員ヨリ成立ツモノニシテ其資本ヲ均一ノ株式ニ分割シ且賣買授受スルヲ得ヘキ株式ヲ發行シテ株主ノ責任其株券金額ニ止マルモノヲ云フ

凡ソ法律ノ認ムル會社ハ以上陳述セシ三種ニ止レリ故ニ彼ノ共分組合ノ如キハ其組織稍々會社ニ類似シタル所アリト雖モ決シテ之ヲ會

社ト稱スル能ハス又資本増減會社ト稱スル特別ノモノアリ是レハ之レ其會社ノ資本ヲ増減スルヲ得ル便宜ノ方法ニ依ルモノナレハ只其名目ヲ異ニスルノミ其性質ハ右三種ニ異ナラサルナリ故ニ或ハ合名會社ノ組織ニ倣フモノアリ又差金會社或ハ株式會社ノ組織ニ依テ設立スルモノアリ到底右三種會社ノ範圍ヲ脱セサルナリ其詳細ハ之ヲ他日ニ讓ラン

第二章 合名會社

第一款 合名會社ノ性質

合名會社ハ已ニ定義ヲ與ヘタル如ク各社員其全財産ヲ以テ會社ノ義務ニ對シ無限ノ責任ヲ負フモノニシテ社員其人ニ依テ以テ成立スルモノナレハ之ヲ人名會社又ハ人物會社ト稱スルモ亦不可ナキナリ而シテ株式會社ハ其資本ノミニ依テ成立ツモノナレハ或ハ之ヲ資本

會社トモ稱ス可ク又差金會社ハ二種ノ社員ヨリ成立ツモノニシテ即チ人物ト資金トヲ以テ成立ツモノナレハ合名會社ト株式會社ト二箇ノ性質ヲ含有スルモノナリ

借テ合名會社ハ商業ヲ營ムコ當リ皆チ其社名ヲ以テ萬般ノ事ヲ取扱フモノトス而シテ其社名トハ原語之ヲ「レীগソ、ソシヤール」ト云フテ各社員ノ氏名又ハ氏ヲ以テ組織シタルモノナリ(第二十一條人或ハ云ハソ會社ノ營業ニ社名ヲ以テスル豈獨リ合名會社ノミニ限ランヤ他ノ二種ノ會社ト雖モ亦タ皆チ社名ヲ以テセサルナシト夫レ然リ然レモ唯タ其社名ヲ附スルニ取ル所大ニ異ナルナリ即チ合名會社ノ如キ人ニ基テ成立チタル會社ニ在テハ其社員ノ氏名又ハ氏ノミニテ社名トナシ資本ノミニ基テ成立チタル會社ニ在テハ事業ノ名目又ハ其目的ヲ表シテ社名ト爲ス猶ホ彼ノ鐵道會社活版會社又ハ運送會社ト

云フカ如シ是レ其社名ヲ用ユルノ異ナラサルモ其名ヲ取ル所ノ原因同シカラサル所以ナリ而シテ合名會社ハ其社員タル人ノ氏名ヲ以テ社名ト爲スカ故ニ若シ數名ノ社員アルモ其氏名ヲ連呼シテ社名ト爲サ、ル可ラス例ヘハ三井大丸戎屋ノ三名協同シテ創立シタル會社ナレハ三井大丸戎屋會社ト稱ス可キナリ然レモ斯ノ如ク連呼スルモ其名字長クシテ稱呼ニ便ナラサルヲ以テ之ヲ避クル爲メ只其社員中尤モ重立タルモノ、名ヲ掲ケテ或ハ三井會社大丸會社ト單稱シ餘ハ之ヲ略シテ其會社ナル文字中ニ包含セシムルナリ故ニ合名會社ニ在テハ社員ノ氏名ヨリ成リタル社名ヲ以テ營業シ株式會社ノ如キハ社員ノ氏名ニアラサル他ノ名目ヨリ成リタル社名ヲ以テ營業スルナリ蓋シ株式會社ヲ稱シテ無名會社ト云フ所以ハ唯其「レীগソ、ソシヤール」ナル社名ヲ有セサルニ職由スルモノナリ而シテ差金會社ノ

如キハ其社員ニ責任、或ハ無限ノモノアリ或ハ有限ノモノアリ其無限ノ責任ヲ負フタル社員ハ合名會社ノ社員ト同シク其責任ハ只差入タル會社ノ資本ノミニ止ラス其私有財産ニ至ルマテ連及シテ會社ノ義務ヲ擔當シ尙且他ノ無限責任ノ社員ト連帶義務ヲ負擔スルモノナレハ差金會社モ亦合名會社ト同シク「レーゾン、ソシヤール」ナル社名ヲ以テ營業スルモノナリ唯々其合名會社ト異ナル所ハ社員中公衆ニ對シテ氏名ヲ顯ハサ、ル有限責任ノ社員アル是ナリ此社員ハ唯々其差入資本ノミヲ以テ會社ノ義務ヲ負擔スルノミ

合名會社ノ社員ノ權利ヲ稱シテ持分又ハ持分高ト云フ株式會社ノ株式ト稍類似スルアリト雖<sup>アシタレ</sup>凡<sup>ア</sup>決シテ之ヲ混ス可ラス蓋シ兩ツナカラ權利ハ固ヨリ權利ナリ即チ社員ハ之ヲ以テ會社ニ對シ其利益ノ分配ヲ受ケ又會社解散ノキハ之ヲ以テ其資本ノ分配ヲ受クルヲ得ルヲ以

シテ同シカラサルナリ即チ株式ハ隨意ニ之ヲ讓授シテ其權利ニ他人ヲ代ラシムルヲ得ルモ持分ニ至テハ總社員ノ承諾ヲ受クルニ非サレハ之ヲ他人ノ手ニ移轉スルヲ得サルナリ其故如何トナレハ合名會社ハ固ヨリ人物ヲ目的トシテ組成シタルモノナルヲ以テ擅ニ之ヲ他人ニ讓渡シ從テ其人物交代スルニ至テハ會社創立ノ目的ニ背違スルヲ以テナリ然レ<sup>レ</sup>社員ニ若シ自己一人ノ力能ク其一社員タル名義ヲ保續スルニ堪ヘサルカ又ハ其他ノ都合ニ由テ副社員又ハ名代人ヲ差出サント欲スルキハ即チ之ヲ出スヲ得ルナリ但シ此名代人ハ會社ニ對シ直接ナル社員ノ權利ヲ有スルニアラス唯々其差出シタル社員ノ組合人タルニ過キサルナリ

## 第二款 合名會社ノ設立

合名會社ヲ設立スルニ付テハ公正證書又ハ私ノ證書ヲ以テ各社員ノ



合意ヲ表章セサル可ラス而ノ其公正証書ヲ以テスルハ公証人ノ面前ニ於テ契約ヲナスニ由リ公証人ノ許ニ其本書ノ存スルアルヲ以テ只ク其一本ニテ足レリトスト雖モ私ノ証書ヲ以テ契約スルハ民法第一千三百二十五條ニ記スル所ノ其權利者ノ數ニ從テ証書ヲ作ル可シトノ旨趣ニ基キ其社員ノ員數ニ應シテ証書ヲ作り各社員互ニ証書ヲ取換ハセ置カサル可カラス如何トナレハ會社契約ハ双務ノ契約ナレハ各社員相互ニ其契約ノ成立ヲ證明スルニ必要ナレハナリ然リ而シテ此設立証書ヲ認ムル所以ハ全ク會社成立ノ爲メニ要スルモノナル乎將ク會社設立ノ證據ノ爲メニ要スルモノナル乎學者中其說未タ一定セサルカ如シ然レモ過日モ講シタル如ク民事會社ニ係リテハ契約法ノ原則ニ依リ會社契約ハ社員ノ合意ノミニ由テ成立シ決シテ其成立ノ爲メニ証書ヲ認ムルヲ要セサルナリ然ラハ則チ獨リ商事會社ノ

二

三

ミ証書ヲ認ムルニ非サレハ會社ノ成立セスト云フ理ヲ發見スル能ハサルカ故ニ商事會社ノ創設ニ証書ヲ要スル所以ハ其成立ノ爲メニアラスシテ單ニ成立ノ證據ノ爲メナルノミ果シテ然ラハ未タ其証書ヲ認メサル以前ト雖モ各員ノ合意アル以上ハ其會社ハ已ニ成立シタルモノト斷定セサル可カラス然レモ其成立ハ只社員相互ノ間ニ存スルニ止マリテ社員外ノ者ニ對シテハ會社ノ契約ヲ登記シテ公然之ヲ廣告シタル以上ニ非サレハ會社成立ノ効アラサルナリ其詳細ニ至テハ他日之ヲ講述セン

### 第三款 合名會社ノ管理

合名會社ノ社員ハ各自相互ノ代理人ト看做スヲ以テ別段ノ契約アルニ非サレハ悉ク皆同等ノ權利ヲ以テ自由ニ社務ヲ支配スルヲ得可シ故ニ法律ニ從テ爲シタル取引契約ハ仮令一社員ノ獨斷ニテ爲シタ

ルモ適法ノモノナルヲ以テ其他ノ社員モ皆之ヲ遵守シテ其義務ヲ履行セサル可ラサルナリ然レモ斯ノ如ク各自ニ社務ヲ執行スルニ至テハ事業區々ニ涉リ百事齟齬シテ實際不都合ヲ醸シ遂ニ社務ノ擧カヲサル恐レアルヲ以テ社員中一人又ハ數人ヲ撰定シテ管理者ト爲シ一切ノ社務ヲ擔任セシムルヲ通例トス尤モ管理者ハ社員ノミニ限ラズ或ハ社外人ニ委任シテ之ヲ擔當セシムルモ可ナリ而シテ其管理者ヲ撰任スルニ付テハ其方法二様アリ即チ會社契約ヲ以テスルアリ又創立ノ後更ニ委任スルアリ

若シ會社契約ヲ以テ管理者ヲ撰任シタルキハ總社員ノ協議ニ依ルト雖モ之ヲ罷免スルヲ得ス何トナレハ其管理者ハ會社契約ノ一要件ナルニ由リ之ヲ罷免スルキハ其初メノ目的ニ背反スルヲ以テ會社ヲ解散セサル可ラス尤モ至重ナル原因ノ在ルアリテ裁判ノ末之ヲ罷免

四

五

スル場合ノ如キハ亦タ此例ニアラサルナリ之ニ反シテ會社創立ノ後更ニ撰任シタル管理者ハ尋常普通ノ代理人タルヲ以テ社員ノ多數決ニヨリ之ヲ更替罷免スルヲ得ルナリ

又管理者ノ權利ハ特別ニ契約ヲ以テ制限スルニ非サレハ會社ノ全權ヲ掌有スル者ニシテ即チ管理者ノ爲シタル取引契約ニ付テハ社員皆ニ連帶無限ノ責任ヲ負擔セサル可ラス是レ即チ民事會社ト其性質ヲ異ニスル一端ナリ

抑々民事會社ノ總理代人ハ單ニ事務ヲ支配スルニ止ルヲ以テ別段ノ委任ヲ受クルニ非サレハ支配事務ノ外決シテ之ヲ爲ス能ハサルナリ故ニ商事會社ノ支配人ノ權限ハ民事會社ノ支配人ニ比スルニ其ノ權利尤モ廣大ナリ但シ商事會社ノ管理者ト雖モ總社員ノ承諾ナクシテ會社ノ不動産ヲ賣却シ又ハ書入質トシ或ハ爭論事件ニ付キ和解ヲ爲

シ仲裁人ヲ撰定シ或ハ借入ヲ爲スヲ得サルナリ  
 然リ而シテ管理者ノ爲シタル行爲ニ付キ各社員ノ連帶シテ其責ニ任  
 ス可キ義務アル場合ハ第二十二條ニ云フ如ク先ツ第一ニ管理者若シ  
 各社員管理者ナルキハ其一社員ノ名義ヲ以テ爲シタル取引契約ニ係  
 ハルコ次ニ其取引契約ハ「レীগノン、ソシアール」ナル社名ヲ以テ爲シタ  
 ルコ是レナリ苟モ此ニ要件ニ適合スルモノニ非サレハ假令管理者ノ  
 爲シタル取引契約ト雖モ尙ホ各社員ハ其連帶ノ責任ヲ負フコト要セ  
 サルナリ而シテ爰ニ種々ノ問題アリ即チ左ノ如シ  
 例ヘハ管理者ニ於テ自家一己ノ私債ヲ償却スル爲メ會社ノ名義ヲ用  
 井社印ヲ使用シテ負債ヲ起シタル場合ノ如キ該會社ハ其義務ヲ負擔  
 ス可キヤ否ヤト云フニ裁判慣例ニ依レハ必ス之ヲ負擔セサル可ラサ  
 ルナリ蓋シ其取引シタル社外ノ相手方ハ只其業務担当者ノ名義ヲ信

用シ且其押捺シタル社印ヲ信認シタル者ナレハ毫モ過失アルコトナシ  
 却テ會社ニ在テハ不都合ナル管理者ヲ撰任シタルノ過失アルヲ以テ  
 其損害ハ自己粗漏ノ罪ニ歸シ取引者ニ對シテ其損害ヲ辨償セサル可  
 カラス然シテ會社ハ爲メニ被リタル損害ノ賠償ヲ其管理者ニ對シテ  
 請求スルヲ得可キノミ然レモ取引者ニ於テ其事實ヲ了知シテ故意ヲ  
 以テ爲シタルノ証左アルキハ是レ其取引者ノ自過ナルヲ以テ會社ハ  
 其義務ヲ負擔ス可キノ限リニ非サルナリ  
 又管理者若シ會社ノ爲メ自己ノ名義ヲ以テ他人ト取引ヲ爲シタル場  
 合ニ於テハ其相手方ハ會社ノ權利者タルコトヲ得ルカ將タ管理人一箇  
 ノ權利者タルニ過キササル乎ト云フニ其相手方ハ管理者一人ニ對スル  
 權利者ニシテ會社ニ對シテハ只其利益ヲ與ヘタルノ故ヲ以テ間接ニ  
 要求ヲ爲スコトヲ得ルノミ故ニ管理者ニ對シテハ直接ニ掛ルコトヲ得ル

モ會社ニ對シテハ民法第千六百六十六條ニ依リ管理者ノ位置ニ代テ間接ニ要求スルコトヲ得ルニ過キサルナリ  
又管理者ニアラサル社員ニシテ會社ノ名義ヲ以テ會社ノ爲メニ取引シタルキハ則チ民法ニ謂フ所ノ他人ノ事務管理ト云フ場合ナルヲ以テ會社ハ唯ダ己レニ利益シタル部分ノミニ付キ其責任ヲ負擔セサル可ラサルナリ

合名會社ノ規則ハ右ニテ大畧ヲ了シタリ尤モ會社契約ノ登記公告會社ノ解散精算及ヒ分派等ノコトアリト雖モ其規則ハ概テ他ノ會社ト同一ナルヲ以テ諸種ノ會社ヲ講述シタル後チ一束シテ之ヲ説明セン

### 第三章 差金會社

差金會社ニ二種アリ曰ク通常差金會社曰株式差金會社はレナリ

#### 第一款 通常差金會社

差金會社ハ前回ニ於テ已ニ畧陳セシ如ク元來無限責任及ヒ責限責任ノ兩種ノ社員ヨリ成立ツモノナリ故ニ有限責任ノ社員ニ在テハ仮令其會社ノ如何ナル損失ヲ蒙ルアルモ唯ダ其差入レタル金額ヲ損失スルニ止マリテ他ニ損耗ヲ受クルコトナシ而シテ會社ノ利益ヲ得タル場合ニ於テハ其差入金高ノ多少ニ應シテ利益ノ分配ヲ受クルカ故ニ其責任ハ有限ニシテ其得利ハ無限ト云フ可ク即チ其憂念顧慮スル所ハ至テ僅少ニシテ其利益ハ實ニ偉大ナリ夫レ斯ノ如ク差金會社ノ組織ハ極テ便利ニシテ自然人情ニ適合セリ特ニ佛朗西ノ古法ニ於テハ金錢貸借ニ利息ヲ附スルコトヲ禁シタルカ故ニ當時ノ富豪家ハ利息貸ニ引替ヘ其資本ヲ移シテ差金會社ニ差入レ以テ利益ヲ博スルコトヲ得タリ而シテ其所得ノ利益ハ恰モ貸金ノ利息ト同一ナルヲ以テ當時此輩ノ爲メニハ尤モ必要ナル感ヲ與ヘ遂ニ此會社ハ漸チ逐フテ隆盛ニ赴

ケリ且現今ニ在テモ尙ホ商人タルヲ得サル身分(官吏ノ如キ)又ハ商人ノ身分ヲ有スルヲ欲セサル者ハ此會社ニ差金シテ利益ヲ博スルヲ得ルノ便利アリ是レ管ニ彼ノ輩ノ便益ノミナラス亦タ商人(無限責任社員ヲ指ス)ニ在テモ大ニ利スル所アルナリ若シ夫レ會社ヲ結テ商業ヲ營ムニ當リ特更ニ他ヨリ資本ヲ借り入ル、モハ若干ノ利子ヲ拂ハサル可ラスト雖モ差金人(有限責任ノ社員)ノ資本ヲ以テ營業ニ用ユルモハ其金員ニ利息ヲ附セス只其所得ノ利益ヲ配當スルノミナルニ依リ創業ノ當時ニ其負担輕クノ且其危險モ大ナラサレハ實ニ相方共互ニ利益スルモノナリ故ニ此會社ハ往古ヨリ盛ニ流行スルニ至レリ

### 第一節 通常差金會社ノ性質

差金會社モ亦タ合名會社ト同シク社名レীগン、ソシアールヲ以テ營業スルモノナレハ其社名ハ必ス無限責任社員ノ氏名ヲ以テ稱セサル

十

十一

可ラス其社名ニ必ス無限責任社員ノ氏名ヲ用ユル所以ハ他ガシ之ヲ社名ト爲シテ其氏名ヲ公衆ニ示スヲ以テ公衆ハ專ラ其氏名ニ信用ヲ置テ取引ヲ爲セシニ其氏名タル若シ有限責任ノモノタルモハ世人唯々其名ニ戀着シテ其實ヲ搜テス妄リニ取引ヲ爲シ遂ニ欺カレテ意外ノ損失ヲ蒙ルノ恐レアレハナリ例ヘハ三井ノ如キ金満富豪ノ聲望高キカ故ニ三井ノ氏名ヲ以テ社名(三井物産會社)ノ如シト爲スモハ世人必ス之ヲ信用シテ大ニ取引ヲ爲サン然ルモ若シ其三井ニシテ其責任有限ナルモハ信用者ノ意想ヲ誤リ大ニ迷惑ヲ來スコアル可シ又爰ニ無限責任ヲ負フ者一名ニシテ其他ノ者ハ皆ナ有限責任ニテ差金會社ヲ組織スルヲ得ルヤ否ヤノ問題アリ第二十三條ニ依レハ有限責任ノ社員ハ會社ニ對シテハ恰モ金主ノ位地ニ居ル者ナレハ即チ一名ニテ會社ヲ設立スルト殆ト同一般ナルヲ以テ當然會社ノ名稱ヲ

冒ス能ハサルカ如シト雖正然レ正從來ノ習慣ニ依リ此無限責任一社員ノ氏名ヲ以テ社名ト爲シ以テ會社ヲ組織スルコトヲ默許セリ蓋シ此事タル往時商法編纂ノキ議院ニ於テ默許ニ附シテ可ナルノ發議アリシニ由來スルモノナリ例ヘハ三井一人ノミ無限責任ニシテ其他ノ數人ハ唯タ差金人ニテ有限責任ノ社員ナルキ三井一人ノ名ヲ以テ結合シ之ヲ三井會社ト稱スルカ如シ其會社ナル文字中通常ノ場合ト異ナリテ無限責任社員ノ氏名ヲ包含セサルモノト知ル可シ

又責任有限ノ社員ハ第二十三條ニヨリ之ヲ金主ト稱スト雖正其實眞箇ノ社員ニシテ通常金圓貸借ノ契約ニ因レル貸主トハ大ニ異ナルナリ故ニ會社ノ債主ハ其有限責任社員ヲシテ已ニ約束シタル差金ヲ差出サシムル爲メ之ニ對シテ直接ノ訴權ヲ有スルモノトス又タ無限責任社員ト有限責任社員トノ間ニ起リタル爭訟ハ亦タ同シク商事裁判

所ノ管轄ニ屬セリ又タ有限責任社員ハ通常ノ金貸主ト異ナリテ會社純益ノ配當ヲ受ケ且管理者ノ事務ヲ視察スルノ權アリ而シテ會社存續中自己ニ屬スル持分ノ取戻ヲ要求シ或ハ會社解散ノキ會社ノ債主ト共ニ其持分ヲ分派センコトヲ求ムルヲ得ス如何トナレハ其持分ハ會社ノ資本ノ一部分ニシテ會社債主ノ抵償物ナルカ故ナリ蓋シ通常ノ金主モ亦タ時トシテハ會社純益ノ配當ヲ受ク可キ約束ヲ以テ金ヲ貸附クルコトアリト雖正之レヲ以テ社員ト爲ス可カラズ如何トナレハ金主タルモノハ會社ノ損失ヲ負擔セス又會社資本ノ分派ヲ受クルコトナク又社員ノ總會議ニ參スルノ權ヲ有セサレハナリ夫レ斯ノ如ク有限責任社員ハ固ヨリ眞箇ノ社員ナリト雖正然レ正其身分ハ決シテ商人ニ非サルナリ何トナレハ商法第一條ニ明載スルカ如ク身分ヲ得ルニハ商事ヲ營ムヲ以テ常職ト爲サ、ル可ラス然ルニ

今此社員ハ唯タ資金ヲ差入レタルノミニテ敢テ會社ノ事務ニ干與スルヲ得サレハナリ其差金ヲ爲スハ是レ唯タ一時ノ商事(金ヲ差入ル也)ニシテ之ヲ常職トスルコト非サルカ故未タ商人ト稱スル能ハサルナリ

然レ凡人或ハ云ハン該社員ノ如キ實際社務ニ干與セスト雖凡現ニ資金ヲ差入レ且代員ヲシテ之ヲ管理セシムレハ自身之ヲ取扱フト同一概ナリ何ソ之ヲ非商人ト云フ可ンヤト是レ尤モ不可ナリ既已ニ諸君ノ熟知セラル、如ク會社ハ一箇獨立ノ無形人ト認メラル、モノニソ社員ト同一視ス可キモノニ非サレハ即チ其差金ハ無形人タル會社ニ差入レタルカ故ニ其凡百ノ權利義務ハ其無形人ニ於テ負有ス可キナリ然シテ其社務ハ會社自ラ管理ス可キ筈ナレ凡唯其無形人ニシテ活動スル能ハサルニ依リ社員之ヲ代理社員ノ代理ニアラス無形人タル

會社ノ代理ナリ)シテ執行スルナリ是故ニ該社員ハ直接ニ會社ノ事務ヲ管理セサルノミナラス又代理人ヲ以テ間接ニモ之ニ參與スルモノニ非サレハ決シテ之ヲ商人ト稱スル能ハサルナリ

第二節 通常差金會社ノ創立

差金會社ヲ設立スルノ方法ハ前回已ニ説述シタル合名會社ノ契約ヲ爲ス可キモノトス蓋シ公正証書ヲ用ウルキハ唯タ一通ヲ以テ足レリトスルモ私ノ証書ヲ以テ契約スルニ至テハ民法第千三百廿五條ノ規則ニ依リ必ス其社員ニ應シテ數通ヲ調製セサル可ラサルナリ

第三節 通常差金會社ノ管理

凡ソ會社ノ支配權ハ責任ヲ負擔スル者ニ屬スル是レ自然ノ條理ナリ故ニ通常差金會社ニ在テハ無限責任社員必ス其事務ヲ支配ス可キモノトス決シテ有限責任社員ヲシテ此ノ支配權ヲ掌有セシムルヲ得

サルナリ其故如何トナレハ有限責任社員ハ限リアル責任ヲ以テ限リ  
 ナキ利益ヲ僥倖セント欲スルノ危険ヲ醸スノ恐れアリ又社外ノモ  
 モ年月ヲ積ムノ久シキニ從ヒ慣習ニ由テ其有限責任社員ナルヲ忘  
 却シテ妄リニ其人ヲ信用シ遂ニ過分ノ契約ヲ爲シ爲メニ意外ノ損失  
 ナ被ムルアテシ此恐ル可キニ弊ヲ避ルノ目的ヲ以テ無限責任社員ニ  
 非サレハ支配權ヲ附與セサルモノトナセリ千八百五十六年ノ法律ニ  
 於テハ此主旨ニ基キ有限責任社員ハ毫モ會社ノ事務ニ干與スルヲ  
 嚴禁シ管ニ其番頭又ハ使用人タルヲモ許サス若シ此禁ヲ犯スルハ  
 則チ其犯者ヲシテ無限ノ責任ヲ負擔セシメ猶且犯禁已前ニ溯リテ會  
 社總体ノ義務ヲ他ノ社員ト齊シク負擔セシムルノ成規ヲ立テタリ然  
 レモ千八百六十七年ニ至テハ法律ヲ改正シテ稍之ヲ寬假セリ即チ管  
 理者ノ代人ト爲テ會社ヲ維持スルヲ依然之ヲ禁スレモ其番頭又ハ

使用人等ト爲テ其事務ヲ輔クルヲ得セシメ且其責任ニ二個ノ區別  
 ナ爲セリ

第一 有限責任社員ノ爲シタル事件ヨリ生スル義務ハ該社員必ス  
 之ヲ擔當ス可キ

第二 其事件ノ大小ト輕重トニ從ヒ該社員ヲシテ會社義務ノ全部  
 又ハ一部ヲ擔當セシムルヲ得可キ

此二種中其第一ノモノハ裁判官必ス之ヲ言渡サ、ル可ラス其第二ニ  
 至テハ全ク裁判官ノ權内ニ在テ其義務ノ全部ヲ負擔セシムルト否ト  
 ハ獨リ其意見ニ任セリ

然レモ有限責任社員ニ於テ實際會社事務ヲ支配シタルモハ其管理者  
 ノ代理委任ヲ受ケタル乎將々之ヲ受ケスシテ自ラ干涉シタルヤ否ヤ  
 ナ識別スルヲ必要トス若シ其委任ヲ受ケスシテ社務ニ干涉シタルモ



ハ全ク該員ノ過失ナルヲ以テ獨リ該員ノミ其義務ヲ負擔セサル可カ  
ラスト雖モ若シ其委任ヲ受ケテ干涉シタルニ於テハ委任者タル管理  
者モ亦該社員ト共ニ其所爲ニ付キ責任ヲ分担セサル可ラサルナリ

### 第二款 株式差金會社

此會社モ亦タ右ノ如ク差金會社ノ一種ナルヲ以テ固ヨリ其總則ハ之  
ヲ適用ス可シト雖モ其他尙ホ格段ノ規則アリテ之ヲ遵奉セサル可ラ  
ス蓋シ通常差金會社ニ在テハ弊害ヲ生スルノ憂少ナキヲ以テ各社員  
ノ自由ニ任シテ可ナリト雖モ株式差金會社ニ至テハ株券ヲ發行スル  
ノ故ヲ以テ從テ弊害モ甚ダ生シ易シ是故ニ此會社ニ對シテハ嚴重ナ  
ル特別ノ規定ヲ設ケテ以テ之ヲ支配セシムルナリ備テ是レヨリ本會  
社ノ規則ヲ講ス可キ順序ナリト雖モ該規則ノ精神ヲ容易ニ了解セン  
カ爲メ先般ニ一般株式會社ノ大體ニ付キ講述セン

## 第一節 株式會社ノ大意

### ○株主ヲ募集スル

前段既ニ講述シタル如ク合名會社ハ人ヲ根據トシテ成立ツモノナリ  
ト雖モ差金會社ハ人間ト資本ト二原素ヨリ成立モノニシテ就中株式  
差金會社ノ如キハ最モ資本ヲ主トシテ設立スルモノナリ抑モ人ニ基  
キタル會社ハ其所業タル概テ小事件ニ止リ只タ知人同志相集合シテ  
互ニ資本ヲ差入レ以テ會社ヲ結成スルモノナリト雖モ之ニ反シテ株  
式ヲ發行スル會社ニ至テハ大事業ヲ起スノ目的ニシテ其資本モ亦タ  
從テ多額ヲ要スルカ故ニ弘ク之ヲ世間ニ募ラサル可ラス即チ之ヲ募  
ルノ方法二種アリ  
其一ハ會社即チ發起人ニ於テ創立ノ主旨ヲ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ  
廣告シテ募集スルナリ

其二ハ銀行又ハ兩換店等ニ依託シテ普ク世間ニ募ルモノナリ其方法ハ先ツ其株券ヲ割引シテ銀行ニ賣附ケ銀行ニ於テハ百圓ノ株券ヲ例ヘハ九拾圓又ハ九拾五圓ノ廉價ニ買取り而シテ機ヲ見テ歩合ヲ取リ以テ之ヲ需求者ニ賣渡スアリ又タ其會社ニシテ行末隆盛ニ趣クノ見込アレハ暫ク此株券ヲ蓄置キ他日會社ノ繁盛ニ至ル可キ日ヲ俟テ株券面以上ノ價ヲ以テ賣出スアリ而シテ其株券ヲ買受クル者ニモ亦二種アリ唯タ其利益ノ配當ヲ受クルノ目的ヲ以テ之ヲ買置ク者アリ或ハ又投機商即チ相場師ノ類ノ如キハ株券ノ相場ノ高低ニ由テ莫大ノ利益ヲ博スル爲メ之ヲ買取ルアリ而シテ實際ハ相場師ノ之ヲ買取ルモノ多シトス夫レ唯タ投機ノ目的ヲ以テ之ヲ賣買スルキハ從テ其弊モ亦大ナル可キハ理ノ然ル可キ所ナリ是レ法律ノ甚タ嫌忌スル所ナリト雖モ若シ之ヲ防カントスルキハ彼ノ商業社會ニ必要スル商人

集會所モ併セテ全廢セサル可ラサルノ勢ナルヲ以テ法律ノ得テ禁ス可キ所ニ非ナルナリ今其株式發行ニ付キ行ハル、弊害ヲ畧述セシニ先ツ爰ニ一會社ヲ新設シテ株券ヲ發行スルアラハ彼ノ山師連ハ此株券ヲ悉ク買込ミ之ヲ世上ニ揚言シテ大利アリト稱シテ詐術ヲ計ルアラシ又會社ノ發起人或ハ支配人等相通謀シテ先ツ此株券ヲ買取りタル者ニ過當ノ利益ヲ分配スルアラシ然ルキハ世人皆チ其詐術ニ欺カレ一旦之ヲ妄信シ競フテ此株券ヲ買取り唯タ其後レノチ恐ル、ノ勢ニ至リ需求者ノ夥多ナルニ乘シ妄リニ價ヲ騰貴セシメ以テ之ヲ賣附クルナリ然ルニ曩キニ與ヘタル利益ハ固ヨリ會社ノ純益ニアラスシテ唯タ各自差出シタル所ノ資本中ノ幾分ヲ割與シタルモノナレハ既ニ會社ノ資本ヲ傷ケテ終ニ會社ノ身代限ヲ爲スニ至ラン其山師連ニ欺カレテ妄リニ株券ヲ買取りタル各株主ハ爲メニ意外ノ損耗ヲ蒙

ル可シ是レ往々實見スル所ノ弊害ナリ然ルニ前ニモ云フ如ク株式ノ相場ヲ實際全廢スル能ハサルノ勢アルヲ以テ唯々其弊害ヲ豫防スルハ法律ノ力ニ依ルノ外更ニ手段アラサルナリ故ニ株式ヲ發行スル會社ニ對シテハ特別ノ法律ヲ設ケ以テ嚴ニ之カ取締ヲ爲スハ亦己ムヲ得サル次第ナリ

○株式ノ均一

株式ハ必ス其券面額ノ均一ナルヲ必要トス即チ五十圓ナリ百圓ナリ又ハ二百圓ナリ必ス其一種ニ確定シ彼ノ紙幣ノ五圓アリ十圓アリ或ハ五十圓百圓アルカ如ク一會社ニシテ區々數種ノ株式ヲ發行スルヲ許サ、ルナリ而シテ株式ハ概テ會社契約ニ於テ一株ニ付キ唯々一人ノ所有者ヲ認ムルモノニシテ其實際或ハ數人ニテ一株ヲ所有スル者アルモ會社ハ其各箇ヲ所有者ト認メサルヲ相約ス故ニ一株券ヲ

有所スル者死去シテ數名ノ相續者アリト雖モ其株式數箇ニ分割シテ各々獨立シテ之ヲ相續スル能ハサルナリ實際ハ各相續人ニ於テ共有スルモ會社ニ對シテハ必ス其中一人ヲ以テ名前人ト爲スヲ例トス然リト雖モ一株券ヲ同價額ノ小札ニ二分スルハ法律ニ於テモ之ヲ認メ名ケテ小割株式ト云フ例ハ百圓ノ株式ヲ五十圓二箇ニ分割シテ發行スルカ如シ

夫レ此ノ如ク法律ヲ以テ株式ノ額ヲ均一ニセシムル所以ハ實際其利益ヲ見ルヲ僅少ナラサレハナリ即チ株式ノ賣買ハ概テ商人集會所ニ於テ之ヲ爲シ且時々其相場ヲ立ツル者ナルヲ以テ額面ノ均一ナルハ各會社株式額ニ定リアルヲ以テ唯々其會社ノ株式ハ幾干ト稱シ一言以テ其高低ヲ知ルヲ得ルカ故ニ賣買上至テ簡便ナリ又會社ニ在テモ株式ノ一樣ナルキハ之ヲ調査スルニ便ニシテ又帳簿ニ登錄スル

ニ煩シカラス況ンヤ純益ヲ配當スルニ付テハ尤モ容易ニ之ヲ爲ス  
ヲ得可シ又株主總會ニ於テ各員ノ爲シ得可キ投票ノ多寡ヲ定ムルニ  
付テモ亦タ便益ヲ受クルヲ僅少ナラス即チ各員ノ決議權ハ其所有ノ  
株數ニ依ルカ故一株ヲ有スル者ハ一箇ノ投票ヲ爲シ五株ヲ有スル者  
ハ五箇ノ投票ヲ爲スカ如ク唯々其多寡ニ準スルナリ但十株以上ヲ有  
スル者ニ付テハ會社定額ヲ以テ制限ヲ立ツルヲ許セリ

○株式ト持分トノ差違

抑人ニ基キタル會社ノ社員ノ權利ヲ持分ト云フ此權利ハ前ニ述ヘタ  
ル如ク利益ノ配當ト解社ノ其資本ノ分配ヲ受クルモノナリ又物ニ  
基キタル會社ノ社員ノ權利ヲ株式ト稱シ之ヲ証記シタル證書ヲ株券  
ト云フ此株式モ亦タ彼ノ持分ト同シク利益ノ配當ヲ受ケ又資本ノ分  
配ヲ受クルノ權利ナリ而シテ此權利ハ會社ト社員トノ關係ニ於テハ

何レモ皆會社ニ對シテ有スル債主權ニシテ動産タル權利ナリトス斯  
ノ如ク兩種會社ノ社員ノ權利ハ全ク同一ナルカ如シト雖モ其實大ニ  
異ナルモノアリ即チ

第一 持分ハ總社員ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ讓渡スヲ得ス之ヲ  
變言スレハ即チ他人ヲシテ自己ノ代員ヲラシムルヲ得サルナリ但  
シ副社員ヲ立ツル場合即チ一人ニテ負擔ノ過重ニ堪ヘ兼ヌルヨリ他  
人ヲ引入レ組合人ト爲シ二人合シテ一社員トナリ從來ノ名前ヲ用井  
以テ間接ニ義務ヲ分担シ權利ヲ共有スル場合ニ於テハ總社員ノ承諾  
ヲ受クルヲ要セサルナリ

斯ノ如ク代社員ヲ立ツルヲ禁スル所以ハ社外人ヲシテ意想外ノ損  
害ヲ蒙ラシムルノ恐レアルヲ以テナリ若シ夫レ社員中ニ有名ナル富  
豪家アルヲ見テ社外人之ヲ信用シ以テ會社ニ大金ヲ貸付ケタルアラ

ンニ此富豪家ニシテ突然其持分ヲ資力ナキ他人ニ譲渡シテ其位置ヲ更ユルコトアラハ會社債主ノ失望果シテ如何リヤ爲メニ意外ノ損毛ヲ蒙ムルアルモ亦タ未ダ豫知スル能ハサルナリ故ニ社員タルモノ決シテ他人ナシテ代社員ヲラシムルコトヲ得スト定メタルナリ然レモ成法ニ於テハ總社員ノ承諾ヲ得タルキハ其持分ヲ他人ニ譲渡スコトヲ得可シト規定セリ是レ社外人保護ノ一點ニ付キ佛法ノ未ダ完全ナラサル所ナラン歟其故如何トナレハ仮令總社員ノ承諾ヲ得ルモ會社ノ權利者ノ承諾ヲ受ケタルニ非ラサレハ前例ノ如ク富豪家其位置ヲ讓テ爲メニ社外人ナシテ損毛ヲ蒙ラシムルノ恐レナキヲ保スル能ハサレハナリ

株式ハ之ニ反シテ仮令何人ノ手ニ屬スルモ會社ニ於テハ聊カ影響ヲ感スルコトナクシテ同シク會社資本ノ一部分タルヲ失ハサルナリ蓋シ

株式ハ他人ニ讓與シテ幾度持主ヲ轉換スルモ爲メニ損毛ヲ蒙ムル者ナキノミナラス反テ會社及株主双方ノ便益ヲ受クルコトノ僅少ナラサルナリ故ニ株式ハ始メヨリ賣買讓渡ヲ爲シ得可キ性質ノモノト定メ以テ株主ナシテ隨意ニ其所有ノ株式ヲ他人ニ譲渡スコトヲ得セシメタリ而テ其讓受人ハ記名株券ノ場合ニ於テハ其記名ヲ改メ又無記名株券ノ場合ニ於テハ只タ其授受ノミニ依テ直チニ純粹ナル社員ノ資格ヲ有スルナリ

第二 持分ハ仮令總社員ノ承諾ヲ受ケテ之ヲ讓渡スルモ雖モ元來商法上ノ方法ニ依テ讓渡スコトヲ得サル性質ノモノナレハ彼ノ債主權讓渡ノ規則(民法第千六百九十條)ニ依リ買主ハ相當ノ手續ヲ以テ義務者ニ通知スルカ又ハ義務者ヨリ公正証書ヲ以テ其承諾ヲ受クルニ非サレハ讓渡シノ効力ナキモノトス株式ハ之ニ反シテ商法上ノ方法ニ依

テ以テ之ヲ賣買スルヲ得可シ即チ其株券ノ記名体ナルト命令体ナルト又無記名体ナルトノ差違ニ從ヒ或ハ之ヲ會社ノ帳簿ニ登録スルアリ或ハ裏書ノ方式ニ依ルアリ又或ハ單ニ相互ノ授受ヲ以テ其所有權ヲ移轉スルヲ得是レ之ヲ商法上賣買ノ方法ト云フ持分ハ決シテ此方法ニ依テ讓渡スルヲ得サルナリ

第三 持分ノ額ハ各箇決シテ一樣ナラスト雖モ株式ニ至テハ必ス其額ヲ一定セサル可ラス即チ一株ヲ百圓又ハ三百圓五百圓ト一定スルカ如キ是レナリ

右ノ如ク持分ト株式ト差違アル所以ハ畢竟株式會社ハ人ニ因テ成立タスシテ一ニ資本ヲ基トスルヲ以テナリ而シテ株式會社ノ社員中一人ノ死去シ或ハ治産禁ヲ受ケ或ハ身代限ト爲リタル者アリト雖モ會社ノ解散スル憂ナシ且又此會社ハ多額ノ資本ヲ募集スル甚タ容易ナ

ルヲ以テ永遠ノ大事業ヲ起スニ最モ適當セリ是レ此會社ヲ認メテ便且利ト爲ス所以ナリ而シテ株式ハ自由ニ之ヲ賣買スルヲ得可キヲ以テ若シ發起人其人ヲ得レハ容易ニ資本ヲ募集スルヲ得可キナリ蓋シ株主ハ利益ヲ圖スル爲メ時機ニ投シテ其株券ヲ賣出スルヲ得可ク又俄カニ金ヲ要スルアレハ之ヲ賣却シテ直チニ融通スルヲ得可ク若シ又直チニ之ヲ賣却スルノ不利ト思意スルモハ一時質入ト爲シテ其急ヲ濟フヲ得可シ斯ノ如ク株式ハ便益自由ナル性質ヲ具有スルカ故ニ若シ其會社ニ信用アルモハ何レモ資力アル者ハ皆チ其株式ヲ求メ以テ株主タラントチ希望スルニ至ル是其會社ノ資本ヲ募集スルノ容易ナル所以ナリ

### ○株券ノ種類

株券ハ其編製方ト讓渡ノ方法トニ由テ之ヲ三個ニ區別セリ即チ記名

株券、無記名株券、命令株券是レナリ  
 記名株券ハ所有主タル株主ノ氏名ヲ券面ニ記載シ且會社ノ帳簿ニ登  
 録スルモノナリ故ニ此株券ヲ讓渡スニハ其旨ヲ會社ニ届ケ會社帳簿  
 ノ登記ヲ改正セシメ而シテ讓受人之ニ調印スルニ非サレハ第三者ニ  
 對シテ其所有權移轉ノ効ナキモノトス  
 無記名株券ハ株主ノ氏名ヲ券面ニ記載セス且何人タリ凡之ヲ所持ス  
 ル者へ則チ其額面ノ金員ヲ拂渡ス可キモノナリ而シテ其之ヲ讓渡ス  
 ニハ單ニ相互ニ授受スルヲ以テ所有權移轉ノ効アルモノトス  
 命令株券ハ券面ニ原所有主株主ノ氏名アリ而シテ裏面ニ讓受人ノ氏  
 名ト且其差圖シタル者ニ拂フ可キ旨ヲ記載セルモノナリ例へハ爲換  
 手形、約束手形ノ如ク株券ヲ甲ヨリ乙ニ讓渡スルニハ其裏面ニ此券面  
 ノ金圓ヲ乙者又ハ乙者ノ差圖シタル者ニ渡ス可キ旨ヲ命令スル是レ

ナリ併シ此株券ヲ發行スルハ實際誠ニ稀レコシテ殆ント無シト云フ  
 モ可ナルカ如シ唯々法律ノ禁セサルヲ以テ此種ノ株券モ亦タ發行ス  
 ルヲ得可シト云フニ過キサリ夫レ然リ斯ノ如ク命令休ノ株券  
 ハ絶無ニシテ稀有ナルヲ以テ暫ク之ヲ閣キ第一第二ノ株券ニ付キ其  
 利害何レニ在ルヲ辨述セン

第一 無記名株券ハ唯々手ヨリ手へ授受スルノミコシテ讓渡ノ効ア  
 ルモ記名株券ハ之ヲ會社ノ帳簿ニ登記調印スルノ手數ヲ煩ハサ、ル  
 ヲ得サルヲ以テ此點ヨリ云フニハ無記名株券ハ特ニ便利ヲ覺ユルナ  
 リ

第二 無記名株券ハ其讓渡ノ便利ナルヲ以テ所有權移轉稅ヲ拂ハス  
 シテ密ニ幾數回モ其所有權ヲ移轉スルノ恐レアルヲ以テ實際其移轉  
 ノ有無ニ拘ハラス唯々年稅トシテ前年ノ平均相場ニ從ヒ株券ノ實價

ニ付千分ノ二ヲ會社ニ對シテ徵收スルコトニ定メリ故ニ百圓ノ株券ニシテ昨年ノ平均相場二百圓ナリシキハ四十錢ノ稅ヲ收メサル可ラス是レニ反シテ記名株券ノ讓渡ハ必ス會社ノ帳簿ニ登記スルヲ以テ其所有權ノ移轉ハ毎ニ明ニシテ秘スルコトヲ得サルカ故ニ其移轉毎ニ買買ノ實價ニ付キ千分ノ五ノ移轉稅ヲ徵收スルノ規則ナリ是レニ由テ之ヲ視レハ單ニ株券ヲ貯蓄シテ長ク其利益ノ配當ヲ目的トスル者ニ在テハ記名株券ヲ希望セリ如何トナレハ無記名株券ナルキハ已ニ年稅ノ成規アルヲ以テ事實移轉セサルモ其移轉稅ヲ徵稅セラル可シト雖モ記名株券ナレハ賣渡サ、ルキハ則チ移轉稅ヲ納ルノ要ナキヲ以テナリ之ニ反シテ株券ノ騰廉昂低ヲ見込ミ機ニ投シテ賣買シ以テ巨利ヲ得ントスル者ニ在テハ無記名株券ヲ希望セリ如何トナレハ記名株券ナルキハ則チ移轉スル毎ニ納稅セサル可ラスト雖モ

無記名ナルキハ幾數十回移轉スルモ唯タ年稅千分ノ二ヲ納ムルヲ以テ足レリトスレハナリ

第三 無記名株券ハ有形ノ動產ト看做シ記名株券ハ無形ノ動產ト看做セリ故ニ無記名株券ナレハ眞ノ所有者ニアラサル者ヨリ之ヲ買受クルモ買得者其情狀ヲ知ラサルキハ民法第二千二百七十九條ニ云フ即時期滿効ニ由テ償還ヲ促サル、ノ恐ナシト雖モ該條ノ規則ハ無形ノ動產ニ適用セサルヲ以テ記名株券ハ假令善意ニテ之ヲ買取りタルニモモセヨ即時期滿効ノ庇蔭ヲ受クルコトヲ得サルヲ以テ眞正ノ所有主ヨリ其取戻ヲ要求セラル、ノ恐レアリ右ノ如ク無記名券ヲ有形ノ動產ト看做ス所以ハ何ソヤ固ヨリ無記名株券モ亦タ株主ノ權利ヲ記シタル證書ナルヲ以テ其財產タル可キモノハ權利ニシテ其證書ハ唯タ一片ノ空紙タルニ過キサレハ則チ此株券モ亦タ無形動產部中ニ編入



セサル可カラサルカ如シ然レモ無記名券ノ性質トシテ其証書(乃チ紙)ト其紙中ニ証記シタル權利(乃チ財産)トチ分離シテ區別スルヲ得ス即チ一物一体互ニ分別スルヲ得サルモノニシテ恰モ權利ハ証書ニシテ証書ハ則チ權利ナリト云ハサル可カラス如何トナレハ彼ノ紙幣ヲ失フタル場合ノ如ク証書(株券)ヲ失ヘハ其中ニ証記アル權利モ亦タ從テ失ヘハナリ然ルニ記名株券ハ會社帳簿ニ株主其氏名ノ記載アルヲ以テ假令之ヲ失フモ其書中ニ証記シタル權利ハ失ハサルモノナリ

第四 無記名株券ハ若シ盜難等ニ罹テ之ヲ失フタルモ之ヲ搜索スル甚タ難クシテ殆ト回復ス可カラサル損失ト云ハサル可ラス蓋シ其株券ハ固ヨリ番號記號アルヲ以テ必ス發見スル能ハスト云フニ非サルモ其盜取者ヲ索出スルニ至テハ實ニ至難ナリ良シ又之ヲ索出スルモ盜取者ニ對シテ果シテ満足ナル損害賠償ヲ要求シ得可キヤ否ヤ亦

二

三

タ未ク知ル可ラサルナリ然ルニ記名株券ニ至テハ之ニ反シ決シテ斯ノ如キ損害ヲ引起スノ憂アラサルナリ

以上陳述シタル如ク記名株券ト無記名株券ノ間ニハ種々ノ差違アレモ必竟一得一失其利害相半スルモノ、如シ然レモ所有權移轉ニ付現然タル便利アルヲ以テ實際ニ於テハ無記名株券ハ最モ流行セリ但無記名株券ハ往々免カレ難キ弊害ヲ醸出スルニ依リ法律ヲ以テ特ニ之ヲ制限シ決シテ會社ノ自由ニ放任セサルナリ

### ○株主ノ權利

金圓ニ係ハル株主ノ權利ハ會社ノ利益配當ト解社ノキ其資本ノ分配ヲ受クルニアリ儲テ利益配當ヲ受クルニ二様アリ即其一ハ息銀配當ニシテ其一ハ潤益配當ナリ息銀ハ株金ノ百分ニ付キ三若クハ四ヲ附シ而シテ潤益ハ息銀ノ外會社純益ノ多寡ニ從テ之ヲ分配スルモノナ

リ故ニ息銀ハ概ネ一年兩度毎六ヶ月ニ拂出シ潤益ハ年末配當スルヲ習慣トス蓋シ息銀ハ大都株主ノ資テ以テ其生計ヲ營ム所以ノモノナレハ永ク之ヲ請取ルヲ延引スルヲ得スト雖モ潤益ハ年末總精算ヲ爲シタル上ニアラサレハ其多寡ヲ計算スルニ由ナキヲ以テ其遲速ヲ同フセサルナリ

夫レ斯ノ如ク株主タル者ハ尋常普通ノ場合ニ於テハ息銀ト潤益トヲ受クルノ權利アリト雖モ其實際ニ至テハ或ハ息銀ノミヲ得ルノ場合アリ或ハ潤益ノミヲ受クルヲアリ彼ノ鐵道會社ノ如キハ概ネ數年ノ後ニアラサレハ利潤ナキヲ以テ唯タ株券ニ對スル息銀ノミヲ配當スルアリ又之レニ反シ會社ニ於テ年々潤益ノ幾分ヲ蓄積シテ抽籤ノ方法ニ由リ追々其ノ最前差入レタル所ノ株金ヲ拂戻シ而シテ株主ニ對シテハ唯潤益ノミヲ拂フアリ蓋シ是方法ニ由レハ當籤者ハ嘗テ差入

四

五

レタル資本額ヲ受取り之ヲ他ニ活用シテ利子ヲ生セシムルヲ得ルヲ以テ固ヨリ其社員ノ資格ハ失フニ非スト雖モ二重ノ息銀ヲ受クルノ理ナケレハ會社ヨリハ唯タ其潤益ヲ得ルニ止マルノミ而シテ其息銀ト潤益ヲ併セ得可キ株式ヲ資本株式ト云ヒ其潤益ノミヲ得可キ株式ヲ收實株式ト云フ此二種ノ外又勞力株式ト稱スルモノアリ即チ會社ニ資金ヲ差入レズ唯タ自己ノ勞力ヲ差入レテ會社ノ爲メニ力役勞働スルキハ會社ヨリ其勞力ノ價直ニ適應スル株式ヲ與ヘ以テ利潤ト息銀トヲ配當スルヲアリ其勞力社員ノ有スル株式ヲ勞力株式ト云フナリ此勞力株式ハ其差入レタル資本固ヨリ勞力ナルニ依リ會社解散ノキハ自己身体ト共ニ引取り社員ノ資格ト共ニ消滅スルヲ以テ他ノ株主有價物件ヲ差入レタル者ノ資本ヲ引去タル後全ク殘餘ノ純益金ニ非サレハ會社資本ノ分配ニ與カルヲ得サルナリ又供用權ヲ差入

商法

レテ株券ヲ有スル者アリ例ヘハ自己ノ家屋ヲ呈出シ店賃ヲ受ケスシ  
テ會社ノ使用ニ供スル如キ是レナリ是レ其家屋ノ所有權又ハ收買權  
ヲ差入レタルニアラスシテ唯々之ヲ使用スル權ヲ差入レタルノミ故  
ニ此株主ノ權利モ亦々息銀ト純益ノ配當ヲ受クルニアリト雖モ勞力  
ヲ差入レタル者ト同シク會社解散ノキハ資本タル家屋ヲ自身一處ニ  
引取ルヲ以テ全ク剩餘ノ純益金ニアテサレハ資本ノ分配ヲ受クル能  
ハサルナリ

○株券ト債券トノ差違

債券トハ取モ直サス金圓借用ノ証文ニシテ彼ノ起業公債証書ノ如キ  
市府又ハ會社等ヨリ公債ヲ募リ爲メニ發行シタル負債証券ヲ云フ此  
証券ハ其体ヨリ見ルキハ殆ント株券ト相類似シ殆ト株券ト同シク亦  
タ記名体アリ無記名体アリ又命令体アルヲ以テ其状体モ相近シト雖

凡其實大ナル差違アレハ決シテ之ヲ混同スル勿レ今其差違ノ著シキ  
モノヲ左ニ掲出セン

第一 株式ハ會社資本ノ一部分ナルヲ以テ其株券ヲ所有スル者(株主)  
ハ即チ社員ナリ彼ノ債券ヲ有スル者ハ即チ社員ニアラスシテ會社ニ  
對スル權利者ナリ(會社ノ債主)

第二 株券ヲ所有スル者(株主)ハ其社ノ盛衰ニ由テ利益ノ分配ヲ受ク  
ルニ多寡異同アリト雖モ債券ヲ所有スル者(債主)ハ終始一定ノ息銀ヲ  
得可キナリ

第三 株式ハ會社資本ノ一部分ニシテ會社ノ財産ナリト雖モ負債ハ  
會社ノ借財ナルヲ以テ會社ハ義務者ニシテ債券所有者ハ會社ノ權利  
者ナリ故ニ負債者ノ財産ハ權利者一般ノ抵當ナリトノ原則ニ基キ各  
株主ノ所有スル株券(即チ會社ノ財産)ハ債券所有者ノ抵當物タル可キ

理ナリ是ヲ以テ會社解散ノ時ニ際シ債券所有者ハ株主ニ先ツテ其支拂ヲ受ク可ク其支拂ノ全ク皆濟ト爲リタル後ニアラサレハ株主ハ資本ノ分配ヲ受クルヲ得サルナリ

第四 株券ノ額面ハ會社資本ノ多寡ニ從ヒ百フランク乃至五百フランクナリ而シテ債券ノ額面ハ一定ノ慣習概チ五百フランクナリトス  
第五 株主ハ株主總會ニ參與シテ會社ノ利害ニ付キ發議投票ヲ爲スノ權アレハ債券所有者ハ唯々會社ノ債主タルノミナレハ會議ニ參與スルノ權ナキモノトス

第六 株式加入ヲ申込ミタルノ所爲ハ商事ナルヲ以テ之ニ係ハル爭論ハ商事裁判所ノ管轄ナリト雖ハ債券ヲ申込ミタルノ所爲即チ會社ニ金圓ヲ貸附タルノ所爲ハ商事ニアラサルヲ以テ之ニ關スル爭論ハ民事裁判所ノ管轄ナリトス

以上列記スル如ク株券ト債券ノ間ニ著シキ差異アルヲ以テ諸君決シテ之ヲ混同スル勿レ而シテ又債券發行ノ件ニ付キ尙ホ左ニ一言セ

抑債券ハ前ニモ陳ヘタル如ク其額面ハ概ネ五百フランクニシテ而シテ之ヲ買フ者ハ必ス其券面ノ金額ヲ出スニ非ス概ネ四百五十フランク若クハ四百七十八フランクヲ以テ券面額五百フランクノ債券ヲ買ヒ尙ホ且ツ定期ノ方法ヲ以テ之レヲ拂込ムノ慣習ナリトス例ヘハ今某ノ町ニ於テ道路修繕又ハ橋梁建築ノ爲メ額面百圓ノ債券ヲ發行シ其拂込ミ期限ハ之ヲ四期ニ分チ每期二拾二圓宛出金セシメ其既出ノ金員ニハ從テ豫約ノ利子(概ネ低利ニシテ百分ノ三乃至二半位ナリトス)ヲ附スルモノト假定セン然ルトキハ貸方即チ債券所有者ハ二拾二圓宛四回ノ拂込ミヲ爲シ都合八拾八圓ノ金圓ヲ以テ百圓ノ證書ヲ受領スルノ割合ナリ其割

引ノ差ハ時宜ニ依リ多少ノ異同アル可シト雖モ債券發行ノ方法ハ概テ此ノ如シ然ラハ則チ債券所有者ハ恰モ高利貸ノ姿ニシテ之ヲ一見一聞スルモハ彼ノ利子制限法(民事ハ百分ノ五、商事ハ百分ノ六)ノ精神ニ乖戾スルカ如シ然レモ能ク其實際ヲ探尋スルニ決シテ利子制限法ノ精神ニ乖戾スルモノニ非ラス成程八拾八圓ノ金ヲ貸附ケテ百圓ノ證書ヲ受領シ且利子ヲ受クルヲ以テ見レハ恰モ手数料ヲ前拂ヒセシメタル高利貸ノ如シト雖モ實際ヲ顧ミルモハ低利ニシテ且ツ返済ノ期限甚タ長ク二十年若クハ三十年ニ渉ルヲ以テ能ク其前後ヲ計算スレハ眞ノ利子ハ到底法律ノ制限ヲ超過スルモノニアラサルナリ然リ而シテ其券面ノ金額ヲ拂戻スニハ概チ抽籤法ヲ以テスルカ故ニ若シ一二年目ニシテ當籤シタル者ハ乃チ八拾八圓ヲ出シテ間モナクニ百圓ヲ取ルノ理ナルヲ以テ或ハ出金者ヲシテ僥倖ヲ萬一ニ釣ルノ投機心ヲ發セシムル

十

十一

モノナリ茲ニ於テ論者又曰ク利子制限法ニ背カサルハ或ハ然ラン然レモ富ヲ禁スルノ法律ニ抵觸スル勿ランヤト然レモ亦タ能ク其理ヲ搜索スルモハ敢テ法律ニ反戾スル所ナシ元來富ヲ禁スル法律ノ精神ハ公衆妄リニ僥倖ヲ萬一ニ希望シテ失敗ヲ取り終ニ家産ヲ傾クルノ恐アルヲ以テ之ヲ豫防スルノミ然ルニ此債券ニ於テハ假令當籤セスト雖モ出金者其損失ヲ蒙リ爲メニ元金ヲ耗スルノ憂アルヲシ是レ富ヲ防クノ法律ニ背カサル所以ナリ

株式ヲ發行スル會社ノ大意ハ是レニテ已ニ説キ了レルヲ以テ是レヨリ先ツ株式差金會社ニ付テ説述セン

## 第二節 株式差金會社ノ沿革

諸君ノ已ニ熟知セラル、如ク通常差金會社ハ往古ヨリ盛ニ流行セシト雖モ株式差金會社ナルモノハ漸ク近世ニ至リ商法第三十八條ヲ以

テ初テ無名會社ノ資本ノ如ク差金會社ノ資本ヲ株式ニ分ツテ許シタルニ因テ生シタルモノナリ然レ其既ニ之ヲ許スヤ此種ノ會社ヲ創設スル者漸ク輩出シテ其隆盛ニ趣クノ勢ヲ顯ハスニ及ヒ忽チ種々ノ弊害ヲ醸生シテ見ルニ忍ヒサルニ至レリ今試ニ其二三ヲ舉クレハ則チ會社ノ發起人タル者故テニ金圓ニアラサル物件ヲ差入レ偽テ不當ノ高價ヲ附シ其價直ニ相當スル株式ヲ引受ケ更ニ貴價ヲ以テ巧ミニ之ヲ他人ニ賣却スルアリ或ハ又會社ノ資本ヲ細分シテ僅々タル小額ノ株式ヲ作り而シテ邊遠僻陬ノ無資力ナル水呑百姓ヲ蠱惑誘導シ之ヲ買ハシメ以テ彼輩ノ臍操リ金ヲ失ハシムルアリ又タ或ハ會社ノ資本續々申込ミアリテ全額殆ント充ナタリト詐リ或ハ又資本ノ過半ハ既ニ會社ニ拂込ミタリト廣告シ詐僞以テ一時世人ヲ瞞着シテ其信用ヲ買フアリ又タ或ハ不充分ナル資本ヲ以テ事業ニ着手シ或ハ虛勢ヲ

張テ高ク株式ヲ賣出サント欲シ大ニ利益アルカ如ク外見ヲ飾リ其名ハ潤益ノ配當ナルモ其實或ハ資本中ヨリ之ヲ引出ス等百方僞計ヲ逞フスルカ故ニ會社ノ基礎固カラヌシテ未タ幾何ナラサルニ早已ニ混亂ヲ生シ爲メニ輕信以テ許多ノ資本ヲ差入レタル輩ヲシテ往々産ヲ失ハシムルニ至リタリキ是ヲ以テ千八百五十六年ニ當リ是等ノ弊害ヲ豫防スルノ目的ヲ以テ株式差金會社ノ爲メ尤モ嚴酷ナル法律ヲ制定セリ然レモ其弊害ノ漸ク癒ユルニ及ヒ乃チ千八百六十七年ヲ以テ新法ヲ發布シテ前法ニ代ヘタリ其法ハ前法ニ比スルニ稍寛大ナルヲ見ル是レ即チ現行法律ニシテ今マ將ニ講述セントスル所ノモノナリ故ニ株式差金會社ニ關スル規則中特ニ株式ニ係ハル諸法則ハ民法典ニモ亦タ商法典中ニモ明載セサル所ナリ

### 第三節 株式差金會社ノ性質

商法

株式差金會社モ亦々通常差金會社ノ如ク責任無限ト責任有限ノ兩種社員ヨリ成立モノナリ而シテ其有限責任社員ノ會社ニ對スル責任ハ單ニ其株券ノ金額ニ止マルヲ以テ會社ノ失敗シテ解散スル場合ニ至ルモ唯々其現ニ所有スル株券ノ古紙ニ屬シテ初志ヲ達スル能ハサルノミノナリ

又株式差金會社モ亦々通常差金會社ト同シク「レীগン、ソシアール」社名ヲ以テ取引營業スルモノナリ而シテ此社名ハ亦々同シク無限責任社員ノ氏ヲ以テ命スルモノニシテ決シテ有限責任社員ノ氏名ヲ添加スルヲ得サルモノトス若シ有限責任社員ノ氏ヲ以テ社名ト爲スキハ曾テ講述シタル如ク社外人ヲシテ不測ノ損害ヲ蒙ラシムルノ恐アルヲ以テナリ

#### 第四節 株式差金會社ノ設立

株式差金會社ヲ設立スルノ方法ハ通常差金會社ト同シク公正證書又ハ私ノ證書ヲ以テ其會社契約ヲ取結フヲ得ルナリ而シテ其私ノ證書ヲ以テスルモ新法ニ依ルキハ彼ノ合名會社及ヒ通常差金會社ノ如ク社員ノ數ニ準シテ正本數通ヲ作ルノ煩ヲ要セス只々正本二通ヲ以テ足レリトス是レ其社員ノ數概ネ許多ナルト且其社員ハ到底有限責任ト無限責任トノ二箇ニ兩分スルヲ以テナリ

是レマテ説述シタル各會社ハ唯々契約ノミニ依テ完全ニ成立スト雖凡株式差金會社ハ其成立唯々契約ノミニ以テ未タ充分セス倘ホ其他ニ種々ノ條件ヲ要スルナリ即チ

第一 會社ノ資本ハ必ス株式ニ分割セサル可カラス而シテ之ヲ分割スルノ割合ハ會社ノ資本高ニ由ルモノニシテ二十萬フランク以下ナルキハ一株ノ金額百フランクヨリ少ナカラス亦々二十萬フランク以

上ナルキハ一株ヲ金額五百フランシテ下ル可カラスト制限セリ元來  
 斯ノ如ク最下點ヲ以テ制限ヲ示シタルハ株券額面ノ寡少ナルヲ防  
 シノ旨趣ニ出タルモノナリ若シ其最下點ヲ制限セズシテ隨意ニ之ヲ  
 細分セシムルキハ前段ニ述ヘタル如ク姦商等詐術ヲ逞フシテ僅カニ  
 貨財ヲ有スル者ノ臍操リ金ヲ失ハシムルノ恐レアルカ故ニ千八百六  
 十七年ノ法律ヲ以テ此惡弊ヲ豫防シタルモノナリ

第二 會社資本ノ金額ニ付キ申込ノ濟ミタルヲ要ス例ヘハ資本十  
 萬圓ノ會社ヲ設立セントスルキハ滿十萬圓ノ申込アルコト非サレハ會  
 社ノ設立ハ完全セサルモノトス

第三 各株主ノ申込ミタル株金額ノ四分之一以上ヲ會社ニ拂込ミタル  
 ヲ要ス

抑此第二及ヒ第三條件ノ必要ナル所以ハ前述ノ如ク發起人ノ詐術ヲ

豫防スルコトアリ然レモ發起人尙ホ詐僞ヲ構ヘ未タ全額ノ申込アラサ  
 ルコ業已ニ充滿セリト云ヒ或ハ又未タ四分之一ノ拂込アラサルニ既ニ  
 拂込ミアリタリト公言スルカ如キ詐計ヲ用ルナキヤ否ヤ未タ知ル可  
 クサルヲ以テ法律ハ更ニ亦タ第四ノ條件ヲ設ケタルナリ

第四 發起人ハ資本全額ノ申込ミト其四分之一ノ拂込アリタル旨ヲ公  
 証人ノ面前ニ於テ陳述シ以テ公正証會ヲ認メシムルヲ必要トス而シ  
 テ其時發起人ハ申込人ノ人名簿、四分一拂込ノ詳細書及ヒ會社ノ設立  
 証書二通ノ内一通ヲ併セテ差出ス可キノ成規ナリ夫レ斯ノ如ク手數  
 ヲ煩ハシテ鄭重ニ鄭重ヲ盡サシムルキハ姦商モ容易ニ詐術ヲ行フ  
 ヲ得サルナラン

第五 差入物件若シ通貨ニアラスシテ土地家屋或ハ勞力等ノ如キモ  
 ノナルキハ先ツ其物品ノ價額ヲ査定スルヲ要ス次ニ一二社員ノ爲



ニ特別ノ利益若シハ報酬金ヲ約束シタルハ其高ヲ定ムルヲ要ス  
 儲テ價額及金高ハ株主總會ノ決議ヲ以テ確定スルモノトス然レモ素  
 ヨリ其價額ノ如キハ單ニ發言者ナル發起人ノ陳述ニ基ヒテ確定スル  
 モノナレハ或ハ總會カ欺カル、コナキヲ保セス即チ家屋差入コ付テ  
 ハ頗リニ其壯麗美觀ヲ過稱シ又勞力ニ付テハ其技能藝術ノ非凡ナル  
 チ譽メ以テ過當ノ價額ヲ附スルノ恐レアリ又議員(株主)ニ於テハ突然  
 ノコナレハ其實價ヲ知ルニ由ナクシテ遂ニ原案ノ儘可決スルヤモ未  
 タ知ル可カラズ故ニ此價額ハ先ツ第一總會ニ於テ豫メ之ヲ評定シ而  
 シテ若干ノ日數ヲ置キ更ニ第二ノ總會ヲ開ヒテ更ニ之ヲ認定スルモ  
 ノトセリ若シ此認定ナキハ則チ會社ハ成立セサルモノトス而シテ  
 此第二總會ノ議事ハ通常會議ノ議事ト異ナリテ總株主四分ノ一ト會  
 社資本全額ノ四分ノ一ニ當ル株主ノ多數決ニ依ルモノトス

第六 會社創立確定ノ後未タ事業ニ着手セサル前株主總會ニ於テ三  
 名以上ノ監査役ヲ株主中ヨリ撰任スルヲ要ス  
 右六箇ノ要件ニ適合シテ然後始メテ完全ナル株式差金會社ヲ創設ス  
 ルヲ得ルナリ

○株式ヲ賣買スル事

嘗テ陳ヘタル如ク株式ハ自由ニ賣買シ得可キ性質ノモノナリト雖モ  
 會社設立ノ當時ニ在リテハ總株主各々其申込ミタル株金額ノ四分一  
 ナ拂込ミタル後ニ非サレハ商法ニ於テ認メタル方法ニ依テ之ヲ賣買  
 スルヲ許サ、ルモノトス尤モ既ニ拂込ミタル金高ノ請取書ハ其拂  
 込ミ未タ四分ノ一ニ充タサル以前ト雖モ民事上ノ方法ニ依テ之ヲ賣  
 買シ又ハ讓渡スコトヲ得可シ即チ遺物相續遺囑ノ贈遺生存中ノ贈與或  
 ハ債主權讓渡ノ規則ニ從テ授受スル等ノ如キ是ナリ

○記名券ヲ無名券ニ變換スル事

商法第三十八條ヲ以テ差金會社ノ資本モ亦々無名會社ノ資本ノ如ク株式又ハ小割株式ニ分割シ且其株式ヲ無名券ニ變換スルヲ許セリ然レモ株式差金會社ニ係リテハ其記名券ヲ擅ニ無名券ニ變換セシムルキハ其弊害太ク僅少ナラサルナリ今其一ニヲ擧クレハ即チ左ノ如シ

記名券ヲ變シテ無名券ト爲ストキハ彼ノ有限責任社員ノ社務ニ關涉スルヲ禁シタル第二十八條ノ禁令ニ背馳スルモノト云フヘシ如何トナレハ若シ株式ニ記名ナキキハ其所有者ノ氏名ヲ知ラント欲スルモ容易ニ得テ知ル能ハサルカ故ニ有限責任社員ト雖モ第二十八條ノ禁令アルニ拘ラス社務ニ關涉スルヲ得ルニ至ル可シ是レ其弊害ノ一ナリ尤モ無限責任社員ニ於テ充分ノ信用ヲ保ツキハ敢テ弊害ト云フ

四

可キ程ノコトアラサルナラシカ

五

又無名券ト爲スキハ容易ニ現株主ヲ知ル能ハサルヲ以テ遂ニ株主ヲシテ株金ノ殘額ヲ拂込マシムルヲ得サルノ困難ヲ生スル恐アリ固ヨリ株式申込人ハ其約束シタル株金ノ全額ヲ拂込ム可キ義務ヲ常ニ負フ可キハ勿論ナルカ如シト雖モ然レモ無名券ニ變スル以上ハ既ニ申込人ヲシテ其株式ヲ賣買シ以テ他人ヲ會社ニ加入セシムルコトヲ許シタルモノナルカ故申込人ヲシテ或ハ其義務ヲ免カレ爾後其殘額拂込ノ責任ハ唯ク一ニ株式ノミニ屬スルモノナリトノ感覺ヲ起サシムルヤ必セリ若シ夫レ此ノ如キ主意ナルキハ則チ會社ヲシテ徒ニ資本ノ一部ヲ失ハシムルニ至ラシ例ヘハ一株百圓ノ株主ニシテ内金二十圓ヲ會社ニ差入レタル場合ニ於テ無記名ニ變更セリト假定セヨ此場合ニ於テ會社ハ現株主ヲシテ其殘額ヲ拂ハシメント欲スルモ已ニ

前株主ハ其株券ヲ他ニ賣渡シ又他ヨリ他ニ轉賣シ屢々數人ノ手ニ轉  
 轉推移シタルヲ以テ現株主ノ那所ニ在ルヲ知ルニ由ナケレハ又之ヲ  
 如何共スル能ハサルナリヨシヤ利益配當ノ期ニ至リ株券所持人其利  
 益配當ヲ得ンカ爲メ右株券ヲ會社ニ持參スルニ依リ現所持人ニ對シ  
 テ殘額拂込ミヲ請求センカ該所持人ハ素ヨリ購買者ナルヲ以テ必ス  
 之ヲ拒テ出金セサル可シ依テ會社ニ於テハ止ムヲ得ス之ヲ公賣ニ附  
 スルモ僅ニ二十圓以内ノ金圓ヲ得ルニ止ル可シ然ラハ則チ會社ノ懷  
 ニ入ルモノハ前後合シテ四十圓ニ過キス其殘額六十圓ハ減少スルヲ  
 以テ會社ノ資本ハ其一大部分ヲ失フニ至ル可キナリ加之株式申込  
 及發起人等ヲシテ偽計ヲ逞フシ虛聲ヲ張テ濫リニ株券ノ價額ヲ騰貴  
 セシメ其變動ノ間ニ不期ノ巨利ヲ占得スルノ詐術ヲ遂ケシムルニ至  
 ル是レ其弊害ノ二ナリ

夫レ斯ノ如ク弊害アルヲ以テ之ヲ防禦スル爲メ千八百五十六年ニ至  
 リ嚴酷ナル法律ヲ設定セリ即チ株券面ノ全額ヲ拂込ミタル上ニアラ  
 サレハ記名券ヲ變更シテ無名券ト爲スヲ許サス又之ヲ無名券ニ  
 變更セサル以前ニ於テ若シ此株券ヲ他人ニ讓リ渡シタルハ株式申  
 込人及各讓受人相連帶シテ株券全額拂込ノ責任ヲ負擔ス可シト定メ  
 タリ然ルニ此法律ハ唯々前述ノ如キ一時ノ弊害ヲ防カンガ爲メナル  
 チ以テ餘リ酷ニ失シ却テ一方ニ向ヒ爲メニ亦々弊害ヲ生スルニ至レ  
 リ例ヘハ爰ニ資本十萬圓ノ會社ヲ設立センニ概ス其資本ハ元來一時  
 ニ之ヲ要スルモノニ非ラスシテ遐々事業ノ隆盛ニ赴クニ從テ其全額  
 チ要スル是レ普通ノ定數ナリ然ルチ今一時ニ其全額ヲ會社ニ請取ル  
 事ハ徒ニ無用ノ金圓ヲ貯積スルノミナラス却テ株主ニ對シ利子ヲ拂  
 フノ損毛アルハ知ル可キナリ然リ而シテ會社ニ於テハ其輕便ヲ計リ

速ニ株券ヲ變更シテ無名券ニ爲サント欲スルモ右ノ法律ニ依ルキハ  
 必ス先ツ必用ナラサル所ノ株券全額ヲ一時ニ蒐集スルニ非サレハ之  
 ナ無名券ニ變スル能ハサルナリ嗚呼便且利ヲ計ラシカ損毛ヲ招クノ  
 恐レアリ損毛ヲ避ケンカ不便ヲ來スノ憂アルヲ奈何セン是レ即チ此  
 法律ノ作セル一弊害ト云フヘシ又株金拂込期限ハ會社ノ意見ニ依テ  
 定マルモノトス故ニ會社ニ於テ之ヲ定メ其拂込ノ請求ヲナサハル以  
 上ハ株主ノ會社ニ對スル負債ハ無期限ナレハ乃チ期滿免除ノ起點ナ  
 キヲ以テ到底期滿免除ニ依リ其拂込ノ義務ヲ免カル、コトヲ得サルナ  
 リ是ヲ以テ未タ拂込ノ濟マサル株券ニシテ若シ會社ヨリ其拂込ミチ  
 請求セサルニ於テハ申込人及各讓受人ハ永久其拂込ノ責ニ任セサル  
 可ラス是レ亦タ千八百五十六年ノ法律ヲ以テ各株主ヲシテ株券全額  
 拂込ノ責任ヲ負ハシメタルヨリ生スル弊害ナリ

是ヲ以テ千八百六十七年ニ至リ稍前法ノ過酷ナル點ヲ釋キ去テ更ニ  
 左ノ三條件ヲ制定セリ

第一 會社定款ヲ以テ株券變更ノコトヲ豫定スル事

第二 總株金半額以上ノ拂込アル事

第三 株主總會ニ於テ株券ノ變更ヲ可決スル事

以上三要件ノ具備スルキハ直チニ株券ヲ變更シテ無名券ト爲スコトヲ  
 得可シト制定シ是ニ於テ種々ノ弊害始テ除去スルニ至レリ就中會社  
 ナシテ資本ノ一部ヲ失ハシムルノ弊害ハ全ク消滅セリ即チ前例ニ依  
 テ之ヲ証センニ今マ一株百圓ノ株券ヲ發行シタルキ株主其半額則チ  
 金五十圓ヲ會社ニ差入レタルニ由テ之ヲ無名券ニ變更シタリト假定  
 セヨ而シテ其株主ハ之ヲ他ニ賣渡シ爾後屢轉轉シテ現時ノ所有者其  
 殘額ノ拂込ミヲ拒ムヲ以テ會社ニ於テ該株券ヲ公賣ニ附シタルモノ